平成27年度

ステージラボ

～公共ホール等企画運営ワークショップ～

事業報告書

一般財団法人　地域創造

目　　次

Ⅰ　事業概要
1　実施にあたって　…… 3
2　あらまし　…… 3
3　開催実績　…… 5
4　都道府県別参加状況　…… 9

Ⅱ　平成２７年度事業
1　事業概要　…… 13
2　参加者の属性　…… 15
3　コーディネーター・講師一覧　…… 18
4　スタッフ一覧　…… 20
5　実施日程（参加者募集～研修実施の流れ）　…… 22

Ⅲ　ステージラボ　札幌セッション
1　研修スケジュール　…… 25
2　各コースについて
(1)ホール入門コース　…… 29
(2)事業入門コース　…… 35
(3)音楽コース　…… 43
3　共通プログラム　…… 48

Ⅳ　ステージラボ　公立ホール・劇場　マネージャーコース
○　研修スケジュール　…… 51
○　公立ホール・劇場　マネージャーコース　…… 52

Ⅴ　ステージラボ　北九州セッション
1　研修スケジュール　…… 63
2　各コースについて
(1)ホール入門コース　…… 67
(2)音楽コース　…… 74
(3)演劇コース　…… 80
3　共通プログラム　…… 85

Ⅵ　参加者リスト
○　ステージラボ　札幌セッション　…… 89
○　ステージラボ　公立ホール・劇場マネージャーコース　…… 97
○　ステージラボ　北九州セッション　…… 101

Ⅰ　事業概要

１　実施にあたって

劇場・ホールの運営については、ハードウェア（施設）、ソフトウェア（活動）、ヒューマンウェア（人材、組織、職能）の 3 要素が一体不可分なものとして、相互にバランスよく結びついたものとして存在しなければなりません。

一般財団法人地域創造では、地域の公共ホール・劇場、美術館や地方公共団体で文化・芸術に携わる職員の方々を対象とする研修交流事業（※）、ステージラボ・アートミュージアムラボ（公共ホール等企画運営ワークショップ）を実施し、ソフトウェアを支えるヒューマンウェアの確立という課題面から、地域における創造的な芸術環境づくりをサポートしています。

※　地域創造で実施する研修・交流事業（終了した事業を含む）
ステージラボ・アートミュージアムラボ（公共ホール等企画運営ワークショップ）、ステージクラフト（舞台技術ワークショップ）、芸術見本市、文化政策セミナー、ステージラボ・マスターコース

平成 27 年度は、札幌セッション、北九州セッションを開催するとともに、東京・赤坂で「公立ホール・劇場　マネージャーコース」を「文化政策幹部セミナー」と同時開催しました。全国各地から 108 名の方々に参加いただき、研修を通してソフトウェアに関する諸課題の検討を進めてきました。

ヒューマンウェアをめぐる課題は、地域やホールごとに様々な形で存在しています。このため、効果的な方法論を短時間に見いだすことはなかなか困難なことではありますが、地域創造ではステージラボという研修手法を通じて、今後とも全国各地の公共ホール、劇場、美術館、地方公共団体関係者の方々と、この課題の検討を進めて行きたいと考えております。

２　あらまし

（１）事業目的

① 公共ホール・劇場、美術館や地方公共団体などの芸術環境づくりに取り組む役職員を対象とした実践的研修とネットワークの形成の場の提供

② 研修の実践を踏まえた人材育成プログラムのあり方の探求

（２）事業内容

① 運営方針

ステージラボは、地域における文化・芸術の創造拠点（アーツセンター）となる公共ホール、劇場、美術館の企画・制作や事業運営に関わる役職員を対象に、職務内容、階層に応じた実践的研修プログラムにより実施しています。

研修内容の主目的は、地域社会と文化・芸術をどうつなぐかというアートマネージメント論に立った施設運営の探求と、施設間の連携（ネットワークづくり）による効果的な芸術支援（育成）の環境を整えることにあります。

② 研修内容

公共ホール、劇場、美術館及び地方公共団体の文化・芸術に携わる職員を対象として、4 日間程度の密度の濃い集中研修とし、双方向のコミュニケーションが可能な少人数のゼミ形式で実施。

原則として、参加者の業務内容、経験度等に合わせたコース設定（1 セッション 3 コース程度）とし、ワークショップ、グループディスカッション、レクチャーコンサート、シンポジウムなどを取り入れたプログラムで構成。

③ 開催回数及び実施時期

ステージラボ：原則年度 2 回　年度の前半及び後半に各 1 回ずつ

④ 会場

全国各地の公共ホールや劇場などにおいて実施

（３）研修実施方法

ステージラボの実施方法は以下のとおりです。

① 集中ゼミの実施

3～4 日間の日程に密度の濃いカリキュラムで実施。

② 研修参加者の経験度にあわせたコース設定・プログラム構成

研修効果を高めるため、担当業務の内容、経験年数ならびに職務階層別のカリキュラム体系を編成。また、参加者の問題意識や参加ニーズは、参加応募時にアンケートを提出いただき、参加者の抱える課題に応じたゼミ内容に努めている。

③ 参加者の能動的参加を促し、双方向のコミュニケーションを導き出す

一方的な講義とならないよう、少人数形式を採用。事前課題、グループディスカッション等を用い、参加者自らの積極的な参加意識を高める。

④ 実体験に触れるプログラムの提供

ワークショップ、レクチャーコンサート等を通して、実演芸術のあり方を肌で感じる機会を設けている。

⑤ 事業体験プログラム

アートミュージアムラボでは、美術館を拠点とした地域交流プログラムや、先進的な展覧会事業など、参加者が自館での事業企画の参考とするためのケーススタディとなる「事業体験プログラム」を設けている。

⑥ 具体的な事業、運営への活用

業務遂行のための単なるノウハウ伝授の場とならぬよう、研修で得られた内容を日常業務のさまざまな場面でのヒントにしていただき、情報交流事業による情報交換、相談の場の提供などのアフターフォロー体制を敷いている。

３　開　催　実　績

【ステージラボ・アートミュージアムラボ開催実績】

年度	セッション名	開催日時	会場	参加者数	設定コース	
平成6年度	埼玉セッション	平成　６年１１月３０日 ～　　１２月　２日	彩の国さいたま 芸術劇場 （埼玉県与野市：現さいたま市）	65名	基礎コース 音楽コース 演劇ダンスコース	23 名 23 名 19 名
	宮崎セッション	平成　７年　２月２８日 ～　　３月　３日	宮崎県立芸術劇場 （宮崎県宮崎市）	56名	基礎コース 音楽コース 演劇コース	18 名 19 名 19 名
平成7年度	水戸セッション	平成　７年　６月　６日 ～　　６月１０日	水戸芸術館 （茨城県水戸市）	52名	ステージ業務入門コース ステージ創造環境コース ステージ鑑賞共感コース	21 名 12 名 19 名
	広島セッション	平成　８年　２月２７日 ～　　３月　１日	アステールプラザ （広島県広島市）	76名	基礎コース 音楽コース 演劇コース	23 名 33 名 20 名
平成8年度	盛岡セッション	平成　８年　７月　２日 ～　　７月　５日	盛岡劇場 （岩手県盛岡市）	59名	ホール事業入門コース 音楽事業コース 演劇事業コース	21 名 18 名 20 名
	福岡セッション	平成　８年１１月１９日 ～　　１１月２２日	アクロス福岡 （福岡県福岡市）	60名	基礎準備コース ホール運営Ⅰコース ホール運営Ⅱコース	17 名 22 名 21 名
平成9年度	松山セッション	平成　９年　８月　５日 ～　　８月　８日	松山市総合 コミュニティセンター （愛媛県松山市）	69名	ホールマネージャーコース ホール運営入門コース 自主事業（音楽）コース 自主事業（演劇・ダンス）コース	19 名 20 名 15 名 15 名
	世田谷セッション	平成１０年　２月１７日 ～　　２月２０日	世田谷 パブリックシアター （東京都世田谷区）	78名	ホール計画コース ホール入門コース 演劇コース 音楽コース	17 名 26 名 16 名 19 名
平成10年度	札幌セッション	平成１０年　６月２３日 ～　　６月２６日	札幌芸術の森 （北海道札幌市）	69名	ホールマネージャーコース ホール入門コース 演劇コース 音楽コース	14 名 20 名 15 名 20 名
	神戸セッション	平成１１年　２月　２日 ～　　２月　５日	神戸アートビレッジ センター （兵庫県神戸市）	69名	ホール計画コース ホール入門コース 演劇・ダンスコース 音楽コース	15 名 24 名 11 名 19 名
平成11年度	静岡セッション	平成１１年　６月２９日 ～　　７月　２日	静岡県コンベンション アーツセンター （静岡県静岡市）	66名	ホール入門コース ホール運営Ⅰコース ホール運営Ⅱコース	25 名 20 名 21 名
	高知セッション	平成１２年　２月１５日 ～　　２月１８日	高知県立美術館 （高知県高知市）	70名	ホールマネージャーコース ホール入門コース 自主事業コース 美術コース	14 名 20 名 21 名 15 名
平成12年度	金沢セッション	平成１２年　７月　４日 ～　　７月　７日	金沢市民芸術村 （石川県金沢市）	81名	ホール入門コース 演劇コース 音楽コース 美術コース	26 名 19 名 20 名 16 名
	熊本セッション	平成１３年　２月２０日 ～　　２月２３日	熊本県立劇場 （熊本県熊本市）	66名	ホール入門コース 運営基礎コース 演劇コース 音楽コース	19 名 20 名 12 名 15 名

年度	セッション名	開催日時	会場	参加者数	設定コース	
平成13年度	仙台セッション	平成１３年　７月　３日 ～　７月　６日	仙台市青年文化センター （宮城県仙台市）	65名	ホール入門コース 演劇コース 音楽コース 美術コース	23 名 13 名 18 名 11 名
	佐世保セッション	平成１４年　２月　５日 ～　２月　８日	アルカスSASEBO （長崎県佐世保市）	60名	ホールマネージャーコース ホール入門コース 演劇コース 音楽コース	17 名 22 名 9 名 12 名
平成14年度	岐阜セッション	平成１４年　６月２５日 ～　６月２８日	岐阜市文化センター （岐阜県岐阜市）	87名	ホール入門コース 自主事業入門コース 自主事業企画・制作コース ホール管理・運営コース	24 名 21 名 21 名 21 名
	大分セッション	平成１５年　２月１８日 ～　２月２１日	大分県立総合文化センター （大分県大分市）	71名	ホール入門コース 自主事業入門コース 自主事業企画・制作コース アートミュージアムラボ	23 名 20 名 16 名 12 名
平成15年度	横浜セッション	平成１５年　７月　１日 ～　７月　４日	横浜赤レンガ倉庫 １号館 （神奈川県横浜市）	88名	ホール入門コース 自主事業入門コース 自主事業企画・制作コース アートミュージアムラボ	25 名 23 名 21 名 19 名
	沖縄・佐敷セッション	平成１６年　２月　３日 ～　２月　６日	佐敷町文化センター ・シュガーホール （沖縄県佐敷町）	50名	ホール入門コース 自主事業コース 文化政策・企画コース	21 名 17 名 12 名
平成16年度	新潟セッション	平成１６年　６月２２日 ～　６月２５日	りゅーとぴあ 新潟市民芸術文化会館 （新潟県新潟市）	81名	ホール入門コース 自主事業Ⅰ（音楽）コース 自主事業Ⅱ（演劇）コース 文化政策企画・文化施設運営コース	24 名 20 名 18 名 19 名
	京都セッション	平成１７年　２月　１日 ～　２月　４日	京都芸術センター （京都府京都市）	69名	ホール入門コース 自主事業Ⅰ（演劇）コース 自主事業Ⅱ（ダンス）コース アートミュージアムラボ	23 名 13 名 17 名 16 名
平成17年度	松本セッション	平成１７年　７月　５日 ～　７月　８日	まつもと市民芸術館 （長野県松本市）	77名	ホール入門コース 自主事業Ⅰ（音楽）コース 自主事業Ⅱ（演劇）コース 文化政策企画・文化施設運営コース	25 名 14 名 18 名 20 名
	三重セッション	平成１８年　２月２１日 ～　２月２４日	三重県総合文化センター （三重県津市）	51名	ホール入門コース 自主事業Ⅰ（音楽）コース 自主事業Ⅱ（演劇）コース アートミュージアムラボ	15 名 19 名 12 名 5 名
平成18年度	長久手セッション	平成１８年　７月１１日 ～　７月１４日	長久手町文化の家 （愛知県長久手町）	65名	ホール入門コース 自主事業Ⅰ（音楽）コース 自主事業Ⅱ（演劇）コース 文化政策企画・文化施設運営コース	20 名 16 名 10 名 19 名
	高松セッション	平成１９年　２月２０日 ～　２月２３日	サンポートホール高松 （香川県高松市）	64名	ホール入門コース 自主事業Ⅰ（音楽）コース 自主事業Ⅱ（演劇）コース アートミュージアムラボ	19 名 16 名 15 名 14 名
平成19年度	鳥取セッション	平成１９年　７月１０日 ～　７月１３日	鳥取県立県民文化会館 （鳥取県鳥取市）	62名	ホール入門コース 自主事業コース 文化政策企画・文化施設運営コース	21 名 22 名 19 名
	東京セッション	平成２０年　２月　５日 ～　２月　８日	東京芸術劇場 （東京都豊島区）	65名	ホール入門コース 自主事業Ⅰ（音楽）コース 自主事業Ⅱ（ダンス）コース アートミュージアムラボ	24 名 20 名 10 名 11 名

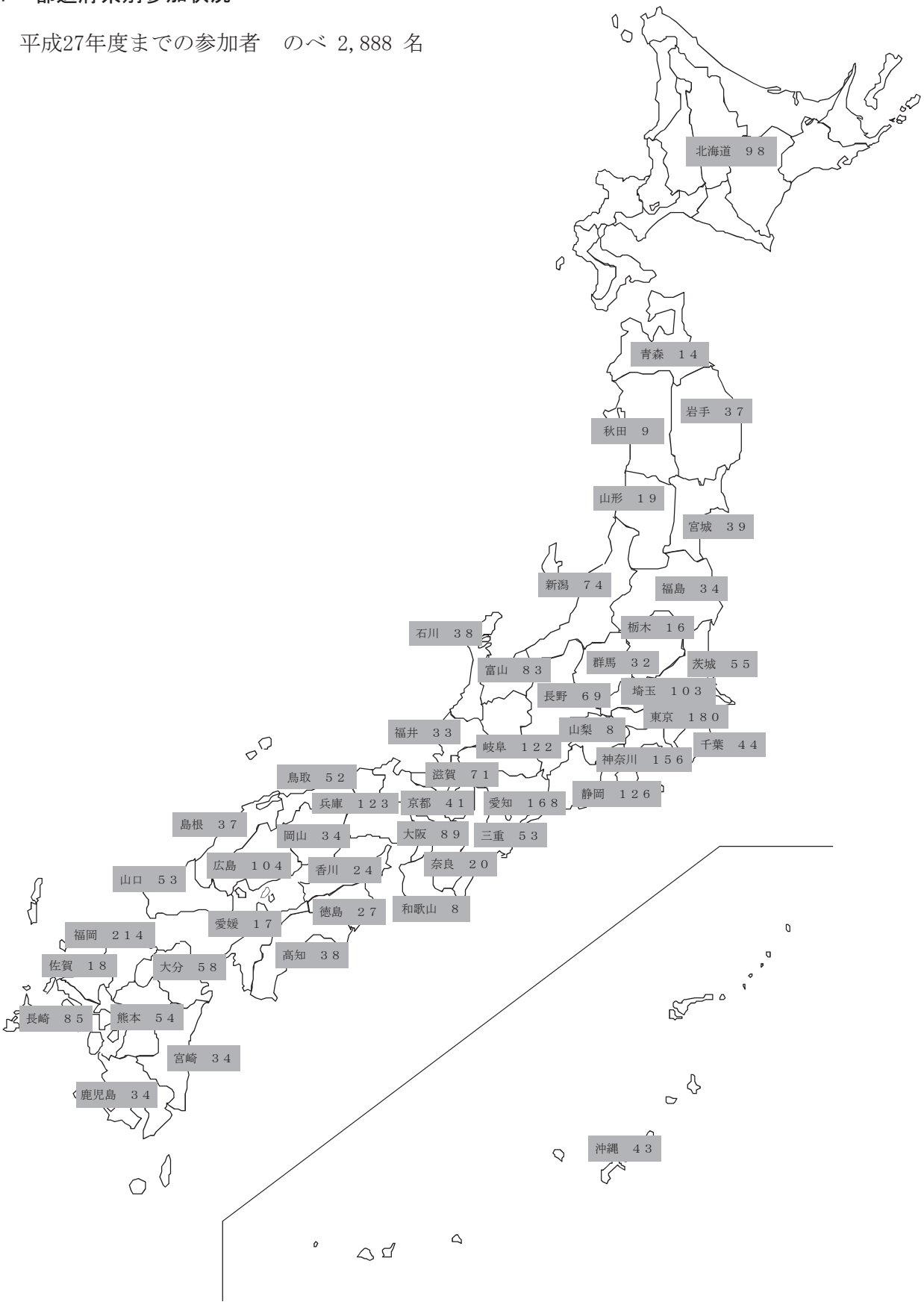
年度	セッション名	開催日時	会場	参加者数	設定コース	
平成20年度	青森セッション	平成２０年　７月１５日 ～　７月１８日	青森市文化会館、 青森県立美術館 （青森県青森市）	57名	ホール入門コース 自主事業コース 文化政策企画・文化施設運営コース アートミュージアムラボ	20 名 16 名 11 名 10 名
	徳島セッション	平成２１年　２月　３日 ～　２月　６日	徳島県郷土文化会館 (徳島県徳島市)	49名	ホール入門コース 自主事業コース 文化政策企画・文化施設運営コース	21 名 16 名 12 名
平成21年度	富山・高岡セッション	平成２１年　７月　７日 ～　７月１０日	富山県高岡文化ホール （富山県富山市）	57名	ホール入門コース 自主事業コース アートミュージアムラボ	23 名 21 名 13 名
	（東京・赤坂開催）	平成21年 9月 3日～ 5日	地域創造会議室	16名	公立ホール・劇場マネージャーコース	16 名
	鹿児島セッション	平成２２年　２月　２日 ～　２月　５日	鹿児島県文化センター (鹿児島県鹿児島市)	55名	ホール入門コース 自主事業Ⅰ（音楽）コース 自主事業Ⅱ（演劇）コース	23 名 18 名 14 名
平成22年度	群馬セッション	平成２２年　７月１５日 ～　７月１８日	群馬県民会館 （群馬県前橋市）	56名	ホール入門コース 自主事業Ⅰ（音楽）コース 自主事業Ⅱ（ダンス）コース	21 名 20 名 15 名
	（東京・赤坂開催）	平成22年10月13日～15日	地域創造会議室	16名	公立ホール・劇場マネージャーコース	16 名
	奈良セッション	平成２３年　２月　１日 ～　２月　４日	なら100年会館 (奈良県奈良市)	63名	ホール入門コース 自主事業Ⅰ（音楽）コース 自主事業Ⅱ（演劇）コース	24 名 19 名 20 名
	ｱｰﾄﾐｭｰｼﾞｱﾑﾗﾎﾞ高知ｾｯｼｮﾝ	平成23年 3月 9日～11日	高知県立美術館（高知県高知市）	17名	アートミュージアムラボ	17 名
平成23年度	（東京・赤坂開催）	平成23年10月12日～14日	地域創造会議室	18名	公立ホール・劇場マネージャーコース	18 名
	ｱｰﾄﾐｭｰｼﾞｱﾑﾗﾎﾞ埼玉ｾｯｼｮﾝ	平成23年12月7日～9日	埼玉県立近代美術館（埼玉県さいたま市）	16名	アートミュージアムラボ	16 名
	栃木セッション	平成２４年　２月２１日 ～　２月２４日	栃木県総合文化センター (栃木県宇都宮市)	53名	ホール入門コース 自主事業Ⅰ（音楽）コース 自主事業Ⅱ（ダンス）コース	21 名 20 名 12 名
平成24年度	埼玉セッション	平成２４年　７月１０日 ～　７月１３日	彩の国さいたま芸術劇場 （埼玉県さいたま市）	54名	ホール入門コース 自主事業Ⅰ（演劇）コース 自主事業Ⅱ（ダンス）コース	25 名 14 名 15 名
	（東京・赤坂開催）	平成24年10月31日～11月2日	地域創造会議室	15名	公立ホール・劇場マネージャーコース	15 名
	兵庫セッション	平成２５年　１月２９日 ～　２月　１日	兵庫県立芸術文化センター (兵庫県西宮市)	62名	ホール入門コース 自主事業Ⅰ（地域交流プログラム）コース 自主事業Ⅱ（音楽企画政策）コース	23 名 19 名 20 名
	ｱｰﾄﾐｭｰｼﾞｱﾑﾗﾎﾞ静岡ｾｯｼｮﾝ	平成25年 3月 6日～ 8日	静岡県立美術館（静岡県静岡市）	11名	アートミュージアムラボ	11 名
平成25年度	静岡セッション	平成２４年　６月２５日 ～　６月２８日	静岡県コンベンションアーツセンター グランシップ （静岡県静岡市）	60名	ホール入門コース 自主事業Ⅰ（伝統芸能）コース 自主事業Ⅱ（子ども）コース	22 名 18 名 20 名
	（東京・赤坂開催）	平成25年9月4日～ 6日	地域創造会議室	25名	公立ホール・劇場マネージャーコース	25 名
	ｱｰﾄﾐｭｰｼﾞｱﾑﾗﾎﾞ宮城ｾｯｼｮﾝ	平成25年 12月 4日～ 6日	宮城県美術館（宮城県仙台市）	8名	アートミュージアムラボ	8 名
	長崎セッション	平成２５年　２月１８日 ～　２月２１日	長崎ブリックホール （長崎県長崎市）	48名	ホール入門コース 自主事業Ⅰ（音楽）コース 自主事業Ⅱ（演劇）コース	18 名 13 名 17 名
平成26年度	新潟セッション	平成２６年　７月　１日 ～　７月　４日	りゅーとぴあ 新潟市民芸術文化会館 （新潟県新潟市）	58名	ホール入門コース 自主事業Ⅰ（音楽）コース 自主事業Ⅱ（舞台芸術）コース	21 名 22 名 15 名
	（東京・赤坂開催）	平成26年10月15日～17日	地域創造会議室	16名	公立ホール・劇場マネージャーコース	16 名
	ｱｰﾄﾐｭｰｼﾞｱﾑﾗﾎﾞ愛知ｾｯｼｮﾝ	平成27年 1月28日～30日	愛知芸術文化センター(愛知県名古屋市)	12名	アートミュージアムラボ	12 名
	広島セッション	平成２７年　２月１７日 ～　２月２０日	アステールプラザ （広島県広島市）	47名	ホール入門コース 自主事業Ⅰ（音楽）コース 自主事業Ⅱ（演劇）コース	20 名 14 名 13 名

年度	セッション名	開催日時	会場	参加者数	設定コース	
平成27年度	札幌セッション	平成２７年　７月　７日 ～　７月１０日	札幌市教育文化会館 （北海道札幌市）	43名	ホール入門コース 事業入門コース 音楽コース	17 名 10 名 16 名
	（東京・赤坂開催）	平成27年10月6日～8日	地域創造会議室	17名	公立ホール・劇場マネージャーコース	17 名
	北九州セッション	平成２８年　２月１６日 ～　２月１９日	北九州芸術劇場 （福岡県北九州市）	48名	ホール入門コース 音楽コース 演劇コース	20 名 15 名 13 名

2,888　名（北九州ｾｯｼｮﾝ終了時点での修了者）

4　都道府県別参加状況

平成27年度までの参加者　のべ 2,888 名



Ⅱ　平成２７年度事業

1 事業概要

（1）ステージラボ　札幌セッション

開催期日	平成 27 年 7 月 7 日（火）～10 日（金）
開催会場	札幌市教育文化会館 （北海道札幌市中央区北 1 条西 13 丁目）
開催体制	主催：一般財団法人地域創造 共催：札幌市、公益財団法人札幌市芸術文化財団
対 象 者	「ホール入門コース」 公立ホール・劇場（開館準備のための組織を含む）において、業務経験年数 1 年半未満（開館準備のための組織にあっては年数不問）の職員。 「事業入門コース」 自主事業を実施している公共ホール・劇場で、業務経験年数が 1～3 年程度の職員。 「音楽コース」 自主事業を実施している公立ホール・劇場で、音楽の自主事業に積極的に取り組みたいと考えている、業務経験年数が 2～3 年程度の職員。

（2）ステージラボ　公立ホール・劇場　マネージャーコース

開催期日	平成 27 年 10 月 6 日（火）～10 月 8 日（木）
開催会場	一般財団法人地域創造会議室 （東京都港区赤坂 2-9-11 オリックス赤坂 2 丁目ビル 9 階）
開催体制	主催：一般財団法人地域創造
対 象 者	主に公立ホール・劇場等において、管理職程度の職責を持つ職員（館長、事務局長、事業課長等）の方。

（３）ステージラボ　北九州セッション

開催期日	平成 28 年 2 月 16 日（火）～2 月 19 日（金）
開催会場	北九州芸術劇場 （福岡県北九州市小倉北区室町１丁目１－１）
開催体制	主催：一般財団法人地域創造 共催：北九州市、公益財団法人北九州市芸術文化振興財団
対 象 者	「ホール入門コース」 　公共ホール・劇場（開館準備のための組織を含む）において、業務経験年数１年半未満（開館準備のための組織にあっては年数不問）の職員。 「音楽コース」 　自主事業を実施している公立ホール・劇場で、音楽の自主事業に積極的に取り組みたいと考えている、業務経験年数が2～3 年程度の職員。 「演劇コース」 　自主事業を実施している公立ホール・劇場で、演劇の自主事業に積極的に取り組みたいと考えている、業務経験年数が2～3 年程度の職員。

２ 参加者の属性
（１）札幌セッション

コース名	ホール入門	事業入門	音楽	合　計
参加者数	17	10	16	43

参考：参加申込者数43名

①都道府県別

	ホール入門	事業入門	音楽	合計
北海道	2	3	2	7
青森		1		1
岩手	1			1
宮城	1			1
秋田				
山形				
福島	1			1
茨城	2		1	3
栃木				
群馬				
埼玉			1	1
千葉				
東京	2	1		3
神奈川			3	3
新潟			1	1
富山		1		1
石川				
福井				
山梨				
長野	1			1
岐阜				
静岡				
愛知	1	1	1	3
三重			1	1
滋賀				
京都				
大阪			1	1
兵庫	1			1
奈良				
和歌山				
鳥取				
島根	1			1
岡山			1	1
広島			2	2
山口				
徳島		1		1
香川				
愛媛				
高知				
福岡	2	2	1	5
佐賀				
長崎	1			1
熊本	1		1	2
大分				
宮崎				
鹿児島				
沖縄				
合計	17	10	16	43

②採用形態別

	ホール入門	事業入門	音楽	合計
公務員	7	1	1	9
指定管理者	8	7	15	30
その他	2	2		4
合計	17	10	16	43

③性別

	ホール入門	事業入門	音楽	合計
男	7	5	7	19
女	10	5	9	24
合計	17	10	16	43

④年代別

	ホール入門	事業入門	音楽	合計
２０代	7	4	8	19
３０代	6	4	5	15
４０代	4	2	3	9
５０代				
合計	17	10	16	43

（２）公立ホール・劇場マネージャーコース

コース名	マネージャーコース
参加者数	17

参考：参加申込者数18名

①都道府県別

	内訳
北海道	
青森	
岩手	
宮城	
秋田	
山形	
福島	
茨城	
栃木	
群馬	2
埼玉	1
千葉	2
東京	2
神奈川	2
新潟	
富山	
石川	
福井	
山梨	
長野	1
岐阜	
静岡	
愛知	2
三重	
滋賀	
京都	
大阪	1
兵庫	
奈良	1
和歌山	
鳥取	1
島根	
岡山	1
広島	
山口	
徳島	1
香川	
愛媛	
高知	
福岡	
佐賀	
長崎	
熊本	
大分	
宮崎	
鹿児島	
沖縄	
合計	17

②採用形態別

	内訳
公務員	3
プロパー	14
その他	
合計	17

③性別

	内訳
男	13
女	4
合計	17

④年代別

	内訳
２０代	
３０代	
４０代	9
５０代	7
６０代	1
合計	17

（３）北九州セッション

コース名	ホール入門	自主事業Ⅰ（音楽）	自主事業Ⅱ（演劇）	合　計
参加者数	20	15	13	48

参考：参加申込者数51名

①都道府県別

	入門	自主事業Ⅰ	自主事業Ⅱ	合計
北海道	1		1	2
青森				
岩手				
宮城		1		1
秋田				
山形				
福島		1		1
茨城	1			1
栃木				
群馬				
埼玉				
千葉		1	1	2
東京	1		1	2
神奈川		1		1
新潟	1		1	2
富山				
石川	1			1
福井				
山梨				
長野				
岐阜	1			1
静岡	2			2
愛知		1		1
三重	2		1	3
滋賀				
京都	1			1
大阪				
兵庫	2		2	4
奈良				
和歌山				
鳥取	1			1
島根		1		1
岡山				
広島	1	2	1	4
山口			1	1
徳島	1			1
香川				
愛媛				
高知			1	1
福岡	4	4	3	11
佐賀		1		1
長崎				
熊本		1		1
大分				
宮崎		1		1
鹿児島				
沖縄				
合計	20	15	13	48

②採用形態別

	入門	自主事業Ⅰ	自主事業Ⅱ	合計
公務員	3	5		8
指定管理者	15	9	11	35
その他	2	1	2	5
合計	20	15	13	48

③性別

	入門	自主事業Ⅰ	自主事業Ⅱ	合計
男	8	7	4	19
女	12	8	9	29
合計	20	15	13	48

④年代別

	入門	自主事業Ⅰ	自主事業Ⅱ	合計
１０代	2			2
２０代	9	6	5	20
３０代	8	8	5	21
４０代	1	1	3	5
５０代				
合計	20	15	13	48

３　コーディネーター・講師一覧

（１）ステージラボ　札幌セッション

【コーディネーター】

○ホール入門コース

大澤　寅雄（株式会社ニッセイ基礎研究所 芸術文化プロジェクト室　准主任研究員）

○事業入門コース

佐東　範一（NPO 法人ジャパン・コンテンポラリーダンス・ネットワーク　代表）

○音楽コース

児玉　　真（いわき芸術文化交流館アリオス　チーフ　プログラム　オフィサー／一般財団法人地域創造　プロデューサー）

【講師】

○ホール入門コース

津村　　卓（上田市交流文化芸術センター　館長／一般財団法人地域創造　プロデューサー）
坂口　大洋（仙台高等専門学校　建築デザイン学科　教授）
小岩秀太郎（舞川鹿子躍保存会／東京鹿踊）
野村　　誠（作曲家）
隅地　茉歩（セレノグラフィカ）
阿比留修一（セレノグラフィカ）
荻原　康子（公益社団法人企業メセナ協議会　事務局長）
鬼木　和浩（横浜市文化観光局　文化振興課　主任調査員）
小田井真美（さっぽろ天神山アートスタジオ　AIR ディレクター）
漆　　崇博（AIS プランニング　代表理事）

○事業入門コース

隅地　茉歩（セレノグラフィカ）
阿比留修一（セレノグラフィカ）
斎藤　ちず（NPO 法人コンカリーニョ　代表）
荻原　康子（公益社団法人企業メセナ協議会　事務局長）
小岩秀太郎（舞川鹿子躍保存会／東京鹿踊）
野村　　誠（作曲家）

○音楽コース

野村　　誠（作曲家）
柿塚　拓真（日本センチュリー交響楽団　マネージャー）
内藤　裕敬（劇作家・演出家／南河内万歳一座　座長）
中　彩香能（三味線奏者）
河野　　紫（三味線奏者）
箕口　一美（サントリーホール企画制作部グローバル活動推進プロジェクトコーディネーター）

○共通プログラム

大塚　　黒（sapporo6h）
服部　亮太（sapporo6h）
桑原　和彦（札幌市教育文化会館）

桐田　　郁（公益財団法人札幌市芸術文化財団）

（２）ステージラボ　公立ホール・劇場　マネージャーコース

【コーディネーター】

桑田　哲男（杉並区立杉並芸術会館「座・高円寺」　館長）

【講師】

松浦　茂之（公益財団法人三重県文化振興事業団　三重県文化会館　事業課長）
松本　茂章（公立大学法人静岡文化芸術大学　文化政策学部／大学院文化政策研究科　教授）
曽田　修司（跡見学園女子大学　マネジメント学部マネジメント学科　教授）
岸　　正人（豊島区立舞台芸術交流センター「あうるすぽっと」　支配人）※
大村　未菜（サントリーパブリシティサービス株式会社　取締役）※
三好　勝則（アーツカウンシル東京　機構長）※
園部　俊児（ビジネス・パワーコンサルティング代表／社会保険労務士）※
※「文化政策幹部セミナー」との合同ゼミ

（３）ステージラボ　北九州セッション

【コーディネーター】

〇ホール入門コース

能祖　將夫（北九州芸術劇場　プロデューサー／桜美林大学　教授）

〇音楽コース

仲道　郁代（ピアニスト／地域創造　理事）

〇演劇コース

内藤　裕敬（劇作家・演出家／南河内万歳一座　座長）

【講師】

〇ホール入門コース

白石　光隆（ピアニスト）
井上　大輔（ダンサー）
藤井　友美（ダンサー）

〇音楽コース

小澤　櫻作（上田市交流文化芸術センター　音楽プロデューサー）
津村　　卓（上田市交流文化芸術センター　館長／一般財団法人地域創造　プロデューサー）
内藤　裕敬（劇作家・演出家／南河内万歳一座　座長）
水谷　浩章（株式会社ヤマハミュージック・ジャパン）
苅宿　俊文（青山学院大学　教授）

〇演劇コース

仲道　郁代（ピアニスト／地域創造　理事）

寺田　剛史（劇作家・俳優）
鵜飼　秋子（劇作家・俳優）
穴迫　信一（劇作家・俳優）
藤本　瑞樹（劇作家・俳優）
津村　　卓（上田市交流文化芸術センター　館長／一般財団法人地域創造　プロデューサー）

〇共通プログラム

北村　茂美（ダンサー）
今村　貴子（ダンサー）

4　スタッフ一覧

（1）ステージラボ　札幌セッション

〇一般財団法人地域創造
佐倉　　誠（企画課長）
津村　　卓（上田市交流文化芸術センター　館長／一般財団法人地域創造　プロデューサー）

宇野加奈子、清宮　寛子、角南　晴久、栗林　礼也、水上　俊秀（事務局）
中澤　雅子（ホール入門コース）
加藤　祐二（事業入門コース）
下川　華奈（音楽コース）

〇札幌市教育文化会館
山田　修市、細江　快広、橋本　博昭、森脇　優介、新庄　文枝（事務局）
木村　真彩（ホール入門コース）
櫛引　彩乃（事業入門コース）
最上　達也（音楽コース）

（2）ステージラボ　公立ホール・劇場 マネージャーコース

〇一般財団法人地域創造
田中　敦仁（事務局長）
佐倉　　誠（企画課長）
津村　　卓（上田市交流文化芸術センター　館長／一般財団法人地域創造　プロデューサー）

宇野加奈子（芸術環境部）
角南　晴久（芸術環境部）
清宮　寛子（芸術環境部）
湯澤　智美（総務部）

（３）ステージラボ　北九州セッション

〇一般財団法人地域創造

田中　敦仁（事務局長）

佐倉　　誠（企画課長）

清宮　寛子、宇野加奈子、角南　晴久、水上　俊秀（事務局）

都留　　誠（ホール入門コース）

阿比留ひろみ（音楽コース）

江口　隆志（演劇コース）

〇北九州芸術劇場

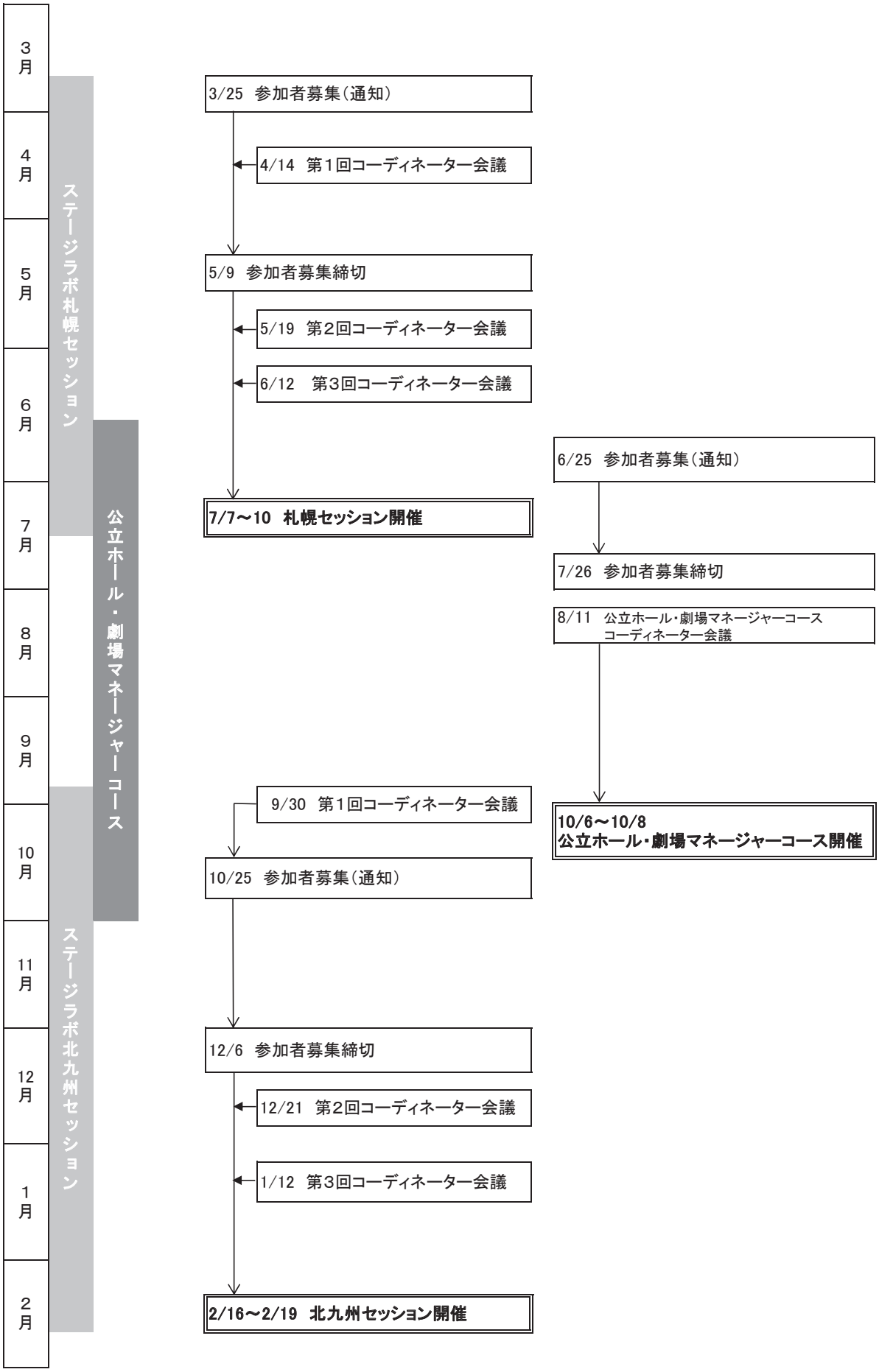
佐藤　友法、龍　亜希、安元　千恵、西中　都子（事務局）

加賀田浩二（ホール入門コース）

大橋　由貴、一田佳栄子（音楽コース）

吉松　寛子（演劇コース）

5 実施日程（参加者募集～研修実施の流れ）



Ⅲ　ステージラボ

札幌セッション

■7月7日（火） 第1日

【研修スケジュール】

	ホール入門コース	事業入門コース	音楽コース
	コーディネーター 大澤　寅雄 株式会社ニッセイ基礎研究所 芸術文化プロジェクト室 准主任研究員	コーディネーター 佐東　範一 NPO法人ジャパン・コンテンポラリーダンス・ネットワーク 代表	コーディネーター 児玉　真 いわき芸術文化交流館アリオス　チーフ プログラムオフィサー/ 地域創造　プロデューサー
主会場	研修室305（3階）	研修室302（3階）	研修室301（3階）
9:00			
10:00			
11:00			
12:00			
13:00			
14:00	13:30　受付		
	14:00 開講式・オリエンテーション／施設見学等 会場：小ホール（1階）		
15:00			
16:00	15:00 ゼミ1「ワークショップ：畑のように自分の地域の文化を眺めてみよう」 講師：大澤寅雄 会場：研修室403	15:00 ゼミ1「自己紹介—まずは言葉を使わず—」 講師：佐東範一、 セレノグラフィカ（隅地茉歩、阿比留修一） 会場：研修室401	15:00 ゼミ1「自己紹介とコミュニケーション」 講師：児玉真 会場：研修室301
17:00			
18:00	休憩（30分程度）	休憩（30分程度）	休憩（30分程度）
19:00	18:30～20:00 全体交流会 会場：研修室305（3階）		
20:00			
21:00			
22:00			

■7月8日（水） 第2日

【研修スケジュール】

	ホール入門コース	事業入門コース	音楽コース
	コーディネーター 大澤　寅雄 株式会社ニッセイ基礎研究所 芸術文化プロジェクト室 准主任研究員	コーディネーター 佐東　範一 NPO法人ジャパン・コンテンポラリーダンス・ネットワーク 代表	コーディネーター 児玉　真 いわき芸術文化交流館アリオス　チーフ プログラムオフィサー／ 地域創造　プロデューサー
主会場	研修室305（3階）	研修室302（3階）	研修室301（3階）
9:00			
10:00	9:30 ゼミ2「公立文化施設を取り巻く現状とこれからの課題」 講師：大澤寅雄 会場：研修室305	9:30 ゼミ2「アートNPOとは、なんぞや？」 講師：斎藤ちず（NPO法人コンカリーニョ　代表） 会場：研修室302	9:30 ゼミ2「アウトリーチとワークショップ」 講師：児玉真 会場：研修室301
11:00			休憩（15分程度） 11:00 セミ3「ワークショップとは何か」 講師：野村誠（作曲家） 会場：研修室301
12:00	昼食		
13:00	13:00 ゼミ3「公立文化施設の貸館事業の可能性を考える」 講師：津村卓(地域創造プロデューサー／上田市交流文化芸術センター　館長） 会場：研修室305	13:00 ゼミ3「企業メセナとは、なんぞや？」 講師：荻原康子（公益社団法人企業メセナ協議会 事務局長） 会場：研修室302	13:00 ゼミ4「野村誠のワークショップ1」 講師：野村誠 会場：小ホール
14:00			
15:00	休憩（15分程度）	休憩（15分程度）	休憩（15分程度）
16:00	15:15 ゼミ4「公立文化施設は、311で何が変わり、何が変わらないのか」 講師：坂口大洋（仙台高等専門学校 建築デザイン学科　教授） 会場：研修室305	15:15 ゼミ4「ダンスって、自分で創れるの？」 講師：セレノグラフィカ（隅地、阿比留） 会場：研修室401	15:15 ゼミ5「野村誠のワークショップ2」 講師：野村誠 会場：小ホール
17:00	休憩（30分程度）	休憩（30分程度）	休憩（30分程度）
18:00	17:45～20:15 共通プログラム 講師：大塚黒、服部亮太（sapporo6h）、桑原和彦（札幌市教育文化会館　事業係） 進行：細江快広（札幌市教育文化会館　事業係長） 会場：研修室403（4階）		
19:00			
20:00			
21:00			
22:00			

■7月9日（木） 第3日

【研修スケジュール】

	ホール入門コース	事業入門コース	音楽コース
	コーディネーター 大澤　寅雄 株式会社ニッセイ基礎研究所 芸術文化プロジェクト室 准主任研究員	コーディネーター 佐東　範一 NPO法人ジャパン・コンテンポラリーダンス・ネットワーク 代表	コーディネーター 児玉　真 いわき芸術文化交流館アリオス　チーフ プログラムオフィサー/ 地域創造　プロデューサー
主会場	研修室305（3階）	研修室302（3階）	研修室301（3階）
9:00			
10:00	9:30 ゼミ5「鹿踊ワークショップ」 講師：小岩秀太郎（舞川鹿子躍保存会／東京鹿踊） 会場：小ホール		9:30 ゼミ6「日本センチュリーの挑戦」 講師：柿塚拓真（日本センチュリー交響楽団マネージャー） 会場：研修室301
11:00			休憩（5分程度） 11:20 ゼミ7「ワークショップのまとめと振り返り」 講師：柿塚拓真、野村誠 会場：研修室301
12:00	昼食・休憩		昼食・休憩
13:00	13:00 ゼミ6「日本の郷土芸能についての対話」 講師：小岩秀太郎、野村誠、 セレノグラフィカ（隅地、阿比留）、荻原康子 会場：小ホール		13:30 ゼミ8「聴くワークショップを体験する」 講師：内藤裕敬（南河内万歳一座　座長）、中彩香能（三味線奏者）、河野紫（三味線奏者） 会場：研修室301
14:00			
15:00	休憩（15分程度）	休憩（15分程度）	休憩（15分程度）
16:00	15:15 ゼミ7「地方自治体の文化行政を徹底分解する」 講師：鬼木和浩（横浜市文化観光局文化振興課　主任調査員） 会場：札幌市資料館　SIAFプロジェクトルーム	15:15 ゼミ7「自分のダンスを、より深めてみよう」 講師：セレノグラフィカ（隅地、阿比留） 会場：小ホール	15:30 ゼミ9「マイク・スペンサーの成果と課題」 講師：箕口一美（サントリーホール　企画制作部グローバル活動推進プロジェクトコーディネーター） 会場：研修室301
17:00	休憩（15分程度）	休憩（15分程度）	休憩（15分程度）
18:00	17:30 ゼミ8「ワークショップ：札幌の文化の生態系イメージを描いてみよう」 講師：小田井真美（さっぽろ天神山アートスタジオ　AIRディレクター）、漆崇博（AISプランニング　代表理事） 会場：札幌市資料館　SIAFプロジェクトルーム	17:30 ゼミ8「ダンスを人にみせてみる」 講師：セレノグラフィカ（隅地、阿比留） 会場：小ホール	17:30 ゼミ10「ワークショップで何ができるか（グループワーク）1」 講師：児玉真、箕口一美 会場：研修室301
19:00			
20:00			
21:00			

■7月10日（金） 第4日

【研修スケジュール】

	ホール入門コース	事業入門コース	音楽コース
	コーディネーター 大澤　寅雄 株式会社ニッセイ基礎研究所 芸術文化プロジェクト室 准主任研究員	コーディネーター 佐東　範一 NPO法人ジャパン・コンテンポラリーダンス・ネットワーク 代表	コーディネーター 児玉　真 いわき芸術文化交流館アリオス　チーフ プログラムオフィサー／ 地域創造　プロデューサー
主会場	研修室305（3階）	研修室302（3階）	研修室301（3階）
9:00			
10:00 11:00	9:30 ゼミ9「ワークショップ：自分の地域とホールの文化生態系マップを書いてみる」 講師：大澤寅雄 会場：研修室305	9:30 ゼミ9「ダンスの企画を考える」 講師：佐東範一 会場：研修室302	9:30 ゼミ11「「ワークショップで何ができるか」（グループワーク）2」 講師：児玉真、箕口一美 会場：研修室301
12:00 13:00	昼食・休憩	昼食・休憩	昼食・休憩
14:00	13:00 ゼミ10「プレゼンテーション：私のまちの文化生態系と私の役割」 講師：大澤寅雄 会場：研修室305	13:00 ゼミ10「企画の発表＋振り返り」 講師：佐東範一 会場：研修室302	13:00 ゼミ12「プランの発表とその先に向けて」 講師：児玉真、箕口一美 会場：研修室301
15:00	14:30 アンケート記入・休憩・移動	14:30 アンケート記入・休憩・移動	14:30 アンケート記入・休憩・移動
16:00	15:00 修了式 会場：小ホール（1階）		
17:00 18:00 19:00 20:00 21:00 22:00			

２　各コースについて

（１）　ホール入門コース

①総　評

コーディネーター　大澤　寅雄

過去に数回、ゲスト講師としてお手伝いしたことがあるステージラボで、コーディネーターという大役を仰せつかったのは今回が初めてで、実際のところ、私自身が非常に勉強させていただいた。

地域の公立文化施設に求められる役割は、近年、ますます多様化している。文化・芸術の鑑賞機会の提供や文化活動の発表の場の提供のみならず、教育、福祉、まちづくりといった領域にも目を向けた多様な取り組みが、各地で展開されている。そうした中で、公立文化施設の職員は、芸術関係者、文化団体、観客、利用者だけではなく、様々な人と向き合うことになる。そこで、公立文化施設では、どのような人と、どのような関係を紡いでいくのか。職員は、どのような役割を担うのか。を紐解いていった。

ホール入門コースでは、この公立文化施設が紡ぐべき「関係」と、そこでの「役割」に向き合っていくために、「生態系」というイメージを持つことから始めた。例えば、劇場やホールを「畑」になぞらえて、土を耕し、種を蒔き、水や肥料を与え、花を咲かせて実を収穫し、翌年の種を準備する、といった作業が行われている。そこで、自分は畑を耕す人なのか、種を蒔く人なのか、それとも収穫する人なのか。周辺の農家とどのように付き合い、畑に集まる昆虫や鳥や動物とどんな風に向き合っているのか。そんなイメージを膨らませてみたいと考えたのが、今回の着想だった。

抽象的な比喩やイメージに終わらせないために、第一線で活動するゲストの講師から、調査研究、先進事例、現場での経験などをご紹介いただいた。また、会議室と机を離れて郷土芸能のワークショップを行い、他の参加者と共に体を動かし、参加者相互や講師との対話を行った。こうした講師から提供していただいた講義やワークショップが、現在進行形の、あるいは将来を見据えた視点での、極めて充実した内容だった。これは、講師陣の豊かな実績によるところが大きいことは言うまでもないが、所属先の勤務経験が１年半以内という条件を忘れるほどの、参加者各自のモチベーションの高さや情報や経験の吸収意欲の高さが、予想以上の充実した講義につながったと思う。

一方、４日間という限られた時間の中では、参加者各自が何らかの疑問を即解決できることや、すぐに現場に持ち帰れるようなノウハウを身に付けるようなことは、ほとんどないと言っていいだろう。この４日間で吸収した、相当な量の知識、情報、経験は、すぐに消化できるものではない。今回のテーマに引き寄せて言えば、水や養分を得たとしても、すぐに芽が伸びて花が咲くわけではないし、すぐに土壌が改良されるわけでもない。微生物やバクテリアが土の中で分解するには、時間がかかるものだ。だから、改めて自分の現場に戻ってから、少しずつ分解し、自分自身が変化しつつ、自分が根を下ろす場所から少しずつ変えていくことが重要だと思う。

私自身が、コーディネーターという役割を務めさせていただいたおかげで、時間をかけてゆっくりと分解するための新しい水と養分を、たくさん得ることができたことを、心から感謝している。最後になったが、こうした機会を与えていただいた一般財団法人地域創造と、事前から事後に至るまでの長期間のステージラボの運営の中で、経験不足の私をサポートしていただいた地域創造の職員の皆様、札幌での充実した４日間を快適に過ごさせてくれた札幌市教育文化会館の皆様に感謝したい。

そして、ホール入門コースの参加者の皆様との出会いを、今も本当に感謝している。今から数年後、あるいは十数年後、数十年後、この札幌での出会いが、どのような地域文化の生態系の変化につながることになるのだろうか。ぜひ、また皆さんと再会して、再び語り合う機会が訪れることを祈っている。

②ゼミ記録

ー第１日ー　７月７日（火）

ゼミ１　「ワークショップ：畑のように自分の地域の文化を眺めてみよう」

講　師：　大澤　寅雄

最初のゼミでは、参加者全員がお互いの顔と名前を覚えるため、地域や世代によって順番を並び替えるワークショップを行った。その後、参加者各自が事前に与えた課題で、自分自身が地域文化に対して「水・土・光・風」のどの役割を担っているのかを内省し、入門コースでテーマとしている「地域文化の生態系」について、自然界の生態系になぞらえながらイメージを共有した。また、夜の全体交流会に向けた宴会芸「狂言ラジオ体操」の練習を行った。この体操の練習を通じて、参加者相互の関係が親密になり、入門コースの一体感が形成されたように思う。

ー第２日ー　７月８日（水）

ゼミ２　「公立文化施設を取り巻く現状とこれからの課題」

講　師：　大澤　寅雄

「文化政策・メセナの歴史を振り返る」、「時代を牽引した公共ホール」、「公共ホールのキーワードと用例」、「公共ホールの“これから”」という４つのトピックスについて、講義を行った。ここで講師自身が気付いたことは、参加者の多くが過去の地域創造大賞の受賞施設のスタッフであることだ。勤務開始から１年半以下である入門コースの参加者は、自分が所属する施設がどのような評価を獲得しているのかを再確認し、他の施設の特長から、様々な地域文化に対する施設の役割があることを理解した。そして、公立文化施設を取り巻く今後の環境変化や予測される課題について、自分自身が所属する施設とそれを取り巻く地域に引き付けて考察した。

ゼミ３　「公立文化施設の貸館事業の可能性を考える」

講　師：　津村　卓

これまでに津村氏が開館準備や管理運営に携わってきた全国各地の劇場の話を伺った。当初は民間劇場の立ち上げからキャリアが始まった津村氏は、その後の公立文化施設での仕事においても、民間ならではの経営感覚を発揮されている。この講座では特に貸館事業に焦点を当てて、どのような目的や戦略を持って利用者に提供しているのか、豊富で具体的な事例を紹介していただいた。「公の施設」として、その存在価値の最も基本でもある貸館事業から、改めて施設の使命を見つめ直し、貸館事業の可能性について考えた。

ゼミ４　「公立文化施設は、311 で何が変わり、何が変わらないのか」

講　師：　坂口　大洋

東北を拠点に劇場・ホールの計画・建設の調査研究を行い、現場でもコンサルタントとして活動されている坂口氏から、東日本大震災以降の公立文化施設のあり方について講義していただいた。大型商業施設の開発や自動車社会による生活様式の変化によって、「知らない間に地域の公共施設が不要とされる」という話は、参加者だけでなく、コーディネーターの私自身にも切実な課題を突き付けた。また、東日本大震災で多発した大型公共施設の天井脱落事故に伴う建築基準法施行令の改正は、今後の公立文化施設を取り巻く環境変化の大きな論点だと考える。公立文化施設の震災以前と以降の現場を間近で見てきた坂口氏ならではの鋭角な視点の講義に感服した。

ー第３日ー　７月９日（木）

ゼミ５　「鹿踊ワークショップ」（事業入門コースとの合同ゼミ）

講　師:　小岩　秀太郎

ラボ３日目の午前中は事業入門コースと合同で、江戸時代から東北地方などに伝わる鹿踊（ししおどり）のワークショップを、自らが伝承者である小岩氏を迎えて行った。鹿踊の歴史的な由来や生活の中での伝承の様子についての話を聞いたあと、基本となる立ち姿勢から実践。足を軽く開いて膝や腰を落とし、背中をまっすぐに立たせるという姿勢が、思いのほか難しい。そして、舞いながら太鼓を叩くリズムを口で唱えるだけの練習をしてから、唱えながら舞を覚えていく。最後に、数名の代表者が鹿踊の頭（かしら）と衣裳を着用し、ほんの少しではあるものの、鹿踊を体験するという貴重な時間を共有できた。

ゼミ６　「日本の郷土芸能についての対話」（事業入門コースとの合同ゼミ）

講　師:　小岩　秀太郎、野村　誠、セレノグラフィカ（隅地茉歩、阿比留修一）、荻原　康子

午前中のワークショップで講師を務めた小岩氏、作曲家の野村氏、コンテンポラリーダンスのセレノグラフィカのお二人、メセナ協議会の荻原氏、コーディネーター２名（事業入門コースの佐東氏とホール入門コースの大澤)、以上７名で、郷土芸能と現代芸術の双方向から発見した魅力について対話した。午前中のワークショップを体験したセレノグラフィカの二人と野村氏は、一様に鹿踊に対する興味・関心を示した。荻原氏は「東日本大震災 芸術・文化による復興支援ファンド（GBFund)」を通じて感じた地域における郷土芸能の役割について紹介していただき、佐東氏と小岩氏からは、2014 年の三陸国際芸術祭（サンフェス）で特別に企画した、鹿踊保存会の合同公演の経緯に触れていただいた。多様な立場で郷土芸能に関わる講師の話を聞いたことで、参加者各自は、自らの地域の郷土文化の魅力や、地域に対する役割についても再認識したことだろう。

ゼミ７　「地方自治体の文化行政を徹底分解する」

講　師:　鬼木　和浩

地方自治体の文化行政を抜きにして考えることはできない公立文化施設。その、知っているようで知らなかった文化行政の実態を徹底的に分解するために、横浜市の文化振興課で主任調査員（異動のない専門職）を務めている鬼木氏に、文化振興を取り巻く行政や議会の仕組みを分かりやすく解説していただいた。特筆すべきこととして、この講義は、モーツァルト作曲のオペラ「フィガロの結婚」の台本と音楽を引用しながら進行され、笑いと涙と祝福に包まれた講義となった。とかく、公立文化施設の現場のスタッフと、文化行政を担当する地方公務員との間には対立や軋轢が生まれやすいが、お互いの立場を理解し、和解を求めていく姿勢を楽しく学ぶことができた。

ゼミ８　「ワークショップ：札幌の文化の生態系イメージを描いてみよう」

講　師:　小田井　真美、漆　崇博

ゼミ８では、ステージラボの開催地・札幌で前年度に開催された「札幌国際芸術祭 2014」を素材に、アーティスト、行政、市民など多様な立場と現場で向き合ってきた小田井氏と漆氏に講義をしていただいた。前半は、芸術祭で開催された多岐に渡る事業から、とくに市民との関わりが深いプロジェクトの内容を紹介していただいた。後半は、コーディネーターの大澤が進行を担当し、ワークショップ形式で「札幌の文化の生態系イメージ」を描くことに挑戦した。参加者は４~５人ずつのグループに分かれ、前半で聞いた具体的な芸術祭のプログラムによって、どのような人、団体、機関、場所などが関係を作っていったのか、付箋紙と模造紙を使って関係性を可視化するような地図づくり（マッピング）を行った。

ー第４日ー　７月１０日（金）

ゼミ９　「ワークショップ：自分の地域とホールの文化生態系マップを書いてみる」

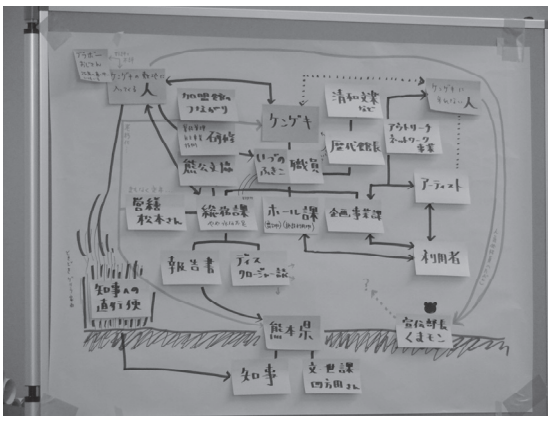
講　師：　大澤　寅雄

３日間のゼミを踏まえて、参加者各自が改めて自分の地域やホールを取り巻く生態系について図に描くことに挑戦した。自分自身が、誰と、どのような関わりを持って仕事をしているのか。その関わりの先に、どのような変化が地域に起きているのか。現時点での自分の周囲には、どのような関係性が不足しているのか。将来的に、どのような関係が地域とホールの間に生み出したいのか。そうしたことを自問自答しながら、付箋紙と模造紙に向き合ってマッピングを行った。

ゼミ１０　「プレゼンテーション：私のまちの文化生態系と私の役割」

講　師：　大澤　寅雄

ゼミ９で作成した地域とホールの生態系のマッピングを、「私のまちの文化生態系と私の役割」と題して、プレゼンテーションを行った。参加者は、それぞれが所属するホールの設置目的や、地域の特徴を踏まえながら、自分自身に求められている役割を再認識した。また、他の参加者のプレゼンテーションを聞きながら、新しい気づきを得たことだろう。４日間のゼミで吸収したことは、必ずしもすべて消化することを求めたわけではない。むしろ、消化しきれずに悶々と問い続けることが増えたかもしれない。その消化不良の課題がどこにあるのか、このマッピングとプレゼンテーションで把握できたのではないだろうか。そこまで到達できていれば、このラボは上出来だったと思う。



（２） 事業入門コース

① 総　評

コーディネーター　佐東　範一

＜参加者への事前メッセージ＞

『今回の事業入門コースは、３つの柱で内容を組み立てました。①公共ホール以外で、日本の文化芸術を担っているセクターを知ること、②実際にダンスを体験してみること、③それぞれの地域での企画を考えること、です。最終的な目的としては、それぞれの公共ホールのある地域に住んでいる人たち（大きく言うと日本に住んでいる人たち）が、文化芸術によって、これまで以上に、互いにコミュニケーションがとれるようになり、生活に喜びと張りが生まれ、未来を創造的に創っていけるような、事業を行うことです。

そんなことは一人でできるものではありません。様々なほかの分野の人たちと知り合い、知識を得、観客や参加者の気持ちを知り、アーティストが何を生み出そうとしているかを理解するなど、様々な角度からの思考とネットワークが必要になってきます。そして何よりも私が大事だと思っているのは、そこに夢を持っているかだと思います。公共ホールの事業担当者は、地域の文化芸術にとっての、重要なつなぎ手です。外とのつなぎ手であり、同時に、地域内のつなぎ手でもあります。つなぎ手次第で、どのようにでも変わっていきます。そのことの責任と喜びを感じながら、挑戦してほしいと思います。今回のステージラボの参加者はみんな同志です。そして講師と深く知り合い、ぜひ自分にリミッターをかけずにアプローチしていただけたらと思います。良い時間を一緒に過ごせることを楽しみにしています。』

と、書いたのだが、実は今回の事業入門コースの裏テーマは、“サプライズ！！”。いかに参加者を驚かすか、だった。それは、実際的には、ダンスを体験して、突然いきなり舞台に立つところまでやってしまうこと！？制作者として舞台芸術に関わることは、そこに何が起きるのか、舞台に立っている人はどのような感情を持つのか、人前で何かを見せるということは、どういうことなのか。その入り口を体験することによって、企画の立て方が変わってくるだろうという狙いを持って、密やかに会館のテクニカルさん、セレノさん、地域創造と教育文化会館の担当者と、裏の準備を進めてきた。

結果は。。。。。仕掛けている側が、仕掛けられている人たちのあまりの純粋さに、素直に感動した。これほど素晴らしい参加者がいるだろうかと思えるぐらい、その場に自分を投げ出すことが出来る稀有な人達の集まりだった。セミナーの講師をするときに思うことはいかに先生と生徒みたいにならないか、正解はどこにもないことを行っているので、違う関係性にもっていけるのか。同じ時間と場を共有して、そこから共に新たなものを創り出していけるのか。言葉は違うけれど、ある種の共犯関係の始まりになれたらと常に思う。舞台や企画を共に創るということは、そういうことなのだと思う。そこには経験者もいるし初心者もいる。しかし上下関係が生まれるのではなくて、新しいイーブンな関係性をいかに築けるのか。

話はそれてしまったが、今回の事業入門コースは、何かを教えることではなく、何か新しいことを始めること、そこには驚きやわくわく感というものが必要で、それをいかに作っていくか、そして誰もがこれから舞台人にもなれるし企画者にもなれるということを、身体で感じてもらえたらと思った。さあ、結果は如何に。

②ゼミ記録

ー第１日ー　７月７日（火）

ゼミ１　「自己紹介―まずは言葉を使わず―」

講　師：　セレノグラフィカ、佐東　範一

参加者への事前メッセージ『全国各地からの参加者が初めて顔を合わせます。普通なら、どこそこから来ました○○ホールの○○です、となりますが、今回はちと趣向を変えて、言葉ではなく、身体で自己紹介です。身体を動かすのはニガテーという人も、いきなりダンスを踊るのではないので、ご安心を。』

このメッセージの通り、講師のセレノグラフィカの隅地さん、阿比留さんを紹介しただけで、いきなりダンスのワークショップが始まります。といっても初めは身体をほぐすところから始まり、徐々にいつの間にかダンスになってくる。本当にダンスのワークショップというのは不思議なもので、「私はどこそこから来た○○です。ホールの中で、○○の担当をしています」などの言葉での紹介がなくても、ワークショップが終わると、もうずっと昔から知り合っていたような気になる。すでに相手のことはよーく知っているような感じがする。なぜかというと、たぶん人間は、言葉と頭で理解できることと、それ以上に身体や動きがその人のことを十分に物語っていて、一緒に身体を動かすということは、その情報をお互いに交換し合っているからなのだと思う。このゼミ１は３時間あるのだが、本当は最後に言葉での自己紹介も予定はしていたのだが、あるミッションのために、すべての時間をそのことに使った。そのミッションとは、その後に予定している全体交流会で、この事業入門コースは、いきなりダンスで自己紹介をする、というサプライズをセレノさんとともに企てていたからである。

ワークショップの後半は、初めに男女で腕を組んで出てきて、それぞれの出身地と名前とワンポイント、例えば、「隅地真帆は徳島の女、夜の蝶～」みたいに一人一人踊りながら歌う。そしてみんなで即席の歌「J・N・C（事業・入門・コースの略）、わたしたちはじぎょーにゅーもんこーす、ぴゅーぴゅー、わーわー♪♪・・・・」最後にみんなでポーズ！！みたいなことを、いきなり稽古する。みんな、なぜこんなにセレノさんや私たちががんばっているのかわからない。ワークショップの最後に、「実はこの踊りを、この後の交流会で披露していただきまーす」と発表。一同「えーーーー！！」。その後は怒涛のごとく、出る場所や出方の確認、場位置の確認。交流会でお酒や食べ物が沢山出ているのだが、それどころではない。みんな必死。たぶん長いステージラボ史上でも、初日の交流会で、ここまでやる人たちは初めてなのではないだろか。ホール入門コースや音楽コース、地域創造や札幌市教育文化会館の多くのスタッフの方々に、たくさんの拍手で迎えられた。みんな満足そう。こうやっていきなりの初日の夜が更けていった。

ー第２日ー　７月８日(水)

ゼミ２　「アートNPOとは、なんぞや？」

講　師：　斎藤　ちず

参加者へのメッセージ『今回公共ホール以外に、日本の文化芸術の推進を担っているセクターをいくつか紹介します。まず“アート NPO”です。北海道の代表的なアート NPO であるコンカリーニョは、札幌市琴似に劇場やアートスペースを持ち、様々な活動を行っています。コンカリーニョの活動と、日本全国でアートNPO がどのような活動を行っているかを紹介します。』

講師は斉藤ちずさん。私が JCDN を創るために 1998 年から 2000 年にかけて全国行脚と称して、全国のダンス状況を見て回っていた時に、札幌でたまたまダンスウィーク＠コンカリーニョというチラシを見て訪ねて行ったのが始まりであった。それからもう 15 年に渡り「踊りに行くぜ!!」の札幌公演の受けもとである。今回ちずさんに話してほしいと思ったことは、アート NPO とはなんぞや、ということも有るけれど、公共ホールと違って、経営やプログラムなど、すべて自分たちの責任で劇場を運営するということはどういうことなのか、それはどのような思いなのかを感じてもらえたらと思った。初期のコンカリーニョは、駅前の再開発のために取り壊されることになり、その後の新しく建てられるビルに再び劇場としてのコンカリーニョを再建するために、2002 年から 2005 年にかけて、5000 万円を集めようとした。ひとつひとつの話にみんな感心し、今後の活力になったと思う。だって個人がこんなにも地域の文化を創るために頑張っているのだから、公共ホールが出来ることはもっともっとあるはず。これからは、アート NPO をはじめ様々な分野の人たちといかに協働して事業を創っていけるかだと思う。この繋がりを大事にしてほしい。

ゼミ３　「企業メセナとは、なんぞや？」

講　師：　荻原　康子

参加者への事前メッセージ『アート NPO に続く第二弾は、90 年代から始まった日本の“企業メセナ”。文化芸術をサポートするだけではなく、企業自ら新しい文化芸術のうねりを創り出しています。まずどのようなことが行われているか、他のセクターとの共同事業など、多角的な企業メセナを紹介していただきます。』

企業メセナの基本的な歴史や考え方。様々な事例についてお話しいただく。企業メセナが日本の文化芸術の中で、どれほど重要な役割を担っているのか。その多様性と幅の広さを感じていただけたと思う。各地にそのような思いを持っている会社はたくさん存在している。公共ホールにとって、地元の企業や会社と共にプログラムを創ることで、その多様性を創っていけると思う。

ゼミ４　「ダンスって、自分で創れるの？」
講　師：　セレノグラフィカ

参加者への事前メッセージ『たぶんダンスって、誰か専門の人（振付家）しか創れないものと、思われていませんか？いや、そんなことはないのですよ。あなたの身振りや動きがダンスに変わる瞬間があります。そんな体験をしてみます。ホールで働く人もアーティストの気持ちが理解できることは、とても重要ですよ。この時だけダンサーやアーティストになってみます。』

さあ、サプライズに向けて最初の第一歩。と言っても、秘密裏の内にものごとは進んでいくのだが。セレノさんが振付に入っていきます。振付と言っても、決められた振りをみんなが学ぶのではなく、自分の身近なところから動きを考え、つくり、ダンスに移行していきます。セレノさんは、その変わり目を参加者に気づかせないようにしながら、いつの間にか、いつのまにか、ひとつのダンスになってくるのです。。。。

ー第３日ー　７月９日（木）
ゼミ５　「鹿踊ワークショップ」（ホール入門コースとの共同プログラム）
講　師：　小岩　秀太郎

参加者へのメッセージ『日本の文化芸術のベースには、各地の郷土芸能があります。郷土芸能とはどういうものなのか。身体を通して体験してみます。江戸時代から東北地方などに伝わる鹿踊（ししおどり）を踊ってみましょう。郷土芸能の魅力を体験することで、自分の地域の郷土文化についても再認識します。』
ホール入門コース（コーディネーター・大澤寅雄氏）と事業入門コースの合同ゼミとして行った。東日本大震災以降、郷土芸能が地域コミュニティの大きな要として注目されている。私自身、3年前に大澤さんから小岩さんを紹介していただき、被災地に郷土芸能などを習いに行く「習いに行くぜ!東北へ!!」を始め、現在行っている「三陸国際芸術祭」に繋がっている。郷土芸能の存在は知っていても実際に触れたことがなく、別の世界のものだと思っていたが、小岩さんとの出会いによって、多くの発見とコンテンポラリーダンスやコミュニティダンスとの多くの共通性を見出し、今では完全にはまっている。郷土芸能に触れたことによって、いかにこれまで欧米の文化芸術ばかりを見ていたかということに気が付き、郷土芸能に日本の文化や芸術の根本的な在り方があると思い始めた。今回は、日本各地にある郷土芸能の入り口として、小岩さんが岩手県一ノ関

で子供のころから行っている鹿踊を知ってもらうところから始めようと大澤さんと計画した。装束のこと、太鼓のこと、踊りのこと、そして鹿踊の意味について、参加者にとってひとつひとつが新しい発見だったと思う。

ゼミ６　「日本の郷土芸能についての対話」（ホール入門コースとの共同プログラム）
講　師：　小岩　秀太郎、野村　誠、セレノグラフィカ、荻原　康子

参加者への事前メッセージ『東北大震災で甚大な被害を受けた三陸地方。復興の中で、各地の郷土芸能や祭りが、地域の人々の心の支えになり、励ましになっていました。郷土芸能の力や役割について語り合います。東北だけではなく日本各地域にある郷土芸能と現代的な芸術の接点つくりなど、様々な角度からアプローチしたいと思います。』

ゼミ５に続いて、ゼミ６は、講師のセレノのお二人、メセナ協議会の荻原さん、音楽コース講師の野村誠さんを交えてのトーク。司会は大澤寅雄さん。郷土芸能にまつわることをみんなでいろいろと話しました。地域、コミュニティ、芸能の復活、現代と郷土芸能、民俗芸能―伝統芸能、有形・無形文化財、高齢化、後継者の育成、学校教育の中の郷土芸能、日本人の体形の変化（足が短くなりたい）、日本人のアイデンティティとしての郷土芸能、継承と保存会、ホールで郷土芸能を扱うこと、地域から消えていくもの、各地の芸能のありかた、、、、、などなど。多様な質問と話が交わされた濃い時間だった。

ゼミ７　「自分のダンスを、より深めてみよう」
講　師：　セレノグラフィカ

参加者への事前メッセージ『ゼミ４の続きです。自分から生まれた動きを、より深めていきます。なんのことはない動きが、あら、ダンスに。。』

ここまでのダンスのワークショップは、リハーサル室で行われていたが、このゼミ７から札幌市教育文化会館小ホールの舞台上へ移動。参加者には伝えていないが、実は照明や音響など前日までにテクニカルスタッフとセレノさんが打ち合わせをして、あらかじめすべて仕込んである。ワークショップなのに、だんだんと立ち位置に対する指示が出てくる。もしかしたら、なんかあるなと、勘の良い参加者は気が付いたかもしれない。初日からこれまで行った動きに少しずつ手を加え、立ち位置を確認し、すこしずつダンスに育てていく。全体で踊る群舞や、ペアの踊りなど、一つの動きから、いろんなところに派生してくる。あら、身体ほぐしだった動きが、いつの間にか、繋げるとダンスのフレーズに変わっていく。ソロも、自分で創ったものを、隅地さんから「もう少しこうしてみたら」と言われて、変えてみると、なる

ほどダンスに見えてくる。たぶん本人はあまりわからないだろうけれど、端から見ているとどんどんダンスになってくるのがわかる。そして、そして、ゼミの最後に、「実は、次のゼミは今皆さんが創ったダンスを発表します。お客さんも招いています！！当日パンフレットも創りました！みなさん、頑張ってください！！」

ゼミ８　「ダンスを人にみせてみる」
講　師：　セレノグラフィカ

参加者への事前メッセージ『いよいよ音楽も入れて、ダンスを発表してみます。エグザイルのようなダンスだけが、ダンスではないのです。あなたにしか創れないオリジナルなダンス。みんな初めてだから、何も怖がることはないですよ。お楽しみに。』
まさかまさか、こんなにちゃんとした舞台で、照明・音響を入れて人に自分たちの踊りを見せるとは、誰が予想したであろうか！たぶん参加者は、何かほかのことを、いや、そんな、いきなり無理、だとか、恥ずかしい、とか、考える間もなく、本番に突入した。もうちゃんとした公演である。作品タイトル『わたしよりも近くのあなた』by　JNC ダンサーズ。入り口で当日パンフレットを渡して、隅地さんの開演前のあいさつが終わると、暗転。明かりが入ると、全員がばらばらに出てくる。シーン１・エイトカウントソロ全員→シーン２・さわって抜けて、シーン３・ネームダンスメドレー（ソロ～デュオ)、シーン４・ランデブー、シーン５・ワルツ（コール）の全部で 5 シーン。さすがに急だったので観客は少ないが、暖かい拍手に包まれる。ジーンとする舞台だった。セレノさんとテクニカルスタッフと札幌市教育文化会館の協力でここまでしていただいたことに心から感謝。本当に良かった。制作の仕事をしていると一番身近にいながら、舞台に立つ機会はない。一度は舞台に立ってみて、出演者のみんながどのような感じを受けているのか、どのような緊張感なのか。このことを今後活かしてくれたらと願う。

ー第４日ー　７月１０日（金）

ゼミ９　「ダンスの企画を考える」

講　師：　佐東　範一

参加者への事前メッセージ『この 3 日間を通して、自分が感じたこと、考えたことを通して、それぞれのホールや地域で行いたいと思う企画を考えましょう。自分の地域がこんなことになったらいいなとか、面白いなと夢を持つことが大事です。企画は、そのための第一歩です。それぞれ企画書つくりを行います。』

初めに、昨日のみんなのダンス公演の映像を観る。みんなの感想を少し紹介。「あっという間の魔法」「照明すごい」「公開を知らされてからの自分の気持ちの変化」「演じた感じと鑑賞した時の身体の違い、身体は雄弁」「創る楽しさを思い出した」「演者と観客の感じ方の違いが分かった」「ホールにとっても演者にとっても一回限りの出会い」「ただ集中していた」「舞台に対する価値観が変わった。いまなら何か出来るかなという感じがしてきた」。。。

そして隅地さんからも「何か人智を超えた力が働いていたような気がする。毎回このようにいくわけではない。みんなが“透明感”を持っていた。だからダンスの神様がおりてきたと思った」。

その後、私が主宰している NPO 法人ジャパン・コンテンポラリーダンス・ネットワークの活動を話す。コンテンポラリーダンスとは。JCDN とは。『踊りに行くぜ！！』『コミュニティダンス事業』『習いに行くぜ!東北へ!!』『三陸国際芸術祭』、『英国の事例』そしてダンスの持つ力について。

その後に「ダンスの企画を考える」宿題を出す。ポイントは、対象は誰？どこで？どのような目的で？どのようなイメージで？どのようなアーティストが良い？　1 年で出来ること。100 年かけて出来ること。どちらも初めの一歩がないと始まらない。その初めの一歩の企画を考えてもらう。

ゼミ１０　「企画の発表＋振り返り」

講　師：　佐東　範一

参加者への事前メッセージ『それぞれの企画を発表していただきます。そしてほかの参加者からの感想やアドバイスなども共有しましょう。最後に 4 日間の振り返りを行います。』

それぞれの企画の発表。「酪農産業が盛んなところ。町の主役である酪農家をコンテンポラリーダンスの主役に。町民、家族に観てもらいたい。認知されることでダンス普及活動となる。ホール→牛舎→牧草地――――町の PR であり、新規就農を促す」「民謡が盛ん。ポップス系の民謡をコンテンポラリーダン

スに応用できないか。今ある民謡の新しい発展形を考えたい」「生きづらい子供たち。コンテンポラリーダンスの中で見つけた価値観が子供たちを強くするのでは。さらけ出せる場の提供」「ダンスかるたを企画したい。かるたの中に土地の歴史や観光などが盛り込まれているかるたなので、他地域に行った時にも役に立つ。子供にもう少し強く記憶させたい。」などなど。

何かこれだという企画を思いついたら、今後関係するであろういろんな人に話してみると良い。そこで反応を見ながら、だんだん形を創っていく。そしてこの企画に関しては、世界中で一番私が考えている、というところまでもっていく。そうしているうちに、雲をつかむような話が、どこかで突破口が開け、具体的な企画になってくる。ダンスを創るのと似ている。そしてすぐに形になる企画もあるし、何年か先に実現するものもある。

しかしやはり自分の中でずっと温めておかないと、決して実現することはない。

公共ホールは、その地域にとっての重要な文化芸術の窓口です。大変重要な任務を担っています。いろいろ大変なことは多いと思いますが、ものは、やりようです。こうじゃないといけないという固定概念を捨てたら結構いろんなことが出来るものです。頑張ってください。どこかでまた会いましょう。

最後にもうひとつサプライズを仕込んだ。このステージラボの修了式で、各コースのコーディネーターが、締めの話をするのだが、私の話に続いて、突然、暗転。スポット照明が入ると、事業入門コースの担当だった地域創造の加藤さんと、札幌市教育文化会館の櫛引（くしびき）さん、二人のデュエット。実は、櫛引さんは以前にダンスをやられていて参加者の様子を見て、とてもやりたいけれど担当だから無理となっていて、加藤さんも、みんなに触発されて、あー踊りたそーと目をつけていて、前日から仕込んでいたのでした。加藤さんの緊張ぶりがとてもよかったし、櫛引さんの板についたダンス良かったです。お世話になった皆様本当にありがとうございました。これからも何かを生み出していきましょう！！

（３）音楽コース

①　総　評

コーディネーター　児玉　真

地域創造が 1998 年から取り組み始めたアウトリーチ活動はかなりの勢いで浸透していて、昨年の地域創造の調査でも、すでに実施実績としては 1/3 を超え 4 割に届こうかという会館がアウトリーチを実施していることが明らかになっている。5 年前の調査からも実施館の割合が 13%以上増加していることはとても喜ばしいことだと思う。その中でもクラシック音楽を採用した音楽のアウトリーチがその牽引役になってきたのは間違いない。けれども、一方で地域創造が力を入れて考えてきたその「質感＝内容（演奏の質と 45 分間をどのような時間にしていくかという考え方)」や果たすべき役割についてはまだきちんとした結果が見えているわけではない気がする。調査をするにしてもかなり難しい調査だろうと思う。各地の様子を見ると、地域創造の考えている以上の取り組みをしているところも多くはなくても存在するが、そうでないところもかなりの確率であるというのが実情だと思う。アウトリーチの概念がかなり広い範疇をカヴァーしている事を考えると、仕組みの充実とともに、「内容」についての考察は必要だし、より考えていく必要があると思っている。

2013 年度の長崎のラボでは、仕組みの方についてアウトリーチ手法を地域にどのように活かすかの新しいやり方を考えてみたが、今回は、内容的なところで、ワークショップの考え方を採り入れるとどんな可能性があるのか、また、それによってアウトリーチの発想は変化しうるのか、またはアウトリーチの手法が会館の中でもっと活かせるのではないか･･･等々のことを考えたいと思った。もちろん、おんかつアーチストの中にはワークショップ的な要素を積極的に取り入れている人も増えてきている。また、ダンスや演劇など音楽以外のジャンルの状況や手法を知ることも大いに大事ではあるが、まずは音楽ですでに行われ始めている最近のワークショップのことを知り、それによって見えてくる、コミュニティ事業やエデュケーションでの可能性をみんなで考えるきっかけを作りたいというのがテーマ設定のポイントであった。

今回は、その設定したテーマの故か、既に音楽事業に力を入れており、また実績を持つ先輩が居る音楽事業に熱意あるホールの担当者が応募してきたような気配がある。すでにワークショップを経験した会館のかたも入っている。とはいえ、音楽のワークショップというのは内容的にこんなものだという「見当」（フレーム）がまだ像を結びにくい公共ホールの担当者が多いであろう中、今回、その道の専門家ではない私が知るいくつかのパターンのうち 2 つは体験していただくことができた。これだけではまだ不十分かもしれないが...。そのどこあたりに特に地域の公共ホールにとっての新しい道が拓ける可能性があるのかは未知数でもあるが、その可能性への意識を持ち帰ってもらえていればうれしい。まだ見えていない部分が多い故に今回のチームは今まで以上に今後の情報交換やネットワークが求められていると思う。参加者にはワークショップを実感として感じてもらうのと同時に、ちょっと離れた目線で客観的に自分や周りの人を見ることをお願いした。一種のダブルバインドで、ワークショップで使用される「技法」について、まとめてみたり、自分が作る側になって考えてみる、ということも組み込んで全体の構成が進められた。「4 日間が楽しく、とても早く終わってしまった」という感想を何人かにもらったが、やや混乱をさせたところもあるかもしれない。とはいえミッション感覚はそれぞれ持って帰って頂けたものと考えている。私にとっては今後の新しい取り組みをちょっと期待させてくれる４日間であったと思う。

②　ゼミ記録

ー第１日ー　７月７日（火）
ゼミ１　「自己紹介とコミュニケーション」
講　師：　児玉　真

自己紹介の後、アイスブレークを簡単にして、数人のグループでアイスブレークを考えてもらいそれを実践。中々うまくいかないのだけれど、それもアイスブレークになったか。その後持参した小物楽器で二人が組になり音だけでの会話をしてもらった。楽しむまではいかなかったかもしれないが、徐々に会話になってくるのが面白い。その後、平常さんのワークショップをまとめた地域創造のヴィデオを鑑賞した。

ー第２日ー　７月８日（水）
ゼミ２　「アウトリーチとワークショップ」
講　師：　児玉　真

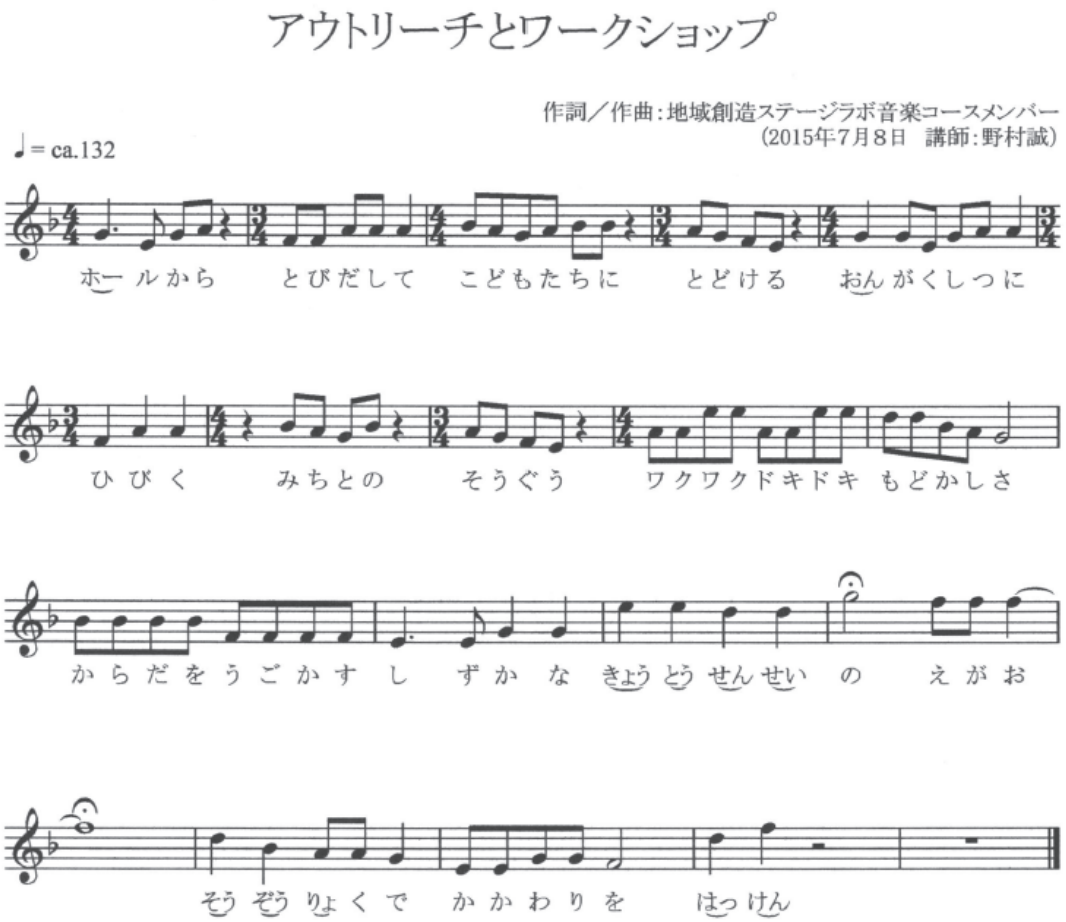
昨年の全国ホールの調査のなかで、普及プログラムやアウトリーチの比重が高まっていること、また公共ホールの歴史の中で、ホールの役割の変遷や普及プログラムがどのように位置づけられていったかを俯瞰し、アウトリーチの位置づけをお話しした。広島ラボでアウトリーチの定義を書いてもらったのでそれを配り、考え方が一様ではないことを理解しつつワークショップの話に入っていった。

ゼミ３　「ワークショップとは何か」
講　師：　野村　誠

野村さんのワークショップについて、の話では、彼が作曲の方法としてワークショップで集まったみんなの音をつくっていく共同作曲の方法について聞いた。イギリスでの実例や栗東さきらや福岡市美術館でのワークも紹介していただいた。印象的だったのは、作曲は invention＋arrangement＋notation で、invention のアイデアを出す部分をみんなで出しても良いのでは、しかし arrangement は技術のプロの部分だという話で、ワークショップの方法が理解できたのではないか。

ゼミ４、５　「野村誠のワークショップ１・２」
講　師：　野村　誠

午後からの二コマは、野村誠の作曲ワークショップ。彼の持ついくつもの手法の中から、ワークショップ的に音楽が生まれる（というよりも、個々人が音楽を聞き分け、存在を発見する、と言った方が良いか...）瞬間が感覚的に理解できるような時間を次々と出していった。しょうぎ作曲、せーの、１２３４など自然に音楽になってしまうのに気づくゲーム感覚。そして、「アウトリーチとワークショップ」の言葉のイメージづくりから、リズムと音の高さをみんなが出しながらそれを曲にしていく作曲。（楽譜参照）最後に「どうやって実がなるの」で各自勝手に出していた音から自然に統一が生まれ、響き合って最後に一番綺麗なハーモニーになって空気の中に消えていくのはとても印象的瞬間だった。



ー第３日ー　７月９日（木）

ゼミ６　「日本センチュリーの挑戦」

講　師：　柿塚　拓真

日本センチュリーオーケストラの柿塚さんから、センチュリーオケの歴史からイギリスに行って衝撃を受け、帰国後に地域連携のありかたを探るシンポジウム開催を経てオーケストラ（事務局もオケメンバーも）を説得し勧誘して始めたコミュニティプログラムについて話をしていただいた。センチュリーのプログラムは、ワークショップをベースとして、そこから地域に広げていくような発想で、いくつかのプログラムを野村誠さんと行っているが、その成果の発見の仕方も参考になったと思う。

ゼミ７　「ワークショップのまとめと振り返り」

講　師：　柿塚　拓真、野村　誠

その後、児玉、野村、柿塚が前に出て、質問とここまでのまとめになるような振り返りの座談会。それぞれに一言づつまとめてもらい、それに対して３人がコメントしていくという方法で、曖昧な部分をクリアーにすることにつとめた。とても充実したやりとりで、時間が足りなくなるほど。

ゼミ８　「聴くワークショップを体験する」

講　師：　内藤　裕敬、中　彩香能、河野　紫

午後は一転して、河内万歳一座の作家及び演出家である内藤裕敬氏に、絵画と音楽を使った講座をやっていただいた。これは一種の聴くワークショップとも言えるもので、一つの作品が見方を変化させることで、いろいろなイメージを膨らませることが出来ることを体験してもらうものである。作家が、自分の思って書いた以上のイメージを受け手が発見したことを、面白いことだと思わないわけがない、というのが考え方のベースである。イメージの力がどんどん高まるのが判るような時間。

ゼミ９　「マイク・スペンサーの成果と課題」
講　師：　箕口　一美

箕口さんには、マイケル・スペンサーのワークショップの話をしてもらったが、それよりも、それまでのワークショップの体験から、ワークショップがもたらすいくつかの力「耳を傾ける力」「瞬間を捉えつかむ力」「調和の力」「遊ぶ力」の話が印象的。型をつかむことで変えたい衝動が生まれる、絵を楽譜にすることでたとえでつかむ力が生まれるなど、行いながら学ぶ、ゴールの明確でないあり方などをまとめてもらった。

ー第３日ー　７月９日（木）
ゼミ１０　「ワークショップで何ができるか（グループワーク）１」
ー第４日ー　７月１０日(金)
ゼミ１１　「ワークショップで何ができるか（グループワーク）２」
講　師：　児玉　真、箕口　一美

ここで 4 つのグループに分かれ、ワークショップを地域に活かす公共ホールの事業はどのように可能であるか、と言うことを考えてもらった。3 年間で地域にワークショップを根付かせるには･･･、というのがテーマ。コンセプト、具体的なプランと誰にどのように頼むか、等々という、答えの見えにくいものを事業化する、というのは、かなり高度な技で、今回の受講生はやや徒手空拳の感があったと思われるが、それぞれ茫洋とした課題に良く議論を拡げていた。

ゼミ１２　「プランの発表とその先に向けて」
講　師：　児玉　真、箕口　一美

最後は、課題の発表。それぞれアイデアを具体化するところでかなり躓いているようだったけれど良くまとめていた。ただし、この課題はどこからかノウハウのある商品（人）を買ってくる、と言う発想では出来ない。アーチストとの信頼関係を元に、ミッションを明確にし、先の見えない暗い道を一緒に歩くように考えていく仕組みをどうつくれば良いのか、というところが多分長いトンネルの出口かもしれない。とはいえ、この課題に向かう結束力はすでに充分に出来ているように思った。

３　共通プログラム

（１）日時・会場

７月８日（水）１７：３０～２０：１５
札幌市教育文化会館　４階　研修室４０３

（２）出演者

大塚 黒（ファシリテーター、sapporo6h)、服部 亮太（コーディネーター、sapporo6h）
桑原 和彦（担当者、札幌市教育文化会館事業課)、桐田 郁（札幌コンサートホール事業課）
細江 快広（司会）

（３）概要及び目的

「おしゃべりコネクート」とは、札幌市教育文化会館事業課スタッフが、会館から離れた札幌駅前通地下歩行空間 北２条広場(チ・カ・ホ)の６面ビジョンを利用した会場で、劇場の魅力やお勧め公演の見どころ紹介、札幌在住の面白い人材発掘などを行っている情報発信バラエティの生放送番組(USTREAM で同時配信、YouTube でアーカイブしている)。
共通プログラムでは、会館内研修室でプロジェクター画面に映された番組を鑑賞し、ソーシャルネットワークサービス(以下 SNS)を利用した広報活動も併せて行っている番組内で実際に SNS を体験する事と、現場制作に関わってきたスタッフのノウハウの紹介により、各所属団体での多面的な事業・広報展開を考察する機会となることを目的とした。

（４）内容

冒頭で札幌市教育文化会館の指定管理者である札幌市芸術文化財団の 3 事業部（他に札幌芸術の森、札幌コンサートホール）での代表的な地域交流事業の紹介に続き、今回の共通プログラム「おしゃべりコネクート」の説明を行った。「おしゃべりコネクート」番組のスタートからは、SNS を活用した広報展開について技術的な事例を中心に大塚氏より解説を行った。番組終了後、当該事業について企画当初よりコーディネーターとして協力していただいている服部氏より事業展開を図る上で USTREAM を活用する意義等の解説があり、生放送終了後の会場から会館事業担当者の到着後は、2 名による「おしゃべりコネクート」のコンセプトや開始当初からの苦労話等をざっくばらんなスタイルで行いながら参加者との質疑応答の時間を設けた。
番組とは別の会場中継画面が途中で途切れる等のトラブルもあったが、そういった予期しない要素も含め参加者の所属する施設で映像配信や SNS を使用した事業・広報を展開していくための端緒を開くプログラムになってくれたと思う。

Ⅳ　ステージラボ

公立ホール・劇場

マネージャーコース

第1日 10月6日（火）	13:15	オリエンテーション
	13:30	ゼミ1(90min):「参加者紹介とオリエンテーション」 講師:桑谷哲男(杉並区立杉並芸術会館「座・高円寺」館長) 内容:講師と参加者の相互理解のための自己紹介と研修テーマの概要説明を行います。
	15:00	休憩
	15:30	共通プログラム1(90min):ミニシンポジウム 『公立文化施設における雇用の拡充』 講師:岸正人(あうるすぽっと支配人)、大村未菜(サントリーパブリシティサービス株式会社取締役)、 三好勝則(アーツカウンシル東京機構長)、園部俊児(ビジネス・パワーコンサルティング代表、社会保険労務士) 内容:劇場・音楽堂の雇用をとりまく問題を、各分野の専門家より、それぞれの視点からの発言をいただき、設置者側、運営者側の双方がこの問題にどのように取り組んでいくべきかを議論します。
	17:00	休憩
	17:15 19:15	共通プログラム2(120min):グループディスカッション 内容:ステージラボ、文化政策幹部セミナーの受講者が、それぞれ3グループ、合計6グループに分かれて、両コースに共通する課題と、それぞれのグループごとの課題(普段とは異なる立場で考える課題)に取り組み、ディスカッションし発表します。

第2日 10月7日（水）	10:00	ゼミ2(120min):「地域劇場　座・高円寺が掲げた方針は地域劇場－関東編」 講師:桑谷哲男 内容:「座・高円寺は地域に対して何が出来るか」をキーワードに、地域に密着し、地域に根付いた劇場づくりを目指してきました。そして地域の活性化と街を元気にするために地域と連携した独自な劇場づくりに取り組んでいます。その座・高円寺の運営と事業についてお話します。
	12:00	昼食・休憩
	13:00	ゼミ3(120min):「地域劇場　改革を進める三重県文化会館－中部編」 講師:松浦茂之(三重県文化振興事業団　三重県文化会館　事業課長) 内容:公立劇場でイノベーションに取り組むことは大変難しいことですが、三重県文化会館は管理運営や事業面で大改革を実践して大きな成果を上げ、そして今も改革のエネルギーは継続しています。その戦略や手法などをメインに改革の取組みについてお話をしていただきます。
	15:00	休憩
	15:15	ゼミ4(120min):「官民協働の文化政策　関西のアートNPOに焦点を当てて-関西編」 講師:松本茂章(公立大学法人静岡文化芸術大学　文化政策学部／大学院文化政策研究科 教授) 内容:過去のゼミでは先進的な事例の公立劇場が取り上げられてきましたが、今回は視点を変えてアートNPOなどと行政が連携した「官民協働の文化政策」について紹介してもらいます。関西で展開された官民協働の事例報告は興味深く、これからの公立劇場の運営に活かされることと思います。
	17:15	移動
	19:00	舞台・芸術鑑賞: 内容:座・高円寺1で行われる東京戯園館の舞踏公演『敗北の傘』の作業風景と施設見学(時間によりゲネプロ鑑賞を含む)。そして高円寺の街歩き。地域と劇場の関係を探ります。 会場:座・高円寺、高円寺の街。

第3日 10月8日（木）	10:00	ゼミ5(120min):「公立劇場のイノベーション-其の1」 講師:[発表者]桑谷哲男　[討論者]曽田修司(跡見学園女子大学　マネジメント学部　マネジメント学科　教授)、質疑応答:ゼミ生 内容:1. 地域劇場の定義について　2. 公立劇場は地域に密着した劇場運営が問われる　3. 指定管理者制度の見直しは急がなければならない　4. 公立劇場の組織はどうあるべきか　5. 座・高円寺の雇用形態について。 タイトルごとに講師が発表し、それ受けて討論者がコメントや質問を行い、終わりにゼミ生が質疑応答をする方法で進めていきます。
	12:00	昼食・休憩
	13:00	ゼミ6(120min):「公立劇場のイノベーション-其の2」 講師:[発表者]桑谷哲男　[討論者]曽田修司、質疑応答:ゼミ生 内容:6. 専門家との契約書は時代に沿って作成されなければならない　7. 指定管理料と公立劇場の予算のあるべき姿　8. 座・高円寺の管理運営と予算　9. 公立劇場の未来はどうあるべきか　10. 作品は誰のためにつくられるのか。 ゼミ5と同様の方法で進めていきます。
	15:00	休憩
	15:15 17:15	ゼミ7(120min):「公立劇場のイノベーション-其の3」 講師:[発表者]桑谷哲男　[討論者]曽田修司、質疑応答:ゼミ生 内容:11. 作品は世界のマーケットを意識してつくる必要がある　12. 普遍的芸術論が持つ意味　13. 芸術家等を取り巻く経済環境は如何にあるべきか　14. 民間劇場と公立劇場は商業か非商業に区分されるものではない。 ゼミ5、6と同様の方法で進めていきます。
		修了式（17:45終了）

○公立ホール・劇場 マネージャーコース

①総　評

コーディネーター　桑谷　哲男

今回、＜公立ホール・劇場　マネージャーコース＞の総評を書くにあたり、私がなぜ「公立劇場のイノベーション・改革」というテーマを取り上げたかその理由について、受講者の皆さんには再確認の意味で、今回参加出来なかった公立文化施設の関係者の皆さんには、その理由を共有して頂くため、総評らしからぬ報告書を書くことを先にお断りさせて頂きます。

まず、研修参加者に対する３回のメッセージ等で、「公立劇場のリアルな改革とあるべき姿を求め、多様な視点から再考する機会にしたい」と。２回目は「公立劇場で正論とされている管理運営論のすべてに、なぜ、と問う必要があるのではないか」。３回目は「次世代に繋がる公立劇場論を一緒に考えたい」とテーマを発信しました。

今一度、私たちは改革に向けて「公立劇場は誰のため、何のためにつくるのか」と問い、「本当に必要な改革は何なのか」と原点に立ち戻る必要があります。

行政レベルに合わせた提案でなく、市民と芸術文化に対する未来の公立劇場への提案です。

●まず、公立劇場の役割が、過去１０数年で旧来とは大きく変わりました。最初の改革のきっかけは、阪神・淡路大震災以降「公立劇場は地域に対して何が出来るか」と問われたことです。次に、東日本大震災の３．１１以降「公立劇場の果たす役割はどうあるべきか」と。そして劇場法が出来て「公立劇場はどのような劇場づくりを目指すのか」と問われました。

地域と公立劇場の関係は明らかに急変しました。地域の活性化やまちづくりを始めとした社会貢献的な関わり方が求められたのです。しかし、関係者の多くが時代の変化をうまく受け止め対応して来たかと言えば、決してそうは思えないのです。

●そして、公立劇場の現在に目を移しますと、公立劇場の弱体化を進める様々な課題が山積しています。その典型的な事例として「指定管理者制度」と「労働契約法」の改正は、非正規雇用を生み、更に官製ワーキングプアの要因となり、何よりも人間としての生存権に関わる問題となります。

また、この他の問題においても一向に改善される様子はありません。理由は、課題解決に向けて根本治療が行われず、痛み止めや解熱剤で一時的に症状を軽減する対症療法が繰り返されるばかりで、公立劇場の根本的な改革に取組まれてきませんでした。

更に言えば、施設計画時に作成された基本方針・基本計画等は、その後、行政の担当者や指定管理者の責任者等に読まれているのだろうか。そして中長期計画も作成されていないのなら、誰がどのような責任と立場で管理運営しているのだろうか。ここでも貧困な公立劇場の様子が浮き上がってきます。

●次は未来においても懸念があります。民間機関の＜創成会議＞が２０１４年に発表した人口減少問題に関するニュースです。２０４０年には全国１８００ある市区町村のうち約半数が消滅する恐れがあり、特に人口１万人を切る５２３の自治体が消滅する危険性が高い、と衝撃的な発表がありました。

そのことが何を意味するかというと、２５年後には「約三分の一から半数の公立劇場（施設）が消滅する可能性」があるという現実です。つまり働く場所が減少し、市民は芸術文化に触れる機会が閉ざされます。また、人口が減少すれば税収は減り、結果的には芸術文化の予算は削減され指定管理料は減額されます。将来、公立劇場が負の遺産とならないためにも、自立に向けた改革を今から検討する必要があります。

未来に向けた改革は遅々として進んでおりません。その上、確実に来ると思われる人口減少と

都市消滅の危機に備えなければという声は、周辺からはまったく聞こえてこないのです。聞こえるのは、２０２０年に行われる東京オリンピックの、文化プログラムの話ばかりです。

公立劇場の過去・現在・未来の課題と改革の必要性を幾つか書いてきました。しかし改革が迫られているのは、そればかりではありません。

国として「日本の公立劇場と舞台芸術」の在り方を描いた最上位の概念が、見えてこないのです。本来は、国の目指す方針があって公立劇場の形、方向があるものです。まず全体を捉えるという想像力が欠けていました。グランドデザインが明確にならなければ、公立劇場のデザインは決まりません。

これらの難題に取り組み、館独自に解決するには当然限界があります。一地方の問題としてではなく、オールジャパンで取り組まなければならない課題です。

それらの課題に対して、マネージャーコースでは、「日本の舞台芸術と公立劇場はどうあるべきか」と疑問を投げかけ、根本から見直すことをテーマに掲げました。この３日間が、何かしら新しい公立劇場を考える時の、第一歩になればと思います。

最後になりましたが、お忙しいなか講師を務めていただきました松浦茂之さん（三重県文化会館）、松本茂章さん（静岡文化芸術大学）、曽田修司さん（跡見学園女子大学）に感謝です。

また、このような機会と主催者、事務局として支えていただいた地域創造の皆様に、お礼と感謝を申し上げます。

＜追記＞

〇公立劇場と表記した理由＝公立劇場を公共劇場という表記をしておりません。理由は、公共には民間の意味がふくまれているからです。

また、美術館や文学館なども、公共美術館、公共文学館という言い方はされていません。

それから、美術館や文学館に比べて、公共劇場と呼ぶべき何か凄いことをやっているとは思いませんので、公立がつくった建物は、公立劇場という表現をするのが適当と思っています。

②　ゼミ記録

ー第１日ー　１０月６日（火）
ゼミ１　「参加者紹介とオリエンテーション」
講　師：　桑谷　哲男

コーディネーターと受講参加者の自己紹介は、事前に送った私のメッセージと受講者のアンケート回答票によるやり取りをカウントしますと、ゼミ１の自己紹介は、既に旧知の関係のような思いがしました。

まず、受講者間の相互理解や施設の取組みを知るために、３つのキーワードとして地域・施設・自己について話してもらいました。そこから伺えたのは、回答票でもそうでしたがかなりの施設が、課題を抱えているというニュアンスのある言葉が返ってきました。

そして全体概要の説明では、公立劇場の役割が大きく変化したことにより３日間の研修テーマは、日本の「舞台芸術と公立劇場」の見直しと改革について、受講者は真摯に議論しなければならない時代にいることを、確認させてもらいました。

共通ゼミ１　「ミニシンポジウム『公立文化施設における雇用の拡充』」
パネリスト：　岸　正人、大村　未菜、三好　勝則、園部　俊児
講　師　　：　片山　泰輔、桑谷　哲男

共通プログラム１は、立場の異なる４人のパネリストに雇用の拡充をどのように考えているか発言して頂きました。

まず、岸氏には日本の公立劇場における雇用問題の提起や財団等の雇用の実態について。大村さんからは民間企業の指定管理者が行う採用形態や雇用条件等について。三好氏にはアーツカウンシル東京が助成事業や活動支援事業等にどのように取り組んできたかについて。最後に、社会保険労務士でもある園部氏からは、労働契約法の改正や雇用に関する問題等について具体的な説明と対策の報告がありました。

パネリストの討論や受講者からの質問では、指定管理者の雇用不安問題が中心になりましたが、身近な問題であれば当然なことだったと思います。ただ、行政側の立場である文化政策幹部セミナーの皆さんから、行政の立場として雇用問題に関してのどのような意見をお持ちだったか、気になるところです。

共通ゼミ２　「グループディスカッション」
講　師：　岸　正人、大村　未菜、三好　勝則、園部　俊児、片山　泰輔、桑谷　哲男

マネージャーコースと文化政策幹部セミナーの受講者が、それぞれが３グループに分かれてグループディスカッションと発表を行いました。

課題がリアルで身近な問題であるということと、マネージャーコースと文化政策幹部セミナーの受講者が、それぞれの立場を変えて課題を考えるということもあり、どのような方程式を使って答えを導き出すかは､大変な作業だったと思います。相手の意見を聞き、考えるという静かな時間もありました｡そのことが一見非活発な議論に見えたとしたら、それは根本にかかわる課題の重さが、理由だったと思います。

公立劇場の環境が、厳しい状況にあることを踏まえた課題提示でしたが、アートマネジメントを勉強している学生から見れば、公立劇場はあこがれの施設で職場です。私たちは劇場で働くことを誇りに思って仕事をしなければ､と考えさせられた時間でもありました。

－第２日－　１０月７日（水）
ゼミ２　「地域劇場　座・高円寺が掲げた方針は地域劇場－関東編」
講　師：　桑谷　哲男

座・高円寺は、劇場法を先取りする形でオープンして７年目になります。少し手前味噌になりますが、準備室時代に「地域劇場とは何か」と問い、「地域劇場は誰のために、何のためにつくられたか」と更に問い、考え、実践してきたのが座・高円寺です。文字通りコミュニティシアターとしての地域劇場は、市民と地域とアーティストのもので、運営者のものではないという立場を取ってきました。

その問いを解決するために、芸術文化による「地域の活性化」と「劇場の活性化」の方針を掲げました。そのために「地域に密着し、まちに根付いた劇場づくり」を目標に､「地域を活性化し、まちを元気にする」ことでした。

如何に「市民に支援され、地域に支持されるか」を考えました。そしてコミュニティシアターとしての地域劇場を実現するために､「地域と連携した劇場」であり「子どものための劇場」。そして「まちを劇場に」という目標を提案しました。

当時の多くの公立劇場は、芸術文化を発信することが役割と考えてきましたが、それに対して「座・高円寺は地域に対して何が出来るのか」ということをキーワードにして、新しいタイプの地域劇場づくりを実践してきたことを報告させていただきました。

ゼミ３　「地域劇場　改革を進める三重県文化会館－中部編」
講　師：　松浦　茂之

公立劇場の改革は、中部地域でも起きています。県立劇場で、しかも歴史がある劇場なら、管理運営に関して一つの形が出来上がっており改革は、容易に出来るものではありません。それをやってのけた施設が､ゼミ３の講師の松浦さんらを中心に改革を進めてきた三重県文化会館です。

松浦さんは銀行マン等を経て、現在は事業推進グループリーダーの役職についておりますが、これまで業務改革、組織改革、サービス改善等に取り組んできました。

その一部を紹介しますと、指定管理者制度の早い段階から、繰越金を内部留保することで、事業、設備投資、職員の雇用や待遇改善。貸し出しにおいても小ホールの主催事業とリハーサル室利用は２４時間貸し出し、火曜日の割引制度、利用料金のコンビニ支払い。看板やポスターの有料サービス等々です。民間の発想を果敢に取り入れています。

管理するためのルールではなく、利用者の立場に立った運営ルールづくり。行政との仕組みの相違があったにもかかわらず地方の公立劇場がここまで改革出来たことは、受講者や全国の公立劇場関係者にとっても勇気と刺激が与えられたことと思います。

ゼミ４　「官民協働の文化政策　関西のアートＮＰＯに焦点を当てて－関西編」
講　師：　松本　茂章

講師の松本さんには、アートＮＰＯなどと行政が連携して取り組んだ官民協働の文化政策に焦点を当てて、京阪神の３つの事例を紹介して頂きました。

まずケース１の京都芸術センターの事例は、改装された小学校の使用方法について大学教授、染色家、住民、市職員らが連携するなかで京都アートセンター構想が生まれ、若手演劇人が京都舞台芸術協会を設立するなどの、先進的な地域ガバナンス等の紹介。

ケース２の大阪の劇場寺院・應典院の場合は、演劇人、詩人、美術家、福祉関係者らがプロジェクトチームを作り本堂を小劇場、ロビーをギャラリースペースにし民間のお寺が芸術文化を担う等の紹介。運営はアートＮＰＯの「應典院寺町倶楽部」が行う。

ケース３の神戸、ＣＡＰ　ＨＯＵＳＥの事例は、芸術家らと神戸市職員が交流・連携しながら神戸移住センターで芸術的実験を始め、その後ＮＰＯ法人を取得し更に自立性のある表現活動に取り組む。神戸市の黙認の文化政策と施設の無償貸出し。官民の信頼性。文化施設はゲートウェイの役割等について紹介。

民が芸術文化を担い、それを行政が支援する事例を紹介して頂きましたが、民間も苦しい経営環境の中で運営を行っているという事例や、地域ガバナンスの面からお話を伺えたのは、地域劇場と民の連携事業に取り組む際の良い事例になったのではと思います。

ー第３日ー　１０月８日（木）
ゼミ５　「公立劇場のイノベーションー其の１」
講　師：　桑谷　哲男、曽田　修司

３日間の最終的な目標は、この国の「公立劇場と舞台芸術」の在り方を根本から見直すことでした。そのためにゼミ５～７では、改革案を１４項目に分類し、日本の「公立劇場と舞台芸術」のデザインはこうありたいと議論を導きだす形式を取りました。

進め方は私が１項目ずつ発表し、曽田さんに討論者の立場になっていただき、受講者には質問者になってもらうというスタイルで行いました。

また、このゼミの事業報告は、２日間の報告書とは違い、それぞれの項目の要点を幾つかのキーワードにして記載する形式とさせて頂きます。

はじめにー何故、公立劇場は改革しなければならないのか

１．地域劇場の定義について

①「地域」の活性化＋「劇場」の活性化＝地域劇場　②市民に支持され・地域に支援され・まちと共にある地域劇場　③まちの広場・縁側的役割　④まちづくりの拠点施設ー芸術文化は公共事業　⑤コミュニティシアターとしての新しい役割

２．公立劇場は地域に密着した劇場運営が問われる　（省略）

３．指定管理者制度の見直しは急がなければならない

①様々な指定管理者の存在が問題　②市民と芸術文化のための制度　③業務代行ー経営と自立　④制度のデメリットーイ.官製ワーキングプアとブラック企業化　ロ.不安定な雇用条件　ハ.直営・財団・企業・ＮＰＯの組織形態が不統一　ニ.行政からの独立と表現の自由の確保

４．公立劇場の組織はどうあるべきか

①スタンダードな組織論の確立　②専門家による運営ー行政職員は非専門家　③組織の中核は総務　④地域担当の雇用　⑤アーティストの雇用　⑥自由な働き方ー裁量労働制と年俸制等　⑦組織運営は民間スタイル　⑧対処療法から根本的治療

５．座・高円寺の雇用形態について　（省略）

ゼミ６　「公立劇場のイノベーションー其の２」
講　師：　桑谷　哲男、曽田　修司

６．専門家との雇用契約書は時代に沿って作成されなければならない
①館長や芸術監督の権限・責任・任期等の明文化　②契約の不透明性は種々な問題を誘発　③スタンダードな契約書　④評価基準と責任ー芸術と経営のバランス　⑤専門家の活発な人事交流と競争

７．指定管理料と公立劇場の予算のあるべき姿
①収支計算書は民間方式ー単年度主義の欠陥　②繰越金の必要性　③行政は赤字補填をしない　④予算に比例する地域劇場の評価　⑤一般会計と指定管理料の比率　⑥想定利益を検討する時代　⑦評価に値する施設運営

８．座・高円寺の管理運営と予算　（省略）

９．公立劇場の未来形はどうあるべきか
①公立劇場の分類は目的・役割・規模で行う　②道州制による準国立劇場とリーグ構想　③三層のピラミッドートップリーグ・地域リーグ・教育リーグ　④トップアーティストとトップリーグの拡大　⑤舞台芸術を可能にする組織構造

10．作品は誰のためにつくられるのか
①市民と公立劇場の乖離　②市民を置き去りにした作品ー観客不在論　③中間芸術の評価ー合体　④ロビーに溢れる「面白い」という言葉　⑤見て楽しむ演劇行為は軽視すべきでない

ゼミ７　「公立劇場のイノベーションー其の３」
講　師：　桑谷　哲男、曽田　修司

11．作品は世界のマーケットを意識してつくる必要がある
①商品という作品　②世界のマーケットを見据えた作品　③観客の要望に応えられる作品　④芸術と経済の両立ー作品的評価と興行的評価　⑤多層的な観客構造

12．普遍的芸術論が持つ意味
①市民はなぜ芸術と距離を置くかー芸術は難解・敷居が高い・近寄りがたい　②芸術は演劇・音楽・文学・美術等の総称で記号　③芸術は楽しくて面白い　④芸術家＝職人・アスリート　⑤なぜシェイクスピアは世界で上演されるのか　⑥純粋芸術と大衆芸術の対極の融合＝中間領域の芸術　⑦芸術派と娯楽派の分類は無意味→観客の重属的構造

13．芸術家等を取り巻く経済環境は如何にあるべきか
①労働環境の改善ー口約束・慣習からの脱却　②舞台芸術の産業構造が未発達　③低い報酬ー年平均２００万～３００万　④東京一極集中から地方分散化　⑤公立劇場は作品創造と芸術家の雇用創出　⑥芸術家は労働者（個人事業主）である

14. 民間劇場と公立劇場は、商業か非商業に区分されるものではない

①公立劇場の対義語は、民間劇場で商業劇場ではない　②演劇だけが商業劇場・商業演劇と区分する必要はないー蔑称的な呼称　③舞台芸術に公も民もない　④作品を創る側と観客の立場から劇場の区分を考える　⑤劇場区分はオーナー・作品・出演者の種別でなく、客席数の大小で行う　⑥劇場の運営方針は客席数で決まる　⑦ブロードウェイは客席数で３区分ー観客は作品選択が明快　⑧日本が抱える複雑な課題の解決

３日目のゼミ５、６、７は、すべて「公立劇場のイノベーション」の時間に割きました。理由は課題が多岐に亘ることもありましたが、改革の必要性は待ったなしであることと問題提起をするために、方程式を解くように日本の「舞台芸術と公立劇場」はこうでありたいと、順序だてたレクチャーにしました。

ただ結論にあたる最後の項目の１３・１４は、受講者の皆さんと自由討議の場を設けたため発表する時間が取れませんでしたが、一緒に考え議論し、市民と観客と芸術家のために、日本の「公立劇場と舞台芸術」について、見直す時間を共有出来たのではと思います。それから、所属施設の今後の変革や現状についても、思い思いに語ってもらいました。

そして、討論者の曽田さんには、全項目の課題分析と、私の走り過ぎた発言に時には注意を促して頂き、各項目の質問・意見等には二人で答えて、こうして３日目のゼミを無事に終えることが出来ました。皆さんお疲れ様でした。

Ⅴ　ステージラボ

北九州セッション

■2月16日（火） 第1日

【研修スケジュール】

	ホール入門コース	音楽コース	演劇コース
	コーディネーター 能祖 將夫 北九州芸術劇場プロデューサー 桜美林大学教授	コーディネーター 仲道　郁代 ピアニスト 地域創造理事	コーディネーター 内藤　裕敬 劇作家・演出家 南河内万歳一座座長
主会場			
9:00 10:00 11:00 12:00 13:00			
14:00	13:30　受付		
15:00	14:00 オリエンテーション・施設見学等		
16:00 17:00 18:00	15:00 ゼミ1「自己紹介と絵本ワークショップ」 講師：能祖將夫 会場：稽古場	15:00 ゼミ1「音楽ワークショップとは？その1」 ～音楽ワークショップを体験し、目的を考える～ 講師：仲道郁代 会場：小劇場、大ホール楽屋	15:00 ゼミ1「芸術の見方・その1」 講師：内藤裕敬 会場：セミナールーム
	休憩（30分程度）	休憩（30分程度）	休憩（30分程度）
19:00 20:00	18:30～20:00 全体交流会		
21:00 22:00			

■2月17日（水） 第2日

【研修スケジュール】

	ホール入門コース	音楽コース	演劇コース
	コーディネーター 能祖 將夫 北九州芸術劇場プロデューサー 桜美林大学教授	コーディネーター 仲道 郁代 ピアニスト 地域創造理事	コーディネーター 内藤 裕敬 劇作家・演出家 南河内万歳一座座長
主会場			
10:00 11:00 12:00	10:00 ゼミ2「市民参加作品事例紹介」 講師：能祖將夫 会場：稽古場	10:00 ゼミ2「音楽ができること。 音楽を使ってできること。 ～音楽家の立場から見た、 音楽の社会性について～」 講師：仲道郁代 会場：小劇場	10:00 ゼミ2「芸術の見方・その2」 講師：内藤裕敬 会場：セミナールーム
13:00	昼食		
14:00 15:00	13:00 ゼミ3「エピソードを見つけよう」 講師：能祖將夫 会場：稽古場	13:00 ゼミ3「音楽ワークショップとは？その2」 講師：仲道郁代 会場：小劇場	13:00 ゼミ3「芸術の見方・その3」 講師：内藤裕敬 会場：セミナールーム
	休憩（15分程度）	休憩（15分程度）	休憩（15分程度）
16:00 17:00	15:15 ゼミ4「エピソードを掘り下げよう」 講師：能祖將夫 会場：稽古場	15:15 ゼミ4「公共ホールにおける音楽事業の 役割」～音楽を軸とした地域密着型の 活動とは～ 講師:小澤櫻作 会場：小劇場	15:15 ゼミ4「芸術の見方・その4」 講師：内藤裕敬 会場：セミナールーム
	休憩（15分程度）	休憩（15分程度）	休憩（15分程度）
18:00 19:00 20:00	17:30～20：30 共通プログラム 「夕暮れダンスジャック！！」（フラッシュモブ体験）		
21:00 22:00			

■2月18日（木） 第3日

【研修スケジュール】

	ホール入門コース	音楽コース	演劇コース
	コーディネーター 能祖 將夫 北九州芸術劇場プロデューサー 桜美林大学教授	コーディネーター 仲道　郁代 ピアニスト 地域創造理事	コーディネーター 内藤　裕敬 劇作家・演出家 南河内万歳一座座長
主会場			
10:00 11:00 12:00	10:00 ゼミ5「クリエーション」 講師：能祖將夫、白石光隆、井上大輔 藤井友美 会場：中劇場	10:00 ゼミ5「音楽事業を展開するために」 ～公共ホールとして音楽事業を展開するための具体論～ 講師：津村卓、小澤櫻作 会場：小劇場 11:30 グループディスカッション・発表準備	10:00 ゼミ5「戯曲を書く」 講師：内藤裕敬 会場：セミナールーム
13:00	昼食・休憩	昼食・休憩	昼食・休憩
14:00 15:00	13:00 ゼミ6「クリエーション」 講師：能祖將夫、白石光隆、井上大輔 藤井友美 会場：中劇場	13:30 ゼミ6「音楽と他ジャンルとの融合の可能性」 ～共同ゼミ with 演劇チーム～ 講師:内藤裕敬、仲道郁代 会場：小劇場	13:30 ゼミ6「仲道郁代さんとの共同企画・その1」 講師:内藤裕敬、仲道郁代 会場：小劇場
	休憩（15分程度）	休憩（15分程度）	休憩（15分程度）
16:00 17:00	15:15 ゼミ7「クリエーション」 講師：能祖將夫、白石光隆、井上大輔 藤井友美 会場：中劇場	13:30 （続）ゼミ6「音楽と他ジャンルとの融合の可能性」 ～共同ゼミ with 演劇チーム～ 講師:内藤裕敬、仲道郁代 会場：小劇場	15:15 ゼミ7「仲道郁代さんとの共同企画・その2」 講師:内藤裕敬、仲道郁代 会場：小劇場
	休憩（15分程度）	休憩（15分程度）	休憩（15分程度）
18:00 19:00	17:30 ゼミ8「クリエーション」 講師：能祖將夫、白石光隆、井上大輔 藤井友美 会場：中劇場	17:30 ゼミ7「ピアノのひみつ」 ～備品ではない！楽器ピアノのメンテナンスの重要性～ 講師：水谷浩章、仲道郁代 会場：小劇場	17:30 ゼミ8「公共ホール、自主事業の現場と現実・その1」 講師：内藤裕敬、寺田剛史、鵜飼秋子 穴迫信一、藤本瑞樹 会場：セミナールーム
20:00 21:00			

■2月19日（金） 第4日

【研修スケジュール】

	ホール入門コース	音楽コース	演劇コース
	コーディネーター 能祖 將夫 北九州芸術劇場プロデューサー 桜美林大学教授	コーディネーター 仲道　郁代 ピアニスト 地域創造理事	コーディネーター 内藤　裕敬 劇作家・演出家 南河内万歳一座座長
主会場			
10:00 11:00	10:00 ゼミ9「マイライフ・マイステージ」 ～わたしのもりのなか」Aチーム発表 講師：能祖將夫、白石光隆、井上大輔 藤井友美 会場：中劇場	10:00 ゼミ8「音楽ワークショップと共生、教育」 ～音楽ワークショップを生涯教育として捉える～ 講師:苅宿俊文 会場：小劇場	ゼミ9「現場と現実・その2」 講師：内藤裕敬、津村卓 会場：セミナールーム
12:00	昼食・休憩	昼食・休憩	昼食・休憩
13:00 14:00	12:30 ゼミ10「マイライフ・マイステージ ～わたしのもりのなか」Bチーム発表 →ABフィードバック 講師：能祖將夫、白石光隆、井上大輔 藤井友美 会場：中劇場	13:00 ゼミ9「まとめ」 講師：津村卓、仲道郁代 会場：小劇場	13:00 ゼミ10「まとめ」 講師：内藤裕敬 会場：セミナールーム
15:00	14:30 アンケート記入・休憩・移動	14:30 アンケート記入・休憩・移動	14:30 アンケート記入・休憩・移動
16:00	15:00 修了式		
17:00 18:00 19:00 20:00 21:00 22:00			

２　各コースについて

（1）　ホール入門コース

① 総　評

コーディネーター　能祖　將夫

哲学者のアランは、かの『幸福論』の中で「人間は意欲し、ものをつくり出すことによってのみ幸福である」と語ったが、その言葉を待つまでもなく、幸福は創造の中にあるし、創造している時こそが幸福だと私も心から思う一人である。むろん創る苦しみもたっぷりあるが、それもまた幸福のヴァリエーションである。さらにその創造が多くの人との共同作業であり、出来上がった作品を発表して、たくさんの人に喜んでもらえたら、これに勝る幸福はない。

入門コースでは、「市民参加」をテーマに、受講生に市民の立場を体験してもらいながらの作品創りを行った。ホールで働く受講生自身が、ものづくり、作品創りの「幸福」をもう一度実感し直すためであり、市民が参加する「幸福な」クリエーションの場になることが、これからの公共ホールの大きな役割の一つと考えるからである。

今回は『マイライフ・マイステージ〜わたしのもりのなか〜』と題し、受講生一人一人の人生をモチーフにした作品創りを行った。事前に課題を３回出して、「この一週間に起こったこと」、「今までの人生に起こったこと」のエピソードを書いて送ってもらった。喜怒哀楽どの方向でも構わないし、大きなドラマでなくても、どんなにささやかなものでも構わない。そうやって自分を振り返り、文字にしていく。確か「語ること、書くことという一種の〈翻訳〉作業を通じて、〈経験〉ははじめて自分の〈原典〉になる」というようなことを哲学者のメルロ＝ポンティが言っていたが（不確かな引用ですみません）、自分の経験をレポートに書くこと、そしてそれをステージで語ることを通じて、自分の原典づくりを行ったわけだ。

語ると言っても、ただ語るだけではない。ステージとして成立させるために、M. H. エッツの絵本『もりのなか』を作品の枠組みに用い、その物語の構造の中に受講生のエピソードを入れ込んでいった。森に散歩に出掛けた少年が、様々な動物たちと出会い、段々とパレードになっていき、最後に別れる･･･。この絵本、子どもたちだけでなく大人にも人気で、読んでいると森が〈人生〉のメタファに思えてくる味わいがある。さらに一つ一つのエピソードの後に白石光隆さんのピアノ演奏や井上大輔さん、藤井友美さんのダンス・パフォーマンスを連動させて公演としてのクオリティを上げていくという仕組み（説明すると難しそうだけど、実際のステージはシンプルで楽しいです。念のため）。これを受講生と共に文字通り無我夢中で創り、最終日には観客も入れて、劇場での発表公演を行った。観客という他者の視線にさらされることがとても重要で、それがあるからこそ人は高見を目指す。

愛犬の死の話、結婚一年目で妻の誕生日を忘れてしまっていた話、おじいちゃんにむいてもらったミカンの話などなど、計20人の（発表は2組に分かれて行った）それぞれにかけがえのない魅力的なエピソードが「もりのなか」に交錯し、プロのパフォーマンスと絡み合いながら、客席にしっかりと届いていた。受講生には、創作時の高揚感、発表時の集中力、終演時の充実感が〈実感〉としてあったのではないかと思う。この実感から出てくる言葉を、是非また書くこと、語ることに翻訳し、それを自分の原典にして、各ホールに持ち帰ってもらいたい。それは紛れもなく「幸福の原典」だろうし、実感に裏打ちされた創造の種だ。その種が、日本各地のホールという土壌でゆっくりと育っていけば、どれだけ多くの市民が「幸福」になれるだろうかと楽しく妄想してしまう自分がいる。逆に言えば、どれだけ多くの人が、この創造の幸福から閉め出されてしまっている〈不幸な〉現実があるか。喜びを知っ

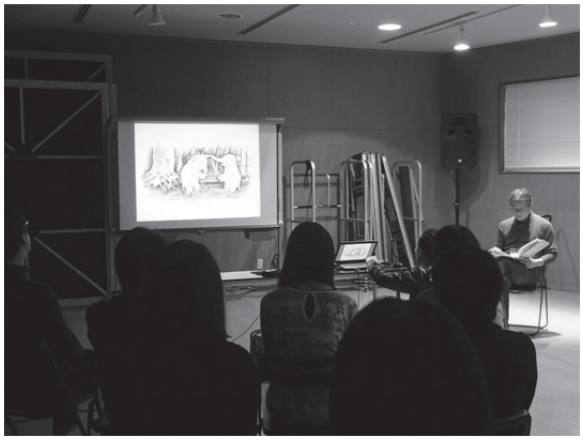
ている者だけが喜びを伝えられるなら、私たち創造に手を染める者は、手を取り合って喜びの輪を大きくしていく義務さえあると感じている。

ステージラボのコーディネーターを務めさせていただくのは今回で6回目になる。最初が1996年の広島、前回が2007年の高松。ほぼ10年ぶりのコーディネーターであるが、この10年の間に公共ホールを取り巻く環境や、期待される役割は随分と変わった。だがコーディネーターの重責を担うときにいつも思うのは、その時点での自分が試されるということである。自分の興味の持ちどころや、その時点で出来る最大のこと。今回も私なりに自分の視点を定め、全力で取り組ませていただいた。このような機会を与えてくださったことに深く感謝を申し上げたい。

②　ゼミ記録

ー第１日ー　２月１６日（火）
ゼミ１　「自己紹介と絵本ワークショップ」
講　師：　能祖　將夫

まずは企画や劇場法の話を簡単に。で、いきなり質問。「自分の人生に欠けていると思うもの」と「今の社会に欠けていると思うもの」（逆に言えば共に「これがあれば豊かになると思うもの」）。色々出ました。前者では、金、ときめき、時間、自分への厳しさ、積極性への勇気など。後者では、他者との交流、イマジネーション、夢、寛容性、古き良きコミュニティなど。で、二つ合わせた全ての中からホールが役立てると思うものに挙手してもらったら、「ワクワク感」が一番に。つまり、ホールとは「ワクワク感」を生む場所という共通認識と目標を設定。休憩を挟んで、絵本『もりのなか』をプロジェクターを用いて私が朗読。その後、自由に感想を述べてもらい、そこから課題を拾って広げていく。声の持つ力、イメージの共有など。途中、「舞台芸術の特性と力」についても言及。自己紹介らしい自己紹介はしなかったが、実は、感想を言うことが一番の自己紹介（つまり自分はこういうことを思う人間であるという表明）であったと最後にバラして終了。



ー第２日ー　２月１７日（水）
ゼミ２　「市民参加作品事例紹介」
講　師：　能祖　將夫

朝のアップを兼ねて『もりのなか』を受講生が１ページずつ朗読。その後、何故この絵本が人気なのか、子供と大人それぞれにとっての魅力について言及。頭が回り始めたところで芸術の力と公共ホールの役割について講義。その中で「創造事業」の部分から、今回は「市民参加作品」を取り上げるべく、私が全国で関わっている作品を映像を交えて事例紹介へ。北九州芸術劇場の『合唱物語　わたしの青い鳥』、大分県　エイトピアおおの（豊後大野市総合文化センター）の『神楽オペラ SHINWA～アマテラスとスサノオ～』、北海道深川市文化交流ホールみ・らいの『音楽物語　わが街深川』、桜美林大学プルヌスホールの『群読音楽劇　銀河鉄道の夜』。それぞれの工夫した点、苦労した点、稽古の様子など現場の実感を交えて紹介。最後に、今回創る舞台のイメージを持つために、以前、めぐろパーシモンホールで公演した際の『マイライフ・マイステージ』を少しばかり鑑賞。

ゼミ２、３　「エピソードを見つけよう、掘り下げよう」

講　師：　能祖　將夫、井上　大輔、藤井　友美

講師であるダンサーの藤井友美さんの指導で簡単な体ほぐしを行った後、いよいよ作品づくりへ。まずは三つの提出課題から一つを選んでそれを原稿を見ずに三分で語ってもらった。一人が終わる度に、それがどう伝わったか、伝わりにくかったかを話しあう。ここが面白かった、ここは要らないのではないか、ここをもっとこうすれば、など。話の構成、言葉の選び方、表情･･･、様々な要素でのツッコミが入る。聞いている人に、話したこと以上のことを想像させることが出来たら（聞き手が自ら想像し、創造する余地があれば）、それは生きた話になる。話が脱線するような枝葉末節は必要ないが、と言って、神は細部に宿るという言葉もある通り、ディティールのリアリティが大事だったりもする。ああだこうだとやっているうちにあっという間に終了。（実は終わらずに、共通プログラム後に戻ってきて、続きをやったのでしたが。）

ー第３日ー　２月１８日（木）
ゼミ５、６、７、８　「クリエーション」

講　師：　能祖　將夫、白石　光隆、井上　大輔、藤井　友美

ダンサーの井上大輔さん、ピアニストの白石光隆さんも入って、今日はいよいよ本格的なクリエーション（明日が本番ですからね･･･）。場所も昨日までの稽古場から中劇場へ。井上さん、藤井さんによるアップの後、一人一人、自分の話を決めて（新しい話もありとして）、舞台でマイクを使って語った。人によっては二つ話してもらって多数決で決めたりも。もちろん原稿は使わないのだが、本人たちは思ったより堂々と話していて一安心。話を聞きながら、こちらでは、この話をどんな曲につなげようか、どんなパフォーマンスに展開させようかと頭の中はフル回転。白石、井上、藤井各氏と、その場でアイディアをぶつけ合いながらも、時間はどんどん経っていく。ここまでで13時20分に。

一時間の昼休憩の後、組分け。シンプルに東と西で分けたら、東チームは北海道から三重まで、西チームは京都から福岡までとなった。男女比もそれぞれ男４名、女６名でバランスがいい。それぞれの順番も仮決め。これから一つ一つの選曲とパフォーマンスを決めていく作業を経て、最終的に通し稽古をやりたいがこれはさすがに欲張りか。まずは東チームから。今回最年少の 18 才での参加、三重県の「鈴鹿マリーナ」さん（もちろんニックネームです）から、高校の吹奏楽部の活動を通して自分が成長したエピソード。彼女の楽器はユーフォニアムなので、選曲はその楽器でよく演奏されるカステレードの「協奏的幻想曲」に。パフォーマンスは彼女が練習する様子を、ダンサーと本人も交えてダンス的な動きで。そして大事なのがタイトル決めで「一皮むけた」とした。こんな手順で、その場で次から次へと決めていく。ピアニスト白石光隆さんとダンサー井上大輔さん、藤井友美さんのなんという引き出しの多さよ！中には、自分が演奏したり歌うことになったりした人も。『わたしのもりのなか』には各人のエピソードの後、全員で行うパフォーマンスもある。それも稽古して東チームが終了したのは17時30分。

お待たせしましたという感じで西チームスタート。東チームの稽古風景を見ていたので進みが速い（見ることが一番の勉強だとはよく言ったもの）。アドレナリンやらドーパミンやら出まくりの無我夢中で創っていって、終わったのは一時間延長の 20 時。そうそう、劇場のスタッフも稽古を見ながら照明づくりやら音響調整やら、あれば嬉しいと口走った小道具の手配やら、手前味噌で恐縮ですが、北九州芸術劇場のスタッフは本当に頼もしいです。予定通り（！）通しは出来なかったけど、いい流れが見えて、後は泣いても笑っても明日の本番を迎えるのみ。ではなく実は、『わたしのもりのなか』には先立って行う短いプロ・ステージがあって、白石、井上、藤井、私は居残りでさらに稽古。

ー第４日ー　２月１９日（金）

ゼミ９　「マイライフ・マイステージ～わたしのもりのなか～」東チーム発表

講　師：　能祖　將夫、白石　光隆、井上　大輔、藤井　友美

いよいよ本番。１０時半からはまず東チーム。お客さんも思った以上に入っていて、５０人ほど。西チームの人も客席に。いい緊張感で本番に。内容は以下の通り。

①「一皮むけた」工藤真里奈（三重県／鈴鹿市民会館・鈴鹿市文化会館）
　♪カステレード　協奏的幻想曲

②「かたなし」橋本順基（三重県／三重県総合文化センター）
　♪ホルスト　木星より

③「夫婦の愛って？」中嶋佳那（静岡県／静岡音楽館 AOI）
　♪ak.homma　愛が呼ぶほうへ

④「ナナとおばあちゃん」平井健太郎（岐阜県／岐阜市文化センター）
　♪シューベルト　岩の上の羊飼い

⑤「あのお仕置き部屋は今いずこ？」阪本千尋（石川県／金沢芸術創造財団）
　♪シューマン　気味の悪い場所　Op.82-4

⑥「四つ葉のクローバー」田村明宏（新潟県／新潟市音楽文化会館）
　♪チャイコフスキー　花のワルツ

⑦「忘れちゃいけない一日」小林弘和（東京都／地域創造）
　♪ハッピーバースディ

⑧「ポチのクーン」古川菜奈美（茨城県／日立市民会館）
　♪ショパン　小犬のワルツ　変ニ長調　Op.64-1

⑨「夜の匂い」岡俊奈（北海道／札幌市教育文化会館）
　♪チャイコフスキー　夜想曲　ヘ長調　Op.10-1

⑩「安心ないびき」石井章代（静岡県／三島市民文化会館）
　♪ゴルソン　クリフォードの思い出

終了後の大きな拍手に一安心。

ゼミ１０　「マイライフ・マイステージ～わたしのもりのなか～」西チーム発表

講　師：　能祖　將夫、白石　光隆、井上　大輔、藤井　友美

１２時開演。午前の部同様、お客様もたくさん入って（中には二回観ている人も）スタート。東チームは客席に。内容は以下の通り。

①「ぼくのアート」森義央（福岡県／宗像ユリックス）
　♪サン=サーンス　水族館の魚
②「わたしの目印」岡加奈子（福岡県／北九州市立響ホール）
　♪シューマン　トロイメライ　Op.15-7
③「うれし泣き」　御園隼汰（福岡県／岡垣サンリーアイ）
　♪中村八大　上を向いて歩こう
④「みかん」福本紗代子（福岡県／北九州芸術劇場）
　♪H.C.ワーク　大きな古時計
⑤「人生を変えたマラソン」犬伏比呂子（徳島県／徳島市新ホール《名称未定》）
　♪J.S.バッハ　フランス組曲５番ト長調　BWV.816 よりクーラント）
⑥「こんな彼だけど･･･♡」西岡恵（広島県／東区民文化センター）
　♪ガーシュイン　あなたに首ったけ
⑦「ガキ大将」内田誠（鳥取県／とりぎん文化会館《鳥取県立県民文化会館》）
　♪武満徹　小さな空
⑧「マイペース」高田永（兵庫県／いたみホール《伊丹市立文化会館》）
　♪ガーシュイン　いつからこんなことになったの？
⑨「先生ありがとう」竹原由香里（兵庫県／神戸文化ホール）
　♪シューマン　献呈　Op.25-1
⑩「セルビアの冬の動物園」岩村空太郎（京都府／京都芸術センター）
　♪バルトーク　熊の踊り

こちらも大きな拍手に二安心。

本番後にフィードバックを行ったが、「達成感」と共に「幸福感」に満たされていたように思う。もちろん、もっとこうしたら良かった、ああしたら良かったということはあるかもしれないが、そんなことを思えるのも「創造の幸福」ならではである。この経験を各ホールに持ち帰り、さらに今度はホール職員の立場で地域の「幸福」につなげてほしい。ああ、みんなに出会えて良かった。お疲れ様でした！

（２）音楽コース

①　総　評

コーディネーター　仲道　郁代

音楽コースでは、音楽事業を何のためにどのように行うことができるのか、ということを多面的に考えることにしました。音楽、特にクラシック音楽は良いものであるから公共ホールにて鑑賞の場をつくりたい。とは、誰もが思うところです。

しかし、クラシックを好きな人たちというのはごく一部の人たちで、それも、ホールを満席にするために努力しなければ席は埋まらないというのも事実です。そこにホールの公共性はあると言えるのでしょうか。

また、子どもたちへの教育のためにも、クラシック音楽は有効である。という大前提は揺るがないけれど、では、どのように何を提供し、働きかけたら良いのか、その道筋はまだまだ検討の余地があります。

上記のような共通認識のもと、まずは音楽が内包する力を味わうところからプログラムはスタートしました。クラシック音楽を鑑賞するプログラムを体験していただきました。これは単なる鑑賞ではなく、心のチャンネルを開く、奏者と聴き手との間にインタラクティブな関係を築くプログラムです。自分が感じることに間違いはない。しかし、人は異なる感じ方を持っている、ということに気づくプログラムです。

それにより、初めて出会った参加者同士が、相手を意識し、かつ自分の内面を見つめる、という体験ができたと思います。

また、それに連なる音楽作りのワークショップでは、鑑賞型と体験型の意味合いの違い、それらがもたらすことを体感できたのではないかと思います。

参加者の方々にとってはおよそ音楽のワークショップとは思えないようなワークショップだったかもしれませんが、考え方の転換に役立ってくれれば嬉しいですし、内藤裕敬さんの演劇コースとの共通ゼミでは、美術や演劇の考え方を取り入れたワークをすることにより、考え方は柔軟で良いのだということも明示できたのではないかと思います。

音楽で何ができるのか、もたらされるものは何かということがおぼろげに感じられてからの、小澤櫻作さんによる地域創造おんかつについての話や、ホールとして音楽事業をどのように展開できるのかといったお話は、実感を持って受け止めていただけたと思います。それに続く津村卓さんからの、演劇を使った展開、ホールを成長させていくための様々な事例は大いに刺激を与えてくれました。さらに小澤さん、津村さんのお話を受けてからの、苅宿先生の音楽を教育学の見地から捉えたお話によって、改めて、なぜ音楽事業が公共ホールにおいて重要な意味をもち、大きな役割を果たし得るものなのかを、論理的に納得できたと思います。

間に挟んだピアノの特性についての講座は、ピアニストとしてピアノという素晴らしい楽器を公共の宝物として大切にしてほしい、という強い想いも込めての講座でした。意外と知られていないピアノの仕組みや、楽器の状態を良くするための構造からみたポイントなどお伝えできたと思います。

最後には、皆で、それぞれの思い、問題点、解決へ向けての考えを共有したことにより、より参加者同士の結束、仲間意識が高まったと思います。

芸術文化の施作は、答えは出ない領域が多くあります。でも、チャレンジはできるのです。そんな前向きな思いを持って終了できたのであればよかったと思います。

②　ゼミ記録

ー第１日ー　２月１６日（火）

ゼミ１　「音楽ワークショップとは？その１～音楽ワークショップを体験し、目的を考える～」

講　師：　仲道　郁代

このコマでは、音楽ワークショップの１つの例を提示するため、日頃仲道が行っているプログラムを行いました。まずは体験していただき、その後どのような考えのもとに行われているのかをお話ししました。

・鑑賞型：演奏を聞いてどのように想像力を羽ばたかせることができるのか。インタラクティブな鑑賞型プログラムのあり方を提示しました。

・体験型：鑑賞するだけではなく、実際に音楽を用いた協働作業でどのようなことを得ることができるのかを体験していただきました。

これらを行った上で、各プログラムの目的や意味の説明をしました。

その後、参加者の気づきを、「音楽ワークショップとは？」というブレーンマップにまとめる作業をしました。これにより、おおよそ、音楽ワークショップというものを客観的に考えるきっかけとなったと思います。

ー第２日ー　２月１７日（水）

ゼミ２　「音楽ができること。音楽を使ってできること。～音楽家の立場から見た、音楽の社会性について～」

講　師：　仲道　郁代

音楽家の立場から考えた音楽の社会性について、仲道が話しました。音楽を単なる嗜好として捉えるのではなく、その社会的な意味合いを認識することは、音楽事業を考える上で不可欠なことです。

その後、下記のテーマについて、グループで話しあい、それぞれ発表しました。

1 音楽の公共性とは何か

2 質の高い公演とは

3 音楽をホールで扱うとは

自分の考えをまとめ、人の話を聞くことにより、考えをより深めることができたこと、また説明するという技を身につける必要性も感じることができたと思います。

ゼミ３　「音楽ワークショップとは？　その２」
講　師：　仲道　郁代

前日とは全く異なる音楽ワークショップを体験していただきました。音楽ワークショップといっても様々な可能性があることを示しました。
このワークショップは、コミュニケーション力が必要とされる難易度の高いもので、最初は戸惑う方も多くいらっしゃいましたが、最後には達成感と仲間意識が強くなり、絆を作ることにもつながっていました。音楽ワークショップが持つチカラを体感できたと思います。

ゼミ４　「公共ホールにおける音楽事業の役割～音楽を軸とした地域密着型の活動とは～」
講　師：　小澤　櫻作

公共ホールにおいて、音楽事業をどのように考え、行うのかということを、地域創造おんかつの事例や、関わっていらっしゃるホールの事例など取り混ぜながらお話しいただき、考え方や仕組みの作り方の基本を学びました。
音楽事業の役割を明確にすることから始めることの大切さを学びました。

ー第３日ー　２月１８日（木）

ゼミ５　「音楽事業を展開するために～公共ホールとして音楽事業を展開するための具体論～」

講　師：　津村　卓、小澤　櫻作

津村卓講師と小澤櫻作講師による「アートと社会をつなぐ」というテーマの講座となりました。
芸術に対する考え方が変化してきている現在の状況を共有し、地域に即したミッションの設定の必要性、劇場の持つ役割の多彩さと、多彩なゆえに芯をもたなくてはならないことなどを、豊富な例とともに、語っていただきました。参加者の問題意識に寄り添い、励ましていただき、意識を高める時間となったと思います。
小澤氏の講演の次に津村氏の講演、と段階を踏むことにより、より核心的な部分に参加者の意識を持っていくことができたと思います。

ゼミ６　「音楽と他ジャンルとの融合の可能性～共同ゼミ with 演劇チーム～」

講　師：　内藤　裕敬、仲道　郁代

内藤氏による、音楽とアートを融合させたワークショップを体験していただきました。このワークは参加者の想像力を飛躍的に広げることができたと思います。

その後、内藤氏と仲道との対談で、想像力を喚起することが、人を作ることにつながるということを、自分たちアーティストとしての例や、社会的観点から、また、参加者全員が納得できる日常的な感覚をもとに、様々なベクトルからの話を展開しました。公共ホールが芸術のプログラムを行うことが、人を豊かにし、生活の質を豊かにすることにつながるのだという実感を持つことになったと思います。

ゼミ７　「ピアノの秘密～備品ではない！　楽器ピアノのメンテナンスの重要性～」
講　師：　水谷　浩章、仲道　郁代

調律師の水谷氏とともに、ピアノの内部を見ていただきながら、メンテナンスの重要性についてお話ししました。大きな体の中にはとても複雑な機構をもつこと、部品は木やフェルトでできているため消耗していくこと、そのため、ピアノの表現力を最大限に生かすためにはメンテナンスが非常に重要だということを、お話ししました。

ー第４日ー　２月１９日（金）
ゼミ８　「音楽ワークショップと共生、教育～音楽ワークショップを生涯教育として捉える～」
講　師：　苅宿　俊文

苅宿俊文氏による、音楽ワークショップが社会にもたらすことができる意味についての講座でした。
この講座は、これまでのゼミにて音楽の必要性について深く考えてきた参加者たちにとって、論理的な裏付けとなるものでした。

音楽ワークショップとは？　音楽ワークショップと共生とは？　そして音楽ワークショップと教育とは？これまでの時間で感じてきたことを明確に言語化し、自身も納得し、他者に語ることができるための材料をいただいたと思います。参加者にとっては、とても心強い論理をもたせてくれた時間となりました。

ゼミ９　「まとめ」
講　師：　津村　卓、仲道　郁代

最後は、津村氏と仲道によるまとめの時間となりました。
想像の扉を開くために何ができるのか。
学校教育の中に音楽はどのように入っていけるのか。
公共ホールの立場として何を考えることができるのか。
音楽事業の有効性を説明するために何が必要なのか。
それぞれ、グループでディスカッションを行いました。
公共ホールの現在が見える、そして、そこから何を打破しなくてはならないのかが明確に見える発表となりました。
参加者同士がお互いに問題を共有し、共に考えることによって仲間意識が芽生え、また講師からのアイデアやエールにより、皆で頑張ろうという共有意識も芽生えたと思います。

（3）演劇コース

① 総　評

コーディネーター　内藤　裕敬

私にとって二度目のラボ・コーディネーターとなったが、今回も様々な課題を抱えた各地からの参加者は、それぞれに４日間を通し熱心に取り組んでおられた。

初日は、まず、地域とホールの現状、直面する現実を各々に話してもらい、担当者としての悩み、未来へ向かう為の問題点などの認識を確認してもらうことから始めた。これが、明確な自己紹介となり、全参加メンバーの地域的個性、個人の人柄までも、お互いに知ることができ、４日間を共に過ごす仲間達の構成が明らかになった。各ゼミの内容に追加せねばならぬ要素も発見でき、何より、参加者が、いくつかの共通した課題の中にあることもわかった。番外ゼミや休み時間なども、それについての世間話しもできる。ゼミ後のネットワーク作りやコミュニケーションにも役立つ。全員が、ほぼ同じ方向を向いてゼミを受講する基礎が出来上がった。

今回のゼミの内容は、大きく分けて三つ。公共ホールの劇場担当である以上、地域文化振興の為、有効な芸術性に着目する感性を持たねばならない。それは映画、演劇、音楽、ダンス、等々。事業として取り上げ、取り組む価値ある想像性に気づけなければならない。芸術の「見方」「楽しみ方」その基本を確認すること。それは、アウトリーチのプログラムに対してもである。また、実際に事業化する場合の立案、企画、計画、実施も含めなければならない。作品について。アウトリーチについて。実施について。この三つが必要と考えた。

二日目、その全ての時間を使って、一般には難解とされる、スタンリー・キューブリック監督の「フルメタル・ジャケット」についての考察に費した。

映画鑑賞後、参加の方々は、やはり、その内容の難解さに首をひねっておられたが、キーワードとなる台詞の解釈、主人公の物語り上の体験、全体のストーリー構造を、一つ一つ検証してゆくうちに、明確なメッセージとシンプルなテーマが浮き上がり、一見、難解な映画も、実は誰にでも伝わるリアリティーで作られていることを実感した。これを、グループワークで読み解く作業は、様々な意見、感性、イメージ、想像力の交換となり、何よりも、一本の映画について、一日中話し合っても退屈しない、むしろ、作品世界に踏み込んで考えることが、とても面白い、楽しいことの体験が重要だった。作品の「見方」「楽しみ方」の実践となった。

三日目、芸術作品は、想像力にアプローチするものだということを確認の上、アウトリーチも同様であることを、仲道氏との共通プログラムで実施した。

音楽と絵画を使用し、作品と想像力を遊ぶことを実感。答えを求める為の思考は、自身の経験、学習、知識の内側に解を捜す作業だ。その方法は、どうしても専門家の解説に近づいてしまう。しかし、作品世界を想像力とイメージで遊べれば、個々の感性から豊かな世界感が発見、開発され、自身の外側に様々な「気づき」を生む。想像力の持つ可能性は、そこにある。アートのアウトリーチプログラムの良し悪しも、そこで決まる。想像力を芸術によって遊ぶことの重要性。その為に、芸術作品の持つ可能性の大きさ。仲道氏との２５年に及ぶ作業の体験談も交え、アートのアウトリーチプログラムの価値、そのクオリティーの判断要素を確認できる体験となっただろう。

三日目の夜から最終日までは、実践偏として、北九州芸術劇場の自主事業「Ｒｅ：北九州の記憶」の立案から実施に至る過程と現状を、関係者に聞くことから始めた。

この企画は、地元のお年寄りに取材し、個人史の中から街と時代を掘り起こし、それをモチーフとしたオリジナル台本を作制、上演までの事業だ。記録ではなく記憶を残して行く作業。劇場と地域とのコミュニケーションが深まり、普段は劇場と縁遠かった人達が公演日に足を運んで下さる。過去だけでなく、現在、この街に暮らす若者達にも刺激的な上演となっている。しかし、地域に若手の劇作家が多数活躍していなければ実現できず、その育成からスタートせねばならぬという条件もあり、公共の取り組みとして大変に根気が必要でもある。

立案から実施まで３年を要し、今年で５回目を終えた。１０年を目指して発展的に考えている。予算から必要な制作手続きまで、多くの質問が参加者から発せられ、市民参加の成功例ではあるが、そこに係る担当者の努力と組織の協力の大きさも実感できたのではないだろうか。

続けて、長野県上田市　サントミューゼの市民参加劇「真田風雲録」についても、開館一年目の劇場が未来へ向かう為の地固め。地域へのアプローチ、その基本計画と実施に向けて、館長の津村氏を中心にお話を聞いた。興味深かったのは、それぞれの地域で、劇場を囲む状況と環境は大きく違うが、いずれにせよ地域と密着した事業を展開する為には、地域の潜在能力の発掘、もしくは、その育成から始めねばならぬということだ。まったく、その通りで、シンプルな方針だが、意外に劇場の企画が、そのシンプルから離れてしまうことも事実だ。裸の王様にならぬようにしなければならない。予算や諸々の行政事情により、気がつけばホールの孤立は思い当たる節がある。プロデュースの根本を確認できたと思える。

さて、４日間を終え、参加者の多くが語ったのは、自分を含め、ホール担当者の多くが、専門的研修をほとんど受けずに担当者となり、突然、地域の現状と向かい合い、考える間もなく事業に当たっているということだ。ステージラボのような機会は必要で、それに参加できて良かったと感想をもたれていた。各地へ帰り仕事も山積みだろう。地域に合わせて、まず、何を始めなければならないのか？その的を絞って踏み出すことから始めねばならない。その参加に、今回のラボが役立てば、うれしい。参加者の今後に期待したい。

② ゼミ記録

ー第１日ー　２月１６日（火）
ゼミ１「芸術の見方・その１」
講師：内藤　裕敬

最初に体を少し動かし、その後、地域とホールの現状を話してもらう。これが、明確な自己紹介となり、各々の地域的個性、個人の人柄までもお互いに知ることができた。また、芸術の「見方」「楽しみ方」その基本を確認した。

ー第２日ー　２月１７（水）
ゼミ２、３、４「芸術の見方・その２、３、４」
講師：内藤　裕敬

一般には難解とされる、スタンリー・キューブリック監督の「フルメタルジャケット」を鑑賞。キーワードとなる台詞の解釈、主人公の物語上の体験、全体のストーリー構造を一つ一つ検証していくうちに、明確なメッセージとシンプルなテーマが浮き上がり、一見、難解な映画も実は誰にでも伝わるリアリティで作られていることを実感した。

ー第３日ー　２月１８日（木）
ゼミ５「戯曲を書く」
講師：内藤　裕敬

内容を変更。モナリザを使って、芸術を遊ぶことの大切さを体験した。

ゼミ６、７「仲道郁代さんとの共同企画・その１、２」
講師：内藤　裕敬、仲道　郁代

音楽と絵画を使用し、作品と想像力を遊ぶことを実感。また、仲道氏との２５年に及ぶ作業の体験談も交え、アートのアウトリーチプログラムの価値、そのクオリティーの判断要素を確認した。

ゼミ８「公共ホール、自主事業の現場と現実・その１」
講師：内藤　裕敬、寺田　剛史、鵜飼　秋子、穴迫　信一、藤本　瑞樹

北九州芸術劇場の自主事業「Ｒｅ：北九州の記憶」の立案から実施に至る過程と現状を、関係者に聞く。予算から必要な制作手続きまで、多くの質問が参加者から発せられ、市民参加の成功例ではあるが、そこに係る担当者の努力と組織の協力の大きさも実感できたのではないだろうか。

ー第３日ー　２月１９日（金）
ゼミ９「公共ホール、自主事業の現場と現実・その２」
講師：内藤　裕敬、津村　卓

長野県上田市　サントミューゼの市民参加劇「真田風雲録」についても、開館一年目の劇場が未来へ向かう為の地固め。地域へのアプローチ、その基本計画と実施に向けて、館長の津村氏を中心にお話を聞いた。

ゼミ１０「まとめ」
講師：内藤　裕敬

参加者の多くが語ったのは、自分を含め、ホール担当者の多くが、専門的研修をほとんど受けずに担当者となり、突然、地域の現状と向かい合い、考える間もなく事業に当たっているということだ。ステージラボのような機会は必要で、それに参加できて良かったと感想をもたれていた。

３　共通プログラム
「夕暮れダンスジャック！！！」

（１）　日時・会場

２月１７日（水）１７：３０～２０：００

北九州芸術劇場 中劇場、小倉駅コンコース

（２）　出演者

北村成美（ダンサー・振付家）、今村貴子（ダンサー）、赤シャツダンサーズ

ホール入門コース・音楽コース・演劇コース参加者のみなさん

（３）　概要及び目的

北九州芸術劇場では、初めてダンスに触れる人やダンスをより深めたい人など、どんな方でもダンスを楽しむことができる事業【ダンスダイブウィーク】を 2013 年から続けており、ワークショップ、レクチャー、ショーケース公演など様々な企画を実施している。「夕暮れダンス」はその中の人気企画で、焼き鳥屋やビアホール、街なかなどに突然“北村成美と赤シャツダンサーズ”が現れ、オリジナルダンスでお客さんや通行人も巻き込みながら盛り上がっていくものである。

ホール職員は普段パフォーマンスをする側に立つことは少ないが、この企画を体験することで、表現する側の視点やその楽しさ・喜びを知り、また、フラッシュモブを作り上げる中で、大人数での作品作りのプロセスを凝縮して味わうことが出来る。それらの経験が各地域での事業展開や活動に還元されることを期待し、また北九州芸術劇場の地域での取り組みを知っていただきたく、今回のプログラムを企画した。

（４）　内　容

まずは北九州芸術劇場の中劇場にて、北村成美さんによる振り付けワークショップが行われた。「夕暮れダンス」のダンサーは赤シャツを身につけることが必須のため、参加者も各々で持参した赤い服に着替えて集合。事前に振り付け動画を配信していたこともあり、振り付けは比較的すぐに揃い、繰り返し踊りながら座学で硬くなった体をほぐしていった。北村さんならではのエネルギッシュな指導も相まって、熱気にあふれたワークショップとなり、終了後は全員で小倉駅コンコースへ移動した。

19 時過ぎ、北村さんの「ミュージック、スタート！」の声に合わせて、北九州の“赤シャツダンサーズ”が登場。参加者とともに『コクラバーナ』と、『銀河鉄道９９９』の２曲を披露し、帰宅ラッシュの小倉駅で多くの人々が足を止め、最終的には飛び入りの一般の方も加わるなど、大いに盛り上がった。

終了後は中劇場に戻り、劇場担当者より今回の企画趣旨などを説明し、クールダウンのストレッチに入る。そのまま終わると思いきや、北村さんがソロダンスを披露するというサプライズが。プロのダンスを間近で観た後、再度みんなで『コクラバーナ』を踊り、全編が終了した。参加者の充実した表情が印象的であった。

Ⅵ　参加者リスト

ステージラボ札幌セッション参加者リスト

<table>
<tr><td rowspan="3">都道府県名</td><td rowspan="3">ふりがな
参加者氏名</td><td rowspan="3">所属
職名</td><td colspan="2">担当施設名</td></tr>
<tr><td colspan="2">開館年</td></tr>
<tr><td>ホール1</td><td>座席数</td></tr>
<tr><td rowspan="4">No.</td><td colspan="2" rowspan="3">所属住所
TEL／FAX</td><td>ホール2</td><td>座席数</td></tr>
<tr><td>ホール3</td><td>座席数</td></tr>
<tr><td colspan="2">自主事業</td><td>事業予算</td></tr>
</table>

【参加者名簿】

1.ホール入門コース

01.北海道	さとう　れいな 佐藤　令奈	公益財団法人札幌市芸術文化財団 企画課企画係	札幌市民交流プラザ			
			開館年	2018年（予定）		
			札幌文化芸術劇場		2300席	
No.	〒　060-8649		オープンスタジオ		130㎡	
1	北海道札幌市中央区中島公園1-15　札幌コンサートホール内総務課		ワークスタジオ		140㎡	
	TEL 011-521-5114　／　FAX 011-513-4121		自主事業	b. 1本～10本	事業予算	f. 1億円以上

01.北海道	にしざか　かずこ 西坂　和子	NPO法人深川市舞台芸術交流協会 受付事務	深川市文化交流ホール　み・らい			
			開館年	2004年		
			ホール		932.3㎡	
No.	〒　074-0005		創作活動室1		37.10㎡	
2	北海道深川市5条7番20号		創作活動室2		42.54㎡	
	TEL 0164-23-0320　／　FAX －		自主事業	c. 11本～20本	事業予算	b. 1円～1,000万円未満

03.岩手県	すがわら　のりあき 菅原　徳亮	一般財団法人北上市文化創造 総務課	北上市文化交流センターさくらホール			
			開館年	2003年		
			大ホール		1503席	
No.	〒　024-0084		中ホール		471席	
3	岩手県北上市さくら通り二丁目1番1号		小ホール		225.9㎡	
	TEL 0197-61-3300　／　FAX 0197-61-3301		自主事業	d. 21本以上	事業予算	f. 1億円以上

04.宮城県	わかばやし　あいこ 若林　あい子	仙南地域広域行政事務組合 仙南芸術文化センター 企画係　主事	仙南芸術文化センター（えずこホール）			
			開館年	1996年		
			えずこホール		802席	
No.	〒　989-1267		－		－	
4	宮城県柴田郡大河原町字小島1-1		－		－	
	TEL 0224-52-3004　／　FAX 0224-51-1130		自主事業	d. 21本以上	事業予算	d. 3,000万円～5,000万円未満

07.福島県	たかぎ　みお 高木　未緒	いわき芸術文化交流館アリオス 施設管理課　施設サービスグループ	いわき芸術文化交流館アリオス			
			開館年	2008年		
			大ホール		1705席	
No.	〒　970-8026		中劇場／小劇場		687席／233席	
5	福島県いわき市平字三崎1番地6		音楽小ホール		200席	
	TEL 0246-22-7418　／　FAX 0246-22-8181		自主事業	d. 21本以上	事業予算	f. 1億円以上

08.茨城県	ふだ　さおり 札　沙織	公益財団法人日立市民科学文化財団 交流事業課　主事	日立シビックセンター			
			開館年	1990年		
			音楽ホール		825席	
No.	〒　317-0073		多用途ホール		約200席	
6	茨城県日立市幸町1－21－1		－		－	
	TEL 0294-24-7711　／　FAX 0294-24-7970		自主事業	d. 21本以上	事業予算	f. 1億円以上

08.茨城県	おかだ　ゆうた 岡田　勇太	茨城県小美玉市役所 市民生活部文化課　主事	小美玉市四季文化館（みの～れ）			
			開館年	2002年		
			大ホール		600席	
No.	〒　319-0132		小ホール		300席	
7	茨城県小美玉市部室1069		練習室1		72.60㎡	
	TEL 0299-48-4466　／　FAX 0299-48-4467		自主事業	d. 21本以上	事業予算	c. 1,000万円～3,000万円未満

13.東京都	まつもと　のりひと 松本　教仁	一般財団法人地域創造 総務部　副参事	－			
			開館年	－		
			－		－	
No.	〒　107-0052		－		－	
8	東京都港区赤坂2-9-11　オリックス赤坂2丁目ビル9階		－		－	
	TEL 03-5573-4057　／　FAX 03-5573-4070		自主事業	－	事業予算	－

13.東京都	さとう　ひさし 佐藤　尚	一般財団法人地域創造 総務部　副参事	–		
			開館年	–	
			–		–
No.	〒　107-0052		–		–
9	東京都港区赤坂2-9-11　オリックス赤坂2丁目ビル9階		–		–
	TEL　03-5573-4164　／　FAX　03-5573-4070		自主事業	–	事業予算　–

20.長野県	やまだ　かずひろ 山田　和広	長野県上田市役所 総務担当　主査	上田市交流文化芸術センター　サントミューゼ		
			開館年	2014年	
			大ホール		1650席
No.	〒　386-0025		小ホール		372席
10	長野県上田市天神三丁目15番15号		常設展示室		372席
	TEL　0268-27-2000　／　FAX　0268-27-2310		自主事業	c. 11本～20本	事業予算　f. 1億円以上

23.愛知県	ささやま　みき 笹山　実希	長久手市文化の家 事業係　主事	長久手市文化の家		
			開館年	1998年	
			森のホール		819席
No.	〒　480-1166		風のホール		300席
11	愛知県長久手市野田農201番地		–		–
	TEL　0561-61-3411　／　FAX　0561-61-2510		自主事業	d. 21本以上	事業予算　e. 5,000万円～1億円未満

28.兵庫県	しらはま　しょうえい 白浜　将永	公益財団法人神戸市民文化振興財団 事業一部　ホール運営課・事務職員	神戸文化ホール		
			開館年	1973年	
			大ホール		2043席
No.	〒　650-0017		中ホール		904席
12	兵庫県神戸市中央区楠町4丁目2－2		–		–
	TEL　078-351-3535　／　FAX　078-351-3121		自主事業	d. 21本以上	事業予算　f. 1億円以上

32.島根県	いしくら　つかさ 石倉　司	島根県安来市役所 市民生活部　市民会館開館準備室　主幹	安来市民会館（仮称）		
			開館年	2017年（予定）	
			大ホール		1000席
No.	〒　692-8686		小ホール		300席
13	島根県安来市安来町878-2		–		–
	TEL　0854-23-3039　／　FAX　0854-23-3155		自主事業	–	事業予算　–

40.福岡県	にしなか　くにこ 西中　都子	公益財団法人北九州市芸術文化振興財団 舞台事業課	北九州芸術劇場		
			開館年	2003年	
			大ホール		1269席
No.	〒　803-0812		中劇場		700席
14	福岡県北九州市小倉北区室町1－1－11		小劇場		96～216席
	TEL　093-562-2620　／　FAX　093-562-2633		自主事業	d. 21本以上	事業予算　f. 1億円以上

40.福岡県	ながた　りん 永田　凜	公益財団法人大野城まどかぴあ 文化芸術振興課	大野城まどかぴあ		
			開館年	1996年	
			大ホール		783席
No.	〒　816-0934		小ホール		118席
15	福岡県大野城市曙町二丁目3番1号		多目的ホール		300席
	TEL　092-586-4040　／　FAX　092-586-4021		自主事業	d. 21本以上	事業予算　e. 5,000万円～1億円未満

42.長崎県	すずき　なつみ 鈴木　夏美	長崎市役所経済局文化観光部文化振興課 一般職	長崎ブリックホール		
			開館年	1998年	
			大ホール		2002席
No.	〒　852-8104		国際会議場		最大542席
16	長崎県長崎市茂里町2－38		–		–
	TEL　095-842-3782　／　FAX　095-842-3784		自主事業	d. 21本以上	事業予算　c. 1,000万円～3,000万円未満

【参加者名簿】

1.ホール入門コース

43.熊本県	いづの　ふきこ 伊津野　芙希子	公益財団法人熊本県立劇場 総務課　主任	熊本県立劇場			
			開館年	1982年		
			コンサートホール		1810席	
No. 17	〒　862-0971 熊本県熊本市中央区大江2-7-1 TEL 096-363-2233　／　FAX 096-371-5246		演劇ホール		1172席	
			–		–	
			自主事業	d. 21本以上	事業予算	e. 5,000万円～1億円未満

【参加者名簿】

2.事業入門コース

01.北海道	みうら　ひろき 三浦　弘樹	公益財団法人札幌市芸術文化財団 管理課　業務係	札幌芸術の森			
			開館年	1986年		
			野外ステージ		1416㎡	
No.	〒　005-0864		アートホール（アリーナ）		645㎡	
1	北海道札幌市芸術の森2丁目75番地		アートホール（大練習室）		488㎡	
	TEL 011-592-5111	／　FAX 011-592-4120	自主事業	d. 21本以上	事業予算	f. 1億円以上

01.北海道	いがらし　ありさ 五十嵐　あり沙	NPO法人はまなすアート＆ミュージック・プロダクション 総務	岩見沢市民会館・文化センター			
			開館年	2003年		
			大ホール		1183席	
No.	〒　068-0029		中ホール		514席	
2	北海道岩見沢市9条西4丁目1-1		–		–	
	TEL 0126-22-4233	／　FAX 011-351-2556	自主事業	b. 1本～10本	事業予算	d. 3,000万円～5,000万円未満

01.北海道	たにぐち　しんのすけ 谷口　伸乃介	一般財団法人中標津町文化スポーツ振興財団 文化振興課　文化振興係	中標津町総合文化会館			
			開館年	1995年		
			しるべっとホール(大ホール)		1010席	
No.	〒　086-1002		コミュニティホール(小ホール)		306席	
3	北海道標津郡中標津町東2条南3丁目1-1　中標津町総合文化会館内		–		–	
	TEL 0153-73-1131	／　FAX 0153-72-7767	自主事業	c. 11本～20本	事業予算	b. 1円～1,000万円未満

02.青森県	いわだて　ちわ 岩舘　千和	八戸ポータルミュージアム 企画運営グループ　コーディネーター	八戸ポータルミュージアム			
			開館年	2011年		
			シアター1		126㎡	
No.	〒　031-0032		シアター2		141㎡	
4	青森県八戸市三日町11-1		はっちひろば		179㎡	
	TEL 0178-22-8228	／　FAX 0178-22-8808	自主事業	d. 21本以上	事業予算	d. 3,000万円～5,000万円未満

13.東京都	ゆざわ　ともみ 湯澤　智美	一般財団法人地域創造 総務部　副参事	–			
			開館年	–		
			–		–	
No.	〒　107-0052		–		–	
5	東京都港区赤坂2-9-11　オリックス赤坂2丁目ビル9階		–		–	
	TEL 03-5573-4184	／　FAX 03-5573-4070	自主事業	–	事業予算	–

16.富山県	いかり　たいき 五十里　大樹	公益財団法人富山県文化振興財団 新川文化ホール　主任	新川文化ホール			
			開館年	1996年		
			大ホール		1186席	
No.	〒　937-0853		小ホール		297席	
6	富山県魚津市宮津110番		展示ホール		703㎡	
	TEL 0765-23-1123	／　FAX 0765-23-0534	自主事業	c. 11本～20本	事業予算	d. 3,000万円～5,000万円未満

23.愛知県	つるた　としゆき 鶴田　智之	一般財団法人ちりゅう芸術創造協会 事業係	知立市民文化会館（パティオ池鯉鮒）			
			開館年	2000年		
			かきつばたホール		1004席	
No.	〒　472-0026		花しょうぶホール		293席	
7	愛知県知立市上重原町間瀬口116番地		–		–	
	TEL 0566-83-8100	／　FAX 0566-83-8110	自主事業	d. 21本以上	事業予算	e. 5,000万円～1億円未満

36.徳島県	うの　よしのり 宇野　榮展	公益財団法人徳島県文化振興財団 事業課　主事	あわぎんホール			
			開館年	1971年		
			ホール		809席	
No.	〒　770-0835		小ホール		288席	
8	徳島県徳島市藍場町2丁目14		大会議室		533席	
	TEL 088-622-8121	／　FAX 088-622-8123	自主事業	c. 11本～20本	事業予算	e. 5,000万円～1億円未満

40.福岡県	やまだ　あきこ 山田　晃子	公益財団法人福岡市文化芸術振興財団 舞台芸術振興課	–
			開館年　–
			–　–
No. 9	〒　810-0802 福岡県福岡市博多区中洲中島町3-10　福岡県消防会館6F TEL　092-263-6266　／　FAX　092-263-6259		–　–
			–　–
			自主事業　c. 11本～20本　事業予算　e. 5,000万円～1億円未満

40.福岡県	たかはし　ゆう 高橋　優	公益財団法人北九州芸術文化振興財団 舞台芸事業課	北九州劇場
			開館年　2003年
			大ホール　1260席
No. 10	〒　803-0812 福岡県北九州市小倉北区室町一丁目1-1-11 TEL　093-562-2620　／　FAX　093-562-2633		中劇場　700席
			小劇場　120～216席
			自主事業　d. 21本以上　事業予算　f. 1億円以上

【参加者名簿】

3.音楽コース

01.北海道	すがの　さやか 菅野　沙弥佳	公益財団法人札幌市芸術文化財団 事業課営業係	札幌コンサートホール Kitara			
			開館年	1997		
			大ホール		2008席	
No.	〒　064-8649		小ホール		453席	
1	北海道札幌市中央区中島公園1-15		–		–	
	TEL 011-520-2000 ／ FAX 011-520-1575		自主事業	d. 21本以上	事業予算	f. 1億円以上

01.北海道	おかだ　てつや 岡田　哲弥	NPO法人はまなすアート＆ミュージック・プロダクション 総務	岩見沢市民会館・文化センター			
			開館年	2003年		
			大ホール		1183席	
No.	〒　068-0029		中ホール		514席	
2	北海道岩見沢市9条西4丁目1-1		–		–	
	TEL 0126-22-4233 ／ FAX 011-351-2556		自主事業	b. 1本～10本	事業予算	d. 3,000万円～5,000万円未満

08.茨城県	もりした　みき 森下　美紀	茨城県小美玉市役所 市民生活部　生活文化課	小美玉市小川文化センター　アビオス			
			開館年	1982		
			大ホール		1200席	
No.	〒　311-3423		小ホール		300席	
3	茨城県小美玉市小川225番地		–		–	
	TEL 0299-58-0921 ／ FAX 0299-58-0923		自主事業	c. 11本～20本	事業予算	c. 1,000万円～3,000万円未満

11.埼玉県	いのうえ　ともひこ 井上　知彦	公益財団法人さいたま市文化振興事業団 事業課　管理係主査	さいたま市文化センター			
			開館年	1985		
			大ホール		2006席	
No.	〒　336-0024		小ホール		304席	
4	埼玉県さいたま市南区根岸１丁目7-1		多目的ホール		320㎡	
	TEL 048-866-3467 ／ FAX 048-837-2572		自主事業	d. 21本以上	事業予算	e. 5,000万円～1億円未満

14.神奈川県	やすだ　たまよ 安田　珠与	公益財団法人神奈川芸術文化財団 業務課　主事	神奈川県立音楽堂			
			開館年	1954		
			ホール		1054席	
No.	〒　220-0044		–		–	
5	神奈川県横浜市西区紅葉ヶ丘9-2		–		–	
	TEL 045-263-2567 ／ FAX 045-243-6216		自主事業	c. 11本～20本	事業予算	e. 5,000万円～1億円未満

14.神奈川県	おおたき　のぶゆき 大瀧　誠之	公益財団法人横浜市芸術文化振興財団 横浜能楽堂	横浜能楽堂			
			開館年	1996		
			本舞台		486席	
No.	〒　220-0044		–		–	
6	神奈川県横浜市西区紅葉ヶ丘27-2		–		–	
	TEL 045-263-3050 ／ FAX 045-263-3031		自主事業	d. 21本以上	事業予算	e. 5,000万円～1億円未満

14.神奈川県	さるかわ　なお 猿川　尚	公益財団法人横浜市芸術文化振興財団 事業企画グループ	横浜みなとみらいホール			
			開館年	1998		
			大ホール		2020席	
No.	〒　220-0012		小ホール		440席	
7	横浜市西区みなとみらい2-3-6		レセプションルーム		176㎡	
	TEL 045-682-2020 ／ FAX 045-682-2023		自主事業	d. 21本以上	事業予算	f. 1億円以上

15.新潟県	いとう　かおり 伊藤　香織	公益財団法人新潟市芸術文化振興財団 事業企画部　音楽企画課	りゅーとぴあ　新潟市民芸術文化会館			
			開館年	1998		
			コンサートホール		1884席	
No.	〒　951-8132		劇場		868席	
8	新潟県新潟市中央区一番掘町3-2		能楽堂382		–	
	TEL 025-224-7000 ／ FAX 025-224-5626		自主事業	d. 21本以上	事業予算	f. 1億円以上

23.愛知県	しばた　たかひろ 柴田　崇博	公益財団法人豊田市文化振興財団 豊田市コンサートホール・能楽堂	豊田市コンサートホール・能楽堂		
			開館年	1998	
			豊田市コンサートホール		1004席
No.	〒　471-0025		多目的ルーム		458席
9	愛知県豊田市西町1-200（豊田市参合館8階）		多目的ルーム		90㎡
	TEL 0565-35-8200 ／ FAX 0565-37-0011		自主事業	d. 21本以上	事業予算　f. 1億円以上

24.三重県	たなか　しゅん 田中　峻	公益財団法人四日市市文化まちづくり財団 文化振興グループ	四日市市文化会館		
			開館年	–	
			第1ホール		1786席
No.	〒　510-0075		第2ホール		596席
10	三重県四日市市安島2丁目5-3		–		–
	TEL 059-354-4501 ／ FAX 059-354-4093		自主事業	d. 21本以上	事業予算　f. 1億円以上

27.大阪府	やまさき　ちあき 山咲　千亜紀	公益財団法人河内長野市文化振興財団 ラブリーホールチーム　事業グループ	河内長野市立文化会館　ラブリーホール		
			開館年	1992	
			大ホール		1308席
No.	〒　586-0016		小ホール		464席
11	大阪府河内長野市西代町12-46		–		–
	TEL 0721-56-6100 ／ FAX 0721-56-6111		自主事業	d. 16人～20人	事業予算　e. 5,000万円～1億円未満

33.岡山県	なかはま　さとみ 中濵　里美	公益財団法人岡山シンフォニーホール 文化事業部	岡山シンフォニーホール		
			開館年	1991	
			大ホール		2001席
No.	〒　700-0822		イベントホール		200席
12	岡山県岡山市北区表町1-5-1		–		–
	TEL 086-234-2001 ／ FAX 086-234-1968		自主事業	d. 21本以上	事業予算　f. 1億円以上

34.広島県	うちだ　こうへい 内田　広平	公益財団法人広島市文化財団 事業推進員	JMSアステールプラザ		
			開館年	1991	
			大ホール		1204席
No.	〒　730-0812		中ホール		547席
13	広島市中区加古町4番17号		多目的スタジオ		285㎡
	TEL 082-244-8000 ／ FAX 082-246-5808		自主事業	d. 21本以上	事業予算　e. 5,000万円～1億円未満

34.広島県	こうち　まゆみ 河内　真由美	公益財団法人広島市文化財団 西区民文化センター・事業推進員	広島市西区民文化センター		
			開館年	1989	
			ホール		404㎡
No.	〒　700-0822		–		–
14	広島市西区横川新町6番1号		–		–
	TEL 082-234-1960 ／ FAX 082-293-1860		自主事業	c. 11本～20本	事業予算　b. 1円～1,000万円未満

40.福岡県	かたおか　ゆいこ 片岡　維子	公益財団法人北九州市芸術文化振興財団 音楽事業課	北九州市立響ホール		
			開館年	1993年	
			大ホール		720席
No.	〒　805-0062		リハーサル室		173㎡
15	北九州市八幡東区平野1-1-1 国際村交流センター内		研修室		50㎡
	TEL 093-662-4010 ／ FAX 093-662-0100		自主事業	c. 11本～20本	事業予算　e. 5,000万円～1億円未満

43.熊本県	さとう　ななえ 佐藤　奈々絵	公益財団法人熊本県立劇場 企画事業課　アシスタントプロデューサー	熊本県立劇場		
			開館年	1982年	
			コンサートホール		1810席
No.	〒　862-0971		演劇ホール		1172席
16	熊本県熊本市中央区大江2-7-1				
	TEL 096-363-2233 ／ FAX 096-371-5246		自主事業	d. 21本以上	事業予算　e. 5,000万円～1億円未満

ステージラボ　公立ホール・劇場
マネージャーコース参加者リスト

<table>
<tr><td rowspan="3">都道府県名</td><td>ふりがな</td><td rowspan="3">所属
職名</td><td colspan="2">担当施設名</td></tr>
<tr><td rowspan="2">参加者氏名</td><td colspan="2">開館年</td></tr>
<tr><td>ホール1</td><td>座席数</td></tr>
<tr><td rowspan="4">No.</td><td colspan="2" rowspan="3">所属住所</td><td>ホール2</td><td>座席数</td></tr>
<tr><td>ホール3</td><td>座席数</td></tr>
<tr><td colspan="2">TEL／FAX</td><td>自主事業</td><td>事業予算</td></tr>
</table>

10.群馬県	さとう いくお 佐藤 育男	公益財団法人高崎市文化スポーツ振興財団 文化芸術センター部門企画部・統括事業課長	–			
			開館年	2018年（予定）		
			大ホール	–		
No.	〒 370-8501		小ホール	–		
1	群馬県高崎市高松町35番地1（市役所4階）		スタジオ	–		
	TEL 027-321-1213 ／ FAX 027-321-1229		自主事業	c. 11本～20本	事業予算	e. 5,000万円～1億円未満

10.群馬県	とさか あやこ 登坂 綾子	公益財団法人群馬県教育文化事業団 事務局 事業課 課長	群馬県民会館（ベイシア文化ホール）			
			開館年	1971年		
			大ホール		1,997席	
No.	〒 371-0017		小ホール		499席	
2	群馬県前橋市日吉町1-10-1		–		–	
	TEL 027-232-1111 ／ FAX 027-232-1115		自主事業	c. 11本～20本	事業予算	c. 1,000万円～3,000万円未満

11.埼玉県	わたなべ ともこ 渡邉 朋子	特定非営利活動法人MCAサポートセンター 代表理事	宮代町立コミュニティセンター進修館			
			開館年	1980年		
			大ホール		600席	
No.	〒 345-0822		小ホール		150席	
3	埼玉県南埼玉郡宮代町笠原1-1-1		–		–	
	TEL 0480-33-3846 ／ FAX 0480-33-3846		自主事業	b. 1本～10本	事業予算	b. 1円～1,000万円未満

12.千葉県	おおた よしじ 太田 佳志	公益財団法人八千代市文化・スポーツ振興財団 文化事業課	八千代市市民会館			
			開館年	1973年		
			大ホール		1,265席	
No.	〒 276-0044		小ホール		437席	
4	千葉県八千代市萱田町728		–		–	
	TEL 047-483-5111 ／ FAX 047-483-5113		自主事業	c. 11本～20本	事業予算	c. 1,000万円～3,000万円未満

12.千葉県	たなか よしお 田中 芳雄	千葉県鎌ケ谷市 生涯学習部参事（事務取扱）きらり鎌ケ谷市民会館長	きらり鎌ケ谷市民会館			
			開館年	2014年		
			きらりホール		2132.71㎡	
No.	〒 273-0101		–		–	
5	千葉県鎌ケ谷市富岡1-1-3		–		–	
	TEL 047-441-3377 ／ FAX 047-445-6777		自主事業	c. 11本～20本	事業予算	c. 1,000万円～3,000万円未満

13.東京都	まえだ まこと 前田 真	公益財団法人武蔵野文化事業団 事業課 吉祥寺シアター管理係	武蔵野市立吉祥寺シアター			
			開館年	2005年		
			劇場		239席	
No.	〒 180-0004		けいこ場		77㎡	
6	東京都武蔵野市吉祥寺本町1-33-22		–		–	
	TEL 0422-22-0911 ／ FAX 0422-22-0977		自主事業	b. 1本～10本	事業予算	b. 1円～1,000万円未満

13.東京都	ふじい まこと 藤井 周	公益財団法人くにたち文化・スポーツ振興財団 くにたち市民芸術小ホール 主査(係長)	くにたち市民芸術小ホール			
			開館年	1987年		
			小ホール		270～336席	
No.	〒 186-0003		スタジオ		70席	
7	東京都国立市富士見台二丁目48-1		音楽練習室		98㎡	
	TEL 042-574-1515 ／ FAX 042-574-1513		自主事業	d. 21本以上	事業予算	c. 1,000万円～3,000万円未満

14.神奈川県	すがわら まさみ 菅原 雅見	NPO法人こらぼネット・かながわ 横浜市神奈川公会堂・副館長	横浜市神奈川公会堂			
			開館年	1978年		
			講堂		562席	
No.	〒 221-0821		–		–	
8	神奈川県横浜市神奈川区富家町1-3		–		–	
	TEL 045-432-3399 ／ FAX 045-432-3321		自主事業	b. 1本～10本	事業予算	b. 1円～1,000万円未満

【参加者名簿】

公立ホール・劇場　マネージャーコース

14.神奈川県	わだ　ともひこ 和田　知彦	特定非営利活動法人チーム杉劇 事務局長/事業チーフ	横浜市磯子区民文化センター杉田劇場			
			開館年	2005年		
			ホール		314席	
No.	〒　235-0033		リハーサル室		100㎡	
9	神奈川県横浜市磯子区杉田1-1-1 らびすた新杉田4階		–		–	
	TEL 045-771-1212	／　FAX 045-770-5656	自主事業	d. 21本以上	事業予算	-

20.長野県	かいとう　くにお 開藤 邦夫	木曽広域連合 木曽文化公園 館長	木曽文化公園			
			開館年	1990年		
			木曽文化公園文化ホール		716席	
No.	〒　399-6101		–		–	
10	長野県木曽郡木曽町日義4898-37		–		–	
	TEL 0264-23-8011	／　FAX 0264-23-8018	自主事業	c. 11本～20本	事業予算	c. 1,000万円～3,000万円未満

23.愛知県	おかもと　はるき 岡本　晴貴	公益財団法人豊田市文化振興財団 文化部　文化事業課　副主幹	豊田市民文化会館			
			開館年	1975年		
			大ホール		1,708席	
No.	〒　471-0035		小ホール		436席	
11	愛知県豊田市小坂町12-100		–		–	
	TEL 0565-31-8804	／　FAX 0565-35-4801	自主事業	b. 1本～10本	事業予算	b. 1円～1,000万円未満

23.愛知県	いいだ　こうじ 飯田　幸司	公益財団法人豊橋文化振興財団 事業制作部　施設管理リーダー	穂の国とよはし芸術劇場PLAT			
			開館年	2013年		
			主ホール		778席	
No.	〒　440-0887		アートスペース		226席	
12	愛知県豊橋市西小田原町123 番地		–		–	
	TEL 0532-39-8810	／　FAX 0532-55-8192	自主事業	d. 21本以上	事業予算	f. 1億円以上

27.大阪府	かんだ　たかし 神田　尚	公益財団法人箕面市メイプル文化財団 企画総務セクションマネージャー兼グリーンホール館長 兼芸術創造セクションアシスタントマネージャー	グリーンホール（箕面市立市民会館）			
			開館年	1966年		
			グリーンホール		987席	
No.	〒　562-0003		–		–	
13	大阪府箕面市西小路4-6-1		–		–	
	TEL 072-723-2525	／　FAX 072-723-2526	自主事業	b. 1本～10本	事業予算	d. 3,000万円～5,000万円未満

29.奈良県	いまざと　はじめ 今里　元	一般財団法人奈良市総合財団 奈良市北部会館市民文化ホール　事務長	奈良市北部会館市民文化ホール			
			開館年	2004年		
			市民ホール		210席	
No.	〒　631-0805		多目的室①、②		60、24(席)	
14	奈良県奈良市右京1丁目1-4		会議室①、②、③		12、30、30（席）	
	TEL 0742-71-5747	／　FAX 0742-71-5793	自主事業	d. 21本以上	事業予算	c. 1,000万円～3,000万円未満

31.鳥取県	もりやす　けいこ 森安　恵子	公益財団法人鳥取県文化振興財団 総務部副部長兼総務課長	鳥取県立倉吉未来中心			
			開館年	2001年		
			大ホール		1,503席	
No.	〒　682-0816		小ホール		310席	
15	鳥取県倉吉市駄経寺町212-5(倉吉パークスクエア内)		–		–	
	TEL 0858-23-5390	／　FAX 0858-47-025	自主事業	c. 11本～20本	事業予算	b. 1円～1,000万円未満

33.岡山県	みやけ　ゆきこ 三宅　幸子	公益財団法人真庭エスパス文化振興団 事業推進課　課長	真庭市久世エスパスセンター			
			開館年	1997年		
			エスパスホール		501席	
No.	〒　719-3214		–		–	
16	岡山県真庭市鍋屋17-1		–		–	
	TEL 0867-42-7000	／　FAX 0867-42-7202	自主事業	d. 21本以上	事業予算	c. 1,000万円～3,000万円未満

【参加者名簿】

公立ホール・劇場　マネージャーコース

36.徳島県	いわさ　としはる 岩朝　利治	公益財団法人徳島県文化振興財団 事務局長	あわぎんホール（徳島県郷土文化会館）		
			開館年	1971年	
			ホール		809席
No. 17	〒　770-0835 徳島県徳島市藍場町2-14 TEL 088-622-8121　／　FAX 088-622-8123		–		–
			–		–
			自主事業	c. 11本～20本	事業予算　e. 5,000万円～1億円未満

ステージラボ北九州セッション参加者リスト

<table>
<tr><td rowspan="3">都道府県名</td><td rowspan="3">ふりがな
参加者氏名</td><td rowspan="3">所属
職名</td><td colspan="2">担当施設名</td></tr>
<tr><td colspan="2">開館年</td></tr>
<tr><td>ホール1</td><td>座席数</td></tr>
<tr><td rowspan="4">No.</td><td colspan="2" rowspan="3">所属住所
TEL／FAX</td><td>ホール2</td><td>座席数</td></tr>
<tr><td>ホール3</td><td>座席数</td></tr>
<tr><td colspan="2">自主事業</td><td>事業予算</td></tr>
</table>

【参加者名簿】

1.ホール入門コース

01.北海道	おか　しゅんな 岡　俊奈	公益財団法人札幌市芸術文化財団 札幌市教育文化会館事業部　事業課 事業係	札幌市教育文化会館			
			開館年	1977年		
			大ホール		1,100席	
No.	〒　060-0001		小ホール		360席	
1	札幌市中央区北1条西13丁目		–		–	
	TEL 011-271-5822	／　FAX 011-271-1916	自主事業	c. 11本～20本	事業予算	d. 3,000万円～5,000万円未満

08.茨城県	ふるかわ　ななみ 古川　菜奈美	公益財団法人日立市民科学文化財団 市民会館事業課	日立市民会館			
			開館年	1965年		
			日立市民会館ホール		2,251㎡	
No.	〒　317-0073		–		–	
2	茨城県日立市若葉町1丁目5番8号		–		–	
	TEL 0294-22-6481	／　FAX 0294-22-6633	自主事業	d. 21本以上	事業予算	f. 1億円以上

13.東京都	こばやし　ひろかず 小林　弘和	一般財団法人地域創造 芸術環境部　副参事	–			
			開館年	–		
			–		–	
No.	〒　107-0052		–		–	
3	東京都港区赤坂2-9-11オリックス赤坂2丁目ビル9階		–		–	
	TEL 03-5573-4124	／　FAX 03-5573-4060	自主事業	–	事業予算	–

15.新潟県	たむら　あきひろ 田村　明宏	公益財団法人新潟市芸術文化振興財団 新潟市音楽文化会館	新潟市音楽文化会館			
			開館年	1977年		
			ホール		525席	
No.	〒　951-8132		–		–	
4	新潟市中央区一番堀通町3番地2		–		–	
	TEL 025-224-5811	／　FAX 025-224-5813	自主事業	b. 1本～10本	事業予算	b. 1円～1,000万円未満

17.石川県	さかもと　ちひろ 阪本　千尋	公益財団法人金沢芸術創造財団 事業課　主事	–			
			開館年	–		
			–		–	
No.	〒　920-0999		–		–	
5	石川県金沢市柿木畠1番1号		–		–	
	TEL 076-223-9898	／　FAX 076-261-5233	自主事業	b. 1本～10本	事業予算	e. 5,000万円～1億円未満

21.岐阜県	ひらい　けんたろう 平井　健太郎	一般財団法人岐阜市公共ホール管理財団 岐阜市文化センター	岐阜市文化センター			
			開館年	1984年		
			催し広場		1,275㎡	
No.	〒　500-8842		小劇場		500席	
6	岐阜市金町5丁目7番地2		–		–	
	TEL 058-262-6200	／　FAX 058-262-6229	自主事業	c. 11本～20本	事業予算	c. 1,000万円～3,000万円未満

22.静岡県	なかじま　かな 中嶋　佳那	公益財団法人静岡市文化振興財団 静岡音楽館AOI　嘱託職員	静岡音楽館AOI			
			開館年	1995年		
			ホール		618席	
No.	〒　420-0851		講堂		約340㎡	
7	静岡県静岡市葵区黒金町1番地の9		リハーサル室1,2		各約100㎡	
	TEL 054-251-2200	／　FAX 054-253-3322	自主事業	c. 11本～20本	事業予算	e. 5,000万円～1億円未満

22.静岡県	いしい　あきよ 石井　章代	三島市教育委員会 文化振興課	三島市民文化会館			
			開館年	1991年		
			大ホール		1,202席	
No.	〒　411-0035		小ホール		355席	
8	静岡県三島市大宮町1-8-38生涯学習センター4F		–		–	
	TEL 055-983-2672	／　FAX 055-983-0870	自主事業	d. 21本以上	事業予算	c. 1,000万円～3,000万円未満

【参加者名簿】

1.ホール入門コース

24.三重県	はしもと　じゅんき 橋本　順基	公益財団法人三重県文化振興財団 三重県文化会館　事業課　音楽事業係	三重県総合文化センター			
			開館年	1994年		
			大ホール		1903席	
No.	〒　514-0061		中ホール		968席	
9	三重県津市一身田上津部田1234番地		小ホール		285席	
	TEL 059-233-1112 ／ FAX 055-983-0870		自主事業	d. 21本以上	事業予算	f. 1億円以上

24.三重県	くどう　まりな 工藤　真里奈	公益財団法人鈴鹿市文化振興事業団 –	鈴鹿市民会館・鈴鹿市文化会館			
			開館年	1968年 鈴鹿市民会館/1988年　鈴鹿市文化会館		
			鈴鹿市民会館		1,278席	
No.	〒　513-0802		鈴鹿市文化会館		500席	
10	三重県鈴鹿市飯野寺家町810番地		–		500席	
	TEL 059-384-7000 ／ FAX 059-384-7755		自主事業	c. 11本～20本	事業予算	c. 1,000万円～3,000万円未満

26.京都府	いわむら　そらたろう 岩村　空太郎	公益財団法人京都市芸術文化協会 京都芸術センター	京都芸術センター			
			開館年	2000年		
			講堂		330㎡	
No.	〒　604-8156		フリースペース		330㎡	
11	京都市中京区室町通蛸薬師下る山伏山町546-2		大広間		140㎡	
	TEL 075-213-1000 ／ FAX 075-213-1004		自主事業	d. 21本以上	事業予算	e. 5,000万円～1億円未満

28.兵庫県	たけはら　ゆかり 竹原　由香里	公益財団法人神戸市民文化振興財団 事業一部 自主事業チーム	神戸文化ホール			
			開館年	1973年		
			大ホール		2,043席	
No.	〒　650-0017		中ホール		904席	
12	兵庫県神戸市中央区楠町4丁目2-2		–		–	
	TEL 078-351-3535 ／ FAX 078-351-3121		自主事業	d. 21本以上	事業予算	e. 5,000万円～1億円未満

28.兵庫県	たかた　よう 高田　永	公益財団法人伊丹市文化振興財団 いたみホール事業担当	いたみホール（伊丹市立文化会館）			
			開館年	1998年		
			大ホール		1,202席	
No.	〒　664-0895		中ホール		260席	
13	兵庫県伊丹市宮ノ前1-1-3		多目的ホール		150席	
	TEL 072-778-8788 ／ FAX 072-778-8585		自主事業	d. 21本以上	事業予算	d. 3,000万円～5,000万円未満

31.鳥取県	うちだ　まこと 内田　誠	公益財団法人鳥取県文化振興財団 企画制作部　制作・学芸課　主任	とりぎん文化会館（鳥取県立県民文化会館）			
			開館年	1993年		
			梨花ホール		2,000席	
No.	〒　680-0017		小ホール		500席	
14	鳥取県鳥取市尚徳町101-5		–		–	
	TEL 0857-21-8700 ／ FAX 0857-21-8705		自主事業	c. 11本～20本	事業予算	f. 1億円以上

34.広島県	にしおか　めぐみ 西岡　恵	公益財団法人広島市文化財団 東区民文化センター	東区民文化センター			
			開館年	1984年		
			ホール		544席	
No.	〒　732-0055		スタジオ1		141席	
15	広島市東区東蟹屋町10番31号		–		–	
	TEL 082-264-5551 ／ FAX 082-264-5774		自主事業	d. 21本以上	事業予算	b. 1円～1,000万円未満

36.徳島県	いぬぶし　ひろこ 犬伏　比呂子	徳島市 市民環境部　文化振興課　主査	徳島市新ホール（名称未定）			
			開館年	2018年		
			大ホール		1,530席	
No.	〒　770-8571		小ホール		300席	
16	徳島県徳島市幸町2丁目5番地		–		–	
	TEL 088-621-5178 ／ FAX 088-624-1281		自主事業	–	事業予算	–

【参加者名簿】

1.ホール入門コース

40.福岡県	ふくもと　さよこ 福本　紗代子	公益財団法人北九州市芸術文化振興財団 北九州芸術劇場　劇場管理課	北九州芸術劇場		
			開館年	2003年	
			大ホール		1,269席
No. 17	〒　803-0812 福岡県北九州市小倉北区室町1丁目1-1-11 TEL 093-562-2655　／　FAX 093-562-2588		中劇場		700席
			小劇場		96～216席
			自主事業	d. 21本以上	事業予算　f. 1億円以上

40.福岡県	おか　かなこ 岡　加奈子	公益財団法人北九州市芸術文化振興財団 音楽事業課　管理係	北九州市立　響ホール		
			開館年	1993年	
			大ホール		720席
No. 18	〒　805-0062 福岡県北九州市八幡東区平野一丁目1番1号 TEL 093-662-4010　／　FAX 093-662-0100		リハーサル室		173㎡
			研修室		50㎡
			自主事業	c. 11本～20本	事業予算　d. 3,000万円～5,000万円未満

40.福岡県	もり　ともひろ 森　義央	公益財団法人宗像ユリックス 事業部　リーダー	宗像ユリックス		
			開館年	1988年	
			ハーモニーホール		622席
No. 19	〒　811-3437 福岡県宗像市久原400 TEL 0940-37-1483　／　FAX 0940-37-1359		イベントホール		2,309席
			–		–
			自主事業	d. 21本以上	事業予算　e. 5,000万円～1億円未満

40.福岡県	みその　はやた 御園　隼汰	公益財団法人岡垣サンリーアイ文化スポーツ振興財団 管理施設係　管理担当	岡垣サンリーアイ		
			開館年	1993年	
			ウエーブアリーナ		2,254席
No. 20	〒　811-4233 福岡県遠賀郡岡垣町野間1-2-1 TEL 093-282-1515　／　FAX 093-282-1919		ハミングホール		595席
			小ホール		112席
			自主事業	d. 21本以上	事業予算　d. 3,000万円～5,000万円未満

【参加者名簿】

2.音楽コース

04.宮城県	のぐち　まどか 野口　まどか	公益財団法人宮城県文化振興財団 企画事業課　主事	宮城県民会館(東京エレクトロンホール宮城)			
			開館年	1964年		
			大ホール		1590席	
No.	〒　980-0803		–		–	
1	仙台市青葉区国分町3-3-7		–		–	
	TEL 022-225-8641	／　FAX 022-223-8728	自主事業	c. 11本～20本	事業予算	e. 5,000万円～1億円未満

07.福島県	いしかわ　ともき 石川　智己	いわき芸術文化交流館アリオス 企画制作課　嘱託職員	いわき芸術文化交流館アリオス			
			開館年	2008年		
			大ホール		1705席	
No.	〒　970-8026		中劇場		687席	
2	いわき市三崎1番地の6		音楽小ホール		200席	
	TEL 0246-22-7417	／　FAX 0246-22-8181	自主事業	d. 21本以上	事業予算	f. 1億円以上

12.千葉県	いしかわ　きよたか 石川　清隆	公益財団法人千葉市文化振興財団 企画事業課　事務員	千葉市文化センター			
			開館年	1989年		
			アートホール		497席	
No.	〒　260-0013		–		–	
3	千葉市中央区中央2-5-1千葉中央ツインビル2号館　4階		–		–	
	TEL 043-224-8211	／　FAX 043-224-8231	自主事業	c. 11本～20本	事業予算	c. 1,000万円～3,000万円未満

14.神奈川県	いの　だいすけ 井野　大輔	公益財団法人横浜市芸術文化振興財団 協働推進グループ 横浜アーツフェスティバル実行委員会　担当リーダー	ー			
			開館年	–		
			–		–	
No.	〒　231-0015		–		–	
4	横浜市中区尾上町1-8関内新井ビル6F		–		–	
	TEL 045-663-1365	／　FAX 045-663-5606	自主事業	–	事業予算	–

23.愛知県	のだ　ゆうこ 野田　悠子	長久手市 事業係　主事	長久手市文化の家			
			開館年	1998年		
			森のホール		418～819席	
No.	〒　480-1166		風のホール		200～300席	
5	長久手市野田農201番地		光のホール		103席	
	TEL 0561-61-3411	／　FAX 0561-61-2510	自主事業	d. 21本以上	事業予算	e. 5,000万円～1億円未満

32.島根県	あべ　けいこ 安部　啓子	株式会社キラキラ雲南 企画員	雲南市加茂文化ホール　ラメール			
			開館年	1995年		
			大ホール		700席	
No.	〒　699-1105		ふれあいホール		308㎡	
6	島根県雲南市加茂町宇治303番地		–		–	
	TEL 0854-49－8500	／　FAX 0854-49－6200	自主事業	d. 21本以上	事業予算	c. 1,000万円～3,000万円未満

34.広島県	ふじい　りゅう 藤井　竜	公益財団法人福山市かんなべ文化振興会 主事	福山市神辺文化会館			
			開館年	1996年		
			大ホール		814席	
No.	〒　720-2123		小ホール		280席	
7	福山市神辺町大字川北1155-1		–		–	
	TEL 084-963-7300	／　FAX 084-963-7303	自主事業	c. 11本～20本	事業予算	b. 1円～1,000万円未満

34.広島県	つきはし　ともこ 月橋　朋子	公益財団法人廿日市市文化スポーツ振興事業団 事業企画担当	はつかいち文化ホールさくらぴあ			
			開館年	1997年		
			大ホール		1,095席	
No.	〒　738-8509		小ホール		296席	
8	広島県廿日市市下平良1-11-1		–		–	
	TEL 0829-20-0111	／　FAX 0829-32-7160	自主事業	d. 21本以上	事業予算	e. 5,000万円～1億円未満

【参加者名簿】

2.音楽コース

40.福岡県	かんだ　かずのり 神田　和範	公益財団法人北九州市芸術文化振興財団 音楽事業課	北九州市立響ホール			
			開館年	1993年		
			大ホール		720席	
No.	〒　805-0062		リハーサル室		173㎡	
9	北九州市八幡東区平野一丁目1-1		研修室		50㎡	
	TEL 093-663-6661	／　FAX 093-662-3028	自主事業	c. 11本～20本	事業予算	d. 3,000万円～5,000万円未満

40.福岡県	なかの　ゆき 中野　友紀	公益財団法人直方文化青少年協会 ユメニティのおがた	ユメニティのおがた			
			開館年	–		
			大ホール		1031席	
No.	〒　822-0034		小ホール		250席	
10	直方市山部364-4		–		250席	
	TEL 0949-25-1007	／　FAX 0949-25-1001	自主事業	d. 21本以上	事業予算	c. 1,000万円～3,000万円未満

40.福岡県	こばやし　あすか 小林　明日香	公益財団法人宗像ユリックス 事業部　リーダー	宗像ユリックス			
			開館年	1988年		
			ハーモニーホール		622席	
No.	〒　811-3437		イベントホール		2309席	
11	宗像市久原400		–		–	
	TEL 0940-37-1483	／　FAX 0940-37-1359	自主事業	d. 21本以上	事業予算	e. 5,000万円～1億円未満

40.福岡県	かげ　たかゆき 鹿毛　貴之	公益財団法人太宰府市文化スポーツ振興財団 事業課事業係	プラム・カルコア太宰府			
			開館年	1986年		
			市民ホール		602席	
No.	〒　818-0125		–		–	
12	太宰府市五条三丁目1番1号		–		–	
	TEL 092-920-7070	／　FAX 092-920-7149	自主事業	b. 1本～10本	事業予算	b. 1円～1,000万円未満

41.佐賀県	なかしま　ともか 中島　知佳	嬉野市役所 市民福祉部　文化・スポーツ振興課　文化振興専門員	リバティ[嬉野市社会文化会館]			
			開館年	2014年		
			リバティ[嬉野市社会文化会館]		4,684㎡	
No.	〒　849-1425		–		–	
13	嬉野市塩田町大字五町田甲628番地		–		–	
	TEL 0954-66-9320	／　FAX 0954-66-9321	自主事業	b. 1本～10本	事業予算	b. 1円～1,000万円未満

43.熊本県	かわばた　しんいち 川端　慎一	熊本県菊陽町役場 菊陽町図書館　図書館係長	菊陽町図書館			
			開館年	2003年		
			菊陽町図書館ホール		500席	
No.	〒　869-1102		–		–	
14	菊池郡菊陽町大字原水1438-1		–		–	
	TEL 096-232-7756	／　FAX 096-232-7761	自主事業	b. 1本～10本	事業予算	b. 1円～1,000万円未満

45.宮崎県	くぼた　ようこ 久保田　陽子	公益財団法人都城市文化振興財団 事業課主事	都城市総合文化ホール			
			開館年	2006年		
			大ホール		1461席	
No.	〒　885-0024		中ホール		682席	
15	都城市北原町1106-100		–		–	
	TEL 0986-23-7140	／　FAX 0986-23-7143	自主事業	d. 21本以上	事業予算	c. 1,000万円～3,000万円未満

【参加者名簿】

3.演劇コース

01.北海道	きよはら　けん 清原　健	公益財団法人札幌市芸術文化財団 芸術の森事業部事業課 事務職員	札幌芸術の森		
			開館年	1986年	
			芸術の森野外ステージ		椅子席約450席、芝生席約2000席
No.	〒　005-0864		芸術の森アートホールアリーナ		645㎡
1	札幌市南区芸術の森2丁目75番地		–		–
	TEL 011-592-4125　／　FAX 011-592-4120		自主事業	d. 21本以上	事業予算　f. 1億円以上

12.千葉県	さいとう　まり 斉藤　麻理	公益財団法人千葉市文化振興財団 アーツステーション課　主任主事	千葉市文化センター		
			開館年	1989年	
			アートホール		497席
No.	〒　260-0013		–		–
2	千葉市中央区中央2-5-1千葉中央ツインビル2号館4階		–		–
	TEL 043-224-8211　／　FAX 043-224-8231		自主事業	c. 11本～20本	事業予算　c. 1,000万円～3,000万円未満

13.東京都	とだて　まさふみ 戸舘　正史	一般財団法人地域創造 芸術環境部　芸術環境専門職員	–		
			開館年	1994年	
			–		–
No.	〒　107-0052		–		–
3	東京都港区赤坂2-9-11オリックス赤坂二丁目ビル9階		–		–
	TEL 03-5573-4124　／　FAX 03-5573-4060		自主事業	–	事業予算　–

15.新潟県	ないとう　ようすけ 内藤　陽介	公益財団法人新潟市芸術文化振興財団 事業企画部　演劇企画課	りゅーとぴあ　新潟市民芸術文化会館		
			開館年	1998年	
			コンサートホール		1,884席
No.	〒　951-8132		劇場		868席
4	新潟県新潟市中央区一番堀通町3番地2		能楽堂		382席
	TEL 025-224-5615　／　FAX 025-2224-5626		自主事業	d. 21本以上	事業予算　f. 1億円以上

24.三重県	いまい　かな 今井　香菜	公益財団法人三重県文化振興事業団 三重県文化会館 演劇事業係長	三重県文化会館		
			開館年	1994年	
			大ホール		1,903席
No.	〒　514-0061		中ホール		968席
5	三重県津市一身田上津部田1234（三重県総合文化センター内）		小ホール		最大322席
	TEL 059-233-1100　／　FAX 059-233-1106		自主事業	d. 21本以上	事業予算　f. 1億円以上

28.兵庫県	しまさき　ゆかり 嶋崎　ゆかり	特定非営利活動法人コミュニティーアートセンタープラッツ –	豊岡市民プラザ		
			開館年	2004年	
			ほっとステージ		250席
No.	〒　668-0031		–		–
6	兵庫県豊岡市大手町4-5アイティ7階		–		–
	TEL 0796-34-6078　／　FAX 0796-24-3004		自主事業	d. 21本以上	事業予算　b. 1円～1,000万円未満

28.兵庫県	おち　じゅんこ 越智　淳子	公益財団法人宝塚市文化財団 係員	宝塚市立宝塚文化創造館		
			開館年	2011年	
			講堂（文化交流ホール）		215.8㎡
No.	〒　665-0844		–		–
7	宝塚市武庫川町6番12号		–		–
	TEL 0797-87-1136　／　FAX 0797-87-1191		自主事業	d. 21本以上	事業予算　c. 1,000万円～3,000万円未満

34.広島県	ますじま　たまみ 升島　圭美	公益財団法人広島市文化財団 アステールプラザ　事業推進員	JMSアステールプラザ		
			開館年	1991年	
			大ホール		1,204席
No.	〒　730-0812		中ホール		547席
8	広島県広島市中区加古町4-17		多目的スタジオ		224席
	TEL 082-244-8000　／　FAX 082-246-5808		自主事業	d. 21本以上	事業予算　e. 5,000万円～1億円未満

35.山口県	たなか　まゆみ 田中　真由美	一般財団法人宇部市文化創造財団 企画課	宇部市渡辺翁記念会館・宇部市文化会館			
			開館年	1937年／1979年		
			宇部市渡辺翁記念会館		1,353席	
No.	〒　755-0013		宇部市文化会館文化ホール		501席	
9	山口県宇部市朝日町8番1号		–		–	
	TEL 0836-35-3355 ／ FAX 0836-31-7306		自主事業	b. 1本～10本	事業予算	c. 1,000万円～3,000万円未満

39.高知県	つつい　りょうた 筒井　亮太	公益財団法人高知市文化振興事業団 企画事業課 生涯学習担当	高知市文化プラザかるぽーと			
			開館年	2002年		
			大ホール		1,085席	
No.	〒　780-8529		小ホール		258.7㎡	
10	高知県高知市九反田2-1				258.7㎡	
	TEL 088-883-5071 ／ FAX 088-883-5069		自主事業	c. 11本～20本	事業予算	c. 1,000万円～3,000万円未満

40.福岡県	いのまた　はるか 猪股　春香	公益財団法人福岡市文化芸術振興財団 事業課　事業係　事業コーディネーター	–			
			開館年	–		
			–		–	
No.	〒　810-0802		–		–	
11	福岡市博多区中洲中島町3-10　福岡県消防会館6階		–		–	
	TEL 092-263-6265 ／ FAX 092-263-6259		自主事業	c. 11本～20本	事業予算	e. 5,000万円～1億円未満

40.福岡県	なんぶ　しずか 南部　靖佳	公益財団法人直方文化青少年協会 ユメニティのおがた	ユメニティのおがた			
			開館年	1999年		
			ユメニティのおがた		1,031席	
No.	〒　822-0034		–		–	
12	福岡県直方市山部364-4		–		–	
	TEL 0949-25-1007 ／ FAX 0949-25-1001		自主事業	d. 21本以上	事業予算	c. 1,000万円～3,000万円未満

40.福岡県	わたなべ　あやこ 渡辺　彩子	公益財団法人大野城まどかぴあ 文化芸術振興課 文化芸術振興担当	大野城まどかぴあ			
			開館年	1996年		
			大ホール		783席	
No.	〒　816-0934		小ホール		118席	
13	福岡県大野城市曙町2丁目3-1		多目的ホール		300席	
	TEL 092-586-4040 ／ FAX 092-586-4021		自主事業	d. 21本以上	事業予算	e. 5,000万円～1億円未満

平成27年度ステージラボ事業報告書

～　公共ホール等企画運営ワークショップ～

編集・発行　　一般財団法人地域創造
〒107-0052　東京都港区赤坂２－９－１１
オリックス赤坂２丁目ビル９階
電　話　０３－５５７３－４０５０
ﾌｧｸｼﾐﾘ　０３－５５７３－４０６０

平成２８年６月発行